鹿児島県日中友好協会創立 20 年
鹿児島市日中友好協会創立 40 年

# 記念誌

# 東方友誼

鹿児島県・市日中友好協会
令和7年（2025年）

# 『目次編』協会の歴史

## 鹿児島県･市日中友好協会20･40年の軌跡（主な催事）

上の QR コードをスマホで撮って文章とともにご覧ください

1982（昭和 57）　**長沙市と友好都市盟約**

1985（昭和 59）　**鹿児島市日中友好協会設立（９月）**

1993（H5）　第１回日本語弁論大会（赤塚学園主催）

2002（H14）　**長沙市と友好 20 周年（中村　義講演会『黄興と西郷』）**

2003（H15）　**『第９回日本語スピーチコンテスト』**

2004（H16）　**女性部発足　『東方友誼』**　協会広報紙創刊号

2005（H17）　**市日中友好協会 20 年記念『鹿児島県日中友好協会設立』**
**『鹿児島市日中友好協会観光交易部発会』**

2006　(H18)　**江西省九江学院５名来訪（**４月）

2007（H19）　**友好都市盟約 25 周年『黄興先生南洲墓地参詣之碑除幕式』**

2008（H20）　四川省地震留学生募金（天文館）大浪の池登山

2009 (H21)　**『長沙市日本節ジャパンウイーク』**11 月 21 日～22 日)
県日中総会（古森講演）女性部（おはら祭 in 長沙）

2010（H22）　**長沙市経済訪問団**　（雷副会長ほか９名）

2011（H23）　**辛亥革命 100 年記念、企画・西日本新聞社取材**

2012（H24）　尖閣国有化（９月 11 日）反日デモ激化(15～18 日)
**幻の友好盟約 30 周年『長沙文化フェア歩歩高』交易部**

2013（H25）　花の瀬（大隅）**留学生サマーキャンプ**がこの年から始まる
吉永英未の復旦大学留学日記**長沙日本語日本語教師滞在記**
**第１回『全日本中国語スピーチコンテスト鹿児島大会』**

2014（H26　）**『中国人養父母感謝の碑除幕式』法要は西本願寺**

2015 (H27)　**『チャイナサロン開設』**（若者の語学交流サロン)』

2016（H28）　九州日中友好交流会議・九州地区ブロック会議・中日会議

2018（H30）　長沙市の小学校からの鹿児島の小学校との来訪交流㉖

2019（令１）　**コロナ禍発生！**12 月・23 年迄活動縮小

2021（令３）　「鹿児島県日中友好協会**女性委員会**」設立記念式典

2022（令４）　市日中協会総会にて会長交代　海江田順三郎から鎌田敬へ
南洲墓地**黄興の詩の解釈論**争起こる。

2023（令５）　昨年は長沙市と「**友好盟約 40 周年**」コロナ禍のため中止

2024（令６）　県日中定時総会にて会長変更海江田順三郎から**鎌田　敬**へ

2025（令７）　５月５日**海江田順三郎名誉会長逝去。**㉕
６月『九州ブロック会議・宮崎市開催』
７月 25 日**新盛辰雄**協会名誉顧問逝去。

11 月３日『鹿児島市日中友好協会創立４０年・県日中友好協会創立 20 年記念大会』

鹿児島県日中友好協会創立２０年・鹿児島市日中友好協会創立４０年

# 1982年　鹿児島市・長沙市「友好都市盟約締結」詳細

１９８１年（昭和５６年）１１月7日（土）から１週間
鹿児島市は**助役の日高又弘氏**をトップに**鹿児島市友好親善訪中団（２０名）**を中国に派遣した。
目的は「鹿児島市と友好都市選定」であった。私も経済界からの代表として参加した。
市議６名、報道（マスコミ関係）４名、あとは市の関係者（課）と地区や婦人部代表など・・・私、海江田は経済団体の本坊氏が急に行けなくなってピンチヒッターでのメンバー入りでした。
行く前に北京政府に問い合わせて見たら、主だった中国の省都はもうほとんど日本の各県庁所在地と友好都市盟約がなされおり残っているのは江西省の南昌市と湖南省の長沙市ぐらいだった。

日中国交の功労者、**二階堂進先生**の出身県の県都ということに配慮した中国政府が、推薦したというのが理由ではあったが。私たちは先ず、１１月７日（土）鹿児島発の大阪空港経由（中国民航９１６便）で上海に飛んだ。
その日は上海（工芸美術研究所や魯迅記念館を訪れ）翌１１月８日上海発（直快列車で）江西省の南昌市を訪れた。
**１１月９日**：「八一起義記念館や南昌市革命委員会を表敬訪問，同市主催の歓迎宴を受け
**１１月１０日**も終日、八大山人館、南昌師範付属小学校、八一公園、青年たちとの意見交換会。鹿児島市主催の答礼宴など…よく１１日（水）に直快列車で湖南省の長沙に向かった。
**１２日（木）**春華山人民公社、湖南省博物館、長沙市人民政府表敬訪問、同市主催の歓迎宴。
**１３日～１４日（土）**磁器工場、刺繍工場、第一中学校、意見交換会、岳麓山・・同氏の歓迎宴と鹿児島市主催の答礼宴そして観光についての意見交換会・・・充実した２日間だった。参加者の多くも鹿児島の城山に似た山（岳麓山）や大きな川（湘川）が似ていてスケールは大きいけど親しみが湧く・・などの意見多く、鹿児島市の友好都市としては長沙市に傾いた感じがした。しかし、決まった後は親しい友の間からは「何で、あんな奥まった中国の田舎に決めたのか？」との不満の声も多かった。
この段階では、黄興が長沙市出身で、「湖南は中国の薩摩である！」「黄興は中国の西郷隆盛！」などと、鹿児島と長沙が深い因縁で結ばれていたことなどは、知らない事だった。

1982年（昭和57年）10月30日

## 長沙市市長を迎えて　友好都市盟約締結

（昭和５７年）鹿児島市は山之口市長を中心に前年の訪中団に加わつた市議や市職員等の詮議の結果、長沙市を鹿児島市の友好都市に選んだ。長沙市からの訪日団との間で「**友好都市盟約**」が結ばれた。
**１９８３年（昭和５８年）**両市の市長一行の相互訪問により**「鹿児島市・長沙市友好都市盟約」が締結された。**２月に鹿児島市は友好都市盟約を記念に**「友好代表団２０名」が9泊１０日の訪問団**を派遣した。

**当協会理事の塩田孝美（当時。南日本新聞社報道部記者）氏**の７段記事（上・中・下）３日連続記事からいくつか貴重な、当時の中国・長沙市の風景を覗いてみたいと思う。・・・・全旅程を長沙市の外事

長沙市橘子洲頭にて

弁公室の職員二人が付きっ切りでお世話してくれた。旅先での印象や、出会った人々のエピソードなどを通じて、長沙市民の今の気質や暮らしぶりを報告しよう。
着いたのは春節（１３日）の約１週間前とあって、晴れ着や食べ物を買い求める人がデパートや市場にあふれていた。豚肉・鶏肉・魚をむき出しのままぶら下げて家路を急ぐ姿をよく見かけた。
市民の１月の平均給与は６５元（約八千円）デパートを覗くと、１４インチカラーテレビが八百元、とても買えない物ばかり。それでも、「ぜいたくしなければ、１８元で十分生活できる」と市民たちは語る。

昭和58年(1983年)2月19日　土曜日　18

ニッポン長沙　鹿児島友好団同行記　<上>

平均賃金8千円

TVの普及率は3割

あふれる自転車

職場からの支給

ニッポン長沙　鹿児島友好団同行記　<中>

誇り高き市民

理由なきチップ拒む

平等互恵の精神

大切なのは誠意

経済的には日本の ２、３十年前と思えばよさそうだ。友好代表団一行の一眼レフやバカチョンカメラ（富士フイルム）が珍しいと見え、ストロボをたいて撮影するとみんなびっくりして振り返った。
　人口の多さは国家の経済負担につながるようで、一夫妻一子運動を進めるスローガンが目立つ。「晩婚晩生,
少生 育」や「限生人口増長」などのなどの立看板、垂れ幕が眼だった。
　熱烈歓迎を受けただけでなく代表団も代表団も答礼訪問と親善という両局面の任務を果たしたと思う

## 鹿児島県日中友好協会創立２０年・鹿児島市日中友好協会創立４０年

## １９８５年９月　**鹿児島市日中友好協会　設立**

田中角栄総理大臣とともに

鹿児島市にも日中友好協会を作らなければという話になりました。
**山之口市長**を会長に作ろうとしたら「いや！民間で作った方がいい」と言われ、初代会長には「俺は戦前、中国に行っていたからなってもいい」と言った越山海運の**越山社長**が就任した。
従って当時は海外貿易関係者や満鉄関係者などが中心の協会だった。その後、二代目会長に小牧建設の小牧勇藏氏がなられた。活動は地味で、当時、政界で活躍しておられた**二階堂　進先生が小牧建設の顧問**をしておられたので、先生が偉い方などを鹿児島に呼ばれると小牧建設が受け入れ（接待）を引き受けられた陰の力が多かった。
市民との活動はほとんどしておられなかったようだ、とは当時から協会の顧問をしておられた現在も協会名誉顧問の新盛辰雄（元衆議院議員）さんも思い出話でよく語られます。**その後、私（海江田順三郎）が三代目を引き受けました。**　*１９８５年９月*　鹿児島市日中友好協会設立当時の会員数８２名（内役員３０名　個人５２名）

・・・・海江田会長は協会を日中民間交流の場として広げていこうと思われていた。２０００年以降に大石が知った活動では鹿児島大学中国留学生らと日本人学生の同じテーブルでの交流広場を開設したいと南日本新聞に掲載されていたのを見たことがあったけど、本格的な広報活動の始まりは**次の鹿児島市と長沙市の友好都市盟約２０年**目の企画催事だった。

昭和 57 年（**1982 年**）鹿児島市と長沙市の友好都市の盟約が、両市の市長一行の相互訪問により締結の運びに至った。**それから 10 年後の 1992 年に 10 年振りに 2 度目の長沙訪問**から帰ってロータリークラブで長沙の話をしたところ島津修久氏（島津家 32 代当主）から「長沙で黄興の旧蹟を見て来られましたか？」と問われた。

私が「いいえ」と答えると「友好都市なのにあまり黄興にはあまり関心がないですね」と不満げにつぶやかれた。

私は肝心なもの（黄興が長沙の出身であったことに気づかなかったこと）、を見落としてきた不明を恥じ、湖南師範大学が出版した黄興研究誌を取り寄せた。この中に東京学芸大学の**中村義名誉教授の論文「黄興と日本」**が掲載されており、黄興が大変な西郷南洲の崇拝者であったと記述されていた。

容貌魁偉，寡言黙考、豪胆聡明、名文家にして能書家、選ばれて日本に留学した（弘文学院）早くから民族主義に目ざめ、満州族の清朝打倒を志した。豪傑肌で会った』とある

。

漢民族による三民主義の近代国家を目指した辛亥革命は、日本の明治維新に範を求め、孫文の率いる広東派と黄興の湖南派（華興会）が、薩長連合よろしく日本で統合し、革命の推進力を持つに至った 1909 年（明治 42 年）肝胆相照らす盟友であった宮崎滔天の案内で鹿児島を訪れ、南洲墓地で南洲追悼の詩を賦して。

湖南は必ず中国の薩摩になるべし。我は中国の西郷南洲たらん、と力説した黄興は生涯、南洲に傾倒した。**鹿児島・長沙の友好都市盟約 20 周年に当たる 2002 年**（12 月 20 日・黎明館ホールにて）鹿児島市日中友好協会主催で中村教授の**『辛亥革命の志士黄興と西郷南洲』と題する記念講演会が始まった。**

細かい資料ですが現在ある日中友好協会の活動の始まりは２００２年に一気に花開いたと言えます。この年は長沙市との友好盟約２０周年と日中国交３０年記念の年で海江田順三郎会長がこの年内でなければ記念年にならないんですから是が非でも 2002 年にと。年末の１２月１８日に催行しました。そして、協会の実際の（今の形の）活動はこの年から始まりました。

## １９９２年は友好都市盟約１０周年目ですが、この年の話を想いだしてお話ししましょう。

私（海江田）は楊名時太極拳の鹿児島支部長を務めていたが、中国制定拳の教室を主宰している前田修師範から、

「挨拶役の団長を』仰せつかった。

友好都市の長沙市をはじめ西安・北京の３氏を廻り、各会の表敬訪問が多く団長を依頼された理由が呑み込めた。

出発前に２代目鹿児島市日中友好協会会長の小牧勇藏先輩から、北京に行ったら中日友好協会に挨拶に行くよう指示されていたので、私は前田副団長と、顧問の陳金和氏と協会に立ち寄った。待っていると、なんと孫平化先生が入ってこられ「やぁ！よくおいでになりました」と流ちょうな日本語で迎えてくださった。

あなた方の訪中は二階堂先生から電話でお聞きしました」と、二階堂氏と長年にわたる交流や、日中関係の重要さについて淡々とした口調で話された。

鹿児島市と長沙市との友好都市盟約に話が及んだ時、孫会長は湖南省の衡陽市と株州市の名を私の手帳に書き込まれ」この２都市はまだ日本と友好都市関係を結んでいません。鹿児島県内の適当な詩を紹介していただきたい」と要請された。帰国後、衆議院議員会館に二階堂先生をお訪ねして「孫先生よりご厚誼を賜りました」と報告した。

先生は「鹿児島の小牧会長から君たちのことを聞いたので、北京に電話して孫さんに「うちの連中が、そちらに行くのでよろしく頼む」とお願しておいたよ」と機嫌よく話された。なるほど、孫会長は私たちを、身内の者と思われ、丁重にもてなしていただけたに違いない。身に余る僥倖を感謝せずにはおれなかった。

尚、孫会長に要望された友好都市の盟約は滋賀県の２都市間で結ばれた。滋賀県と湖南省の強い結びつきに感謝と羨望を感じざるを得ない。

## 鹿児島県日中友好協会創立 20 年・鹿児島市日中友好協会創立 40 年

**日中復交３０周年＆長沙市と友好都市盟約２０年記念**

**中村　義（東京学芸大学名誉教授）講演会**

# 『中国辛亥革命の志士・黄興と西郷南洲』

2002年（平成14年）12月20日（金）午後２時～４時　黎明館講堂（鹿児島市城山町７の２

先ず開催を告知した南日本新聞（開催２日前と２日後）

**平成 14 年 12 月 18 日　南日本新聞**

『中国の西郷隆盛』とも呼ばれ、孫文とともに辛亥革命（１９１１年）を指揮した湖南省長沙市出身の革命家黄興（1874～1916）についての講演会が２０日午後２時から、鹿児島市の黎明館である。日中復交三十周年と鹿児島、長沙市の友好都市締結二十周年を記念して鹿児島市日中友好協会が企画した。

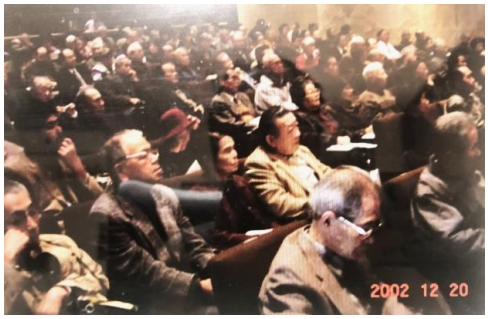
黄興は孫文などと共に「革命の三尊」に挙げられる。日本に留学中、宮崎滔天の紹介で東京で孫文と知り合い革命を目的とした中国同盟会を結成。これは黄興と孫文をそれぞれ、西郷と木戸孝允にになぞらえ「中国版薩長同盟」と呼ばれる。黄興はその後、辛亥革命では革命軍を指揮した。

また、日本で明治維新を成し遂げた西郷を尊敬「湖南は必ず中国の薩摩になるべし、我は中国の西郷南洲たらん」と力説し、ずんぐりとした体形からも『中国の西郷』と呼ばれた。1909 年、南洲墓地を参詣している。

**講演会では東京学芸大学の中村　義名誉教授が「辛亥革命の志士黄興と西郷南洲」と題して話す。**

同協会の海江田順三郎会長は「鹿児島と長沙は革命を通して以前からつながりがあった。西郷と黄興にスポットを当てて市民レベルで友好を強めたい」と話している。　無料。問い合わせは海江田一電話・・・・・・・・・・。

**平成１４年１２月２２日**　南日本新聞




・・・中村義・東京学芸大学名誉教授は「中国の近代をリードした人々は西郷の生き方を手本として自分を励ました」と中国側から見た“西郷像”について語った。

中村教授は「孫文は『明治維新は中国革命の第一歩、辛亥革命は第二歩」と話しており、両革命にはつながりがあった」ことを紹介。「理論派の孫文に対して黄興は実践派。文武両道で『平等居』と名付けた自宅で若い人の話を聞いたり自由に討論するなど人気があり信頼された」などと人柄について話すと、会場にはうなずく姿もあった。又、渡辺信雄さん（会顧問）を同協会が特別表彰。

鹿児島・長沙の友好都市盟約 20 周年に当たる 2002 年（12 月 20 日・黎明館ホールにて）鹿児島市日中友好協会主催で中村教授の『辛亥革命の志士黄興と西郷南洲』と題する記念講演会が始まった。・・中村でございます。私と海江田先生とのいきさつは先程、海江田先生のほうからお話があったとおりでございます。黄興についてのお問い合わせのお手紙やお電話はございましたが、お会いするのは、今回が初めてでございます。鹿児島に参りますのも 20 年ぶりでございます。この後は協会ホームページの黄興編❹に詳しく続います。

## 鹿児島県日中友好協会創立 20 年鹿児島市日中友好協会創立 40 年

## 中村　義　講演（西郷と黄興）❷　中村　義『論文』より抜粋

『中国近代史における西郷隆盛像』　東京学芸大学紀要第三部門　社会科学 39 集

### （二）革命派と西郷論について語る

孫文と共に中国辛亥革命の代表的志士であった黄興先生は、１８７４年、湖南省長沙市の学者の家に生まれた。性格は寡黙で沈着豪胆、体格も偉大で英雄の風格があり,名文家,能筆家としても有名。

１９０２年、選ばれて日本に留学し、東京の弘文学院に入学したが早くから民族主義に目ざめ「華興会」の会長に推挙されるや。孫文の「興中会」と日本で統合を図り、１９０５年「中国同盟会」を結成して、清朝を打倒し、中国の民主化を目ざす革命運動の推進力となった。黄興先生は１９１６年、志半ばにして上海でその波乱に満ちた生涯を閉じ、後に故山の長沙市岳麓山に国葬を以って埋葬されたが、終生、中国の西郷南洲を自認し、南洲翁の人格と思想に傾倒した。・・

毎日頭條
同盟會成立前發生了一件怪事，眾人為此愁眉苦臉，幸得孫中山化解- 毎日...
表示

さて西郷隆盛といえば、通説では「征韓論者」として知られている。
従って当然、この点に言及しなければならない。そこで、明治期、中国人留学生が、この西郷の征韓論をどの様にうけとめているかを述べておきたい。・・・「明治時期、法政大学に野村浩一という講師がいた。彼の講義を聞いた中国人留学生は湖の講義をもとにして、彼等自身の「日本明治維新小史」（明治 39 年）を編集し出版している。その一節「征韓論」によると、日本の征韓論には三種あって、その一つは副島種臣の強硬論で、日本が列強に軽視されない為に、朝鮮に断乎たる態度をとるということである。次に後藤象次郎のように、内政の危機を外に転嫁して解決を求める為にとられる征韓論があり、もうひとつは西郷のそれであるする。

西郷の征韓論は名分を以て対応しょうとする。すなわち自分一人で韓国王に会い、もし、信にもとるならば兵を出すというのである。つまり始めから、何でもかんでも出兵するのではない。話し合うことを主張しているとする。したがって、明治末期の中国人留学生には、すくなくとも、西郷に積極的侵略をめざす征韓論者というイメージはない。

**さらに西南戦争についてみると、西郷の挙兵はけっして彼の真意ではないとする。**　もし彼が最初から反政府であったとすれば、神風連に破れた江藤新平が匿って欲しいと頼んだ時、助ける筈であるという。（途中、略する）・・・「ともあれ、こうした征韓論が留学生の明治史学習のテキストに掲載されていることは興味ぶかい。勝海舟の西郷を悼む心情は、西郷の死の直後より「亡友帖」を版行して、知人に配布し、西郷を偲んでいた。この勝による西郷の復権過程での試作であ

ったという。中国人留学生が西南戦争と西郷の死をこのような勝の詩で結んでいることに興味を覚える。侠の精神を媒介に西郷隆盛に共鳴した革命派の一部には，その関心が西郷の活動の基盤である薩摩藩にも向けられた。

・　・・40 年前，尊皇討幕が成功し、国是が定まったのは卓越した指導者がいたからである。（途中、略）湖南は尚武を好み、薩摩の風がある。日本建国は薩摩に依存したが、将来の支那も湖南に頼らんとするものである。と。ここに西郷の根拠地として薩摩が登場し、尚武が強調される。

すでに多くの研究者が指摘しているように、中国近代百年の政治変革の歴史をみる時、湖南省の占める位置は大きい。常に全中国の波頭に立っていた。

その自尊の精神の表現が、日本にたとえて、湖南省こそ中国の薩摩たらんとする信念の披瀝になる。その自己主張構築の論理の原点として、西郷が存在していることはいうまでもない。湖南省系の機関紙『游学訳編』がそれを証明している。

**○　いったい何が中国人の心を惹きつけたのであろうか？清末から１９３０年代にかけて中国における西郷の軌跡をさぐり西郷が中国近現代史にどのような影を落としていたか考察したい。**

日本で陸軍士官学校で学んでいた**蔡鍔**は**梁啓超**との結びつき、黄興との関係も深く、かつ後の護国軍の領袖として、反袁世凱運動を指導したのであるが、この彼の政治的行動の出発点に西郷がおり、湖南省=薩摩論があったことは興味深い。彼は次のように述べる。湖南省は中国での薩摩にならなければならない。

中国は大邦であり、故に湖南は大薩摩である。湖南が変われば中国はこれに続くと信じる。それ故、同士は団結して立ち上がろう。・・・と。

**（(二)革命派と西郷論 184 頁下段）**

【蔡鍔は黄興と深い関係があり後の護国軍の領袖として**反袁世凱運動**を推進。第三革命の立役者。余談だが美男子の誉れ高い。黄興と同じ年（１９１６年）に亡くなり、長沙市で葬儀して岳碌山に黄興と並んで碑が建っている】。

○「民報」創刊一周年慶祝大会が 1906 年 12 月２日、東京で行われた。主催者側地して、黄興が挨拶した。

その一説に「ヨーロッパの革命では、学生が大きな役割を果たした。日本の革命でも、西南の役の西郷隆盛が率いた義軍は鹿児島私学校の学生である。これをみると、日本の革命事業も学生が担っている。」・・とある。この集会は『民報』発刊一周年を迎えての革命の気運を盛り上げようとしたものであり、留学生が多かったので彼らへのアジテーションであったと受け取ることができよう。

**【三】黄興と西郷 185 頁上段）**

○「一口で黄興を語れば、彼は底力（そこじから）の知れぬ、ちょうど我が西郷南洲のごとき人物だった。　彼はへいせいから深く西郷に私淑し、西郷の経歴や、言行などについて、細かく調べておった・・・彼はいわゆる才子ではないが、度胸のよい、死ぬぐらいのことは朝飯前の仕事くらいに思っていた。

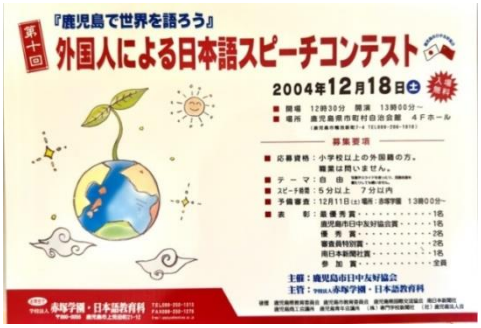
**『辛亥革命の志士黄興と西郷南洲』中村義講演ですが、ここは記念誌には掲載しません。**

# 日本で世界を語ろう　外国人による日本語スピーチコンテスト

https://youtu.be/8vpQtGZ4QF0?si=ZbOlzVufMArNZScd

現在も続いている協会イベントの中で鹿児島で世界を語ろう~『外国人による日本語スピーチコンテスト』は例外である。今年第３０回目を迎えた鹿児島県国際交流協会が主催している上記、『外国人による日本語スピーチコンテスト』は 2007 年（平成 18 年 1 月 20 日）の第 12 回より再スタートした。

それ迄の 11 回は赤塚学園と鹿児島市日中友好協会が行って来た。さらに詳しく言うと、**1993 年平成 5 年**に赤塚学園に鹿児島で初めて日本語教育科が新設されそれを記念して第１回の『**日本語弁論大会**』が赤塚晴彦理事長のもと赤塚学園が主催で始められた。




## スピーチコンテスト（協会）の変遷

赤塚晴彦氏は、鹿児島市日中友好協会の副会長をされており、ほとんど名ばかりであまり活動をしていなかった協会が企画部、女性部などを新設し、協会活動を進めていくことになり中国留学生の多かった学園と協会がジョイントしてスピーチコンテストを進展することになった。そして、**第 10 回の 2004 年（平成 16 年）から**キャッチフレーズの【鹿児島で世界を語ろう】はそのままに弁論大会をスピーチコンテストに変えて鹿児島市日中友好協会が主催（運営経費を持つ）そして実際の進行を赤塚学園の先生方の手を借りる形で始まった。

## 外国人による日本語スピーチコンテスト　『鹿児島で　世界を語ろう』

**鹿児島市日中友好協会副会長･赤塚学園　　理事長　赤塚晴彦**

『鹿児島で世界を語ろう』は大園純也氏（前・南日本新聞社社長、現・鹿児島大学常任理事）の発案である。歴史的に日本文化の原点は暖かい南　風と黒潮に乗って、鹿児島経由でもたらされた。然し、長い鎖国時代を経て　四海兄弟となすことなく、日本人の常識は世界の非常識、日本人の非常識は世界の常識、と言われて久しい。「ご飯茶碗を　手に持って頂くのは乞食食い、食卓に置いたまま戴くのは犬食い」「玄関で客人の靴先の向きを変えるのは、すぐ帰れと言う意味」「白いバラの花は葬儀の時」「手紙はトイレットペーパー」「日本人はもっとお洒落をしていい、茶髪はどうしていけないの？」などなど私たちは日本語弁論大会（注：初めの数回まではこう呼んでいました。日中友好協会が主催になった時からスピーチコンテストに変更しました）を通して、留学生から多くの教訓を学ばせて頂いている。予選・本選にエントリーされた様々な国籍の留学生は４００人を下らないだろう。

そして、現実、多くの留学生がこの地を去る。峻厳にして鹿が棲む麗しの国―鹿児島、だが、彼らは再びこの地に戻ることはない。　明治以降、本県は北への人材供給地であった。

長い未曾有の大不況を抱えたまま２０世紀から２１世紀を迎えた。トンネルの確かな出口はまだ見えない。この間、国際情勢は大きく変化した。

国際社会に向け私たち自身の真摯な意識改革、発想の転換が強く求められる。留学生を良きパートナーとし、お互い切磋琢磨して新たな感性を磨き、異文化が激しくぶつかり合い、何でもがぶ飲みしてしまう。おおらかで懐深く、偏見のない地域社会の創出が強く要請される。留学生を受け入れるに最適なインフラは整備されているか。

今年は、関係者各位のアイデアを再結集して、装い新たに『**第十回**記念・鹿児島で世界を語ろうー日本語弁論大会』が企画・進行中である。

在鹿児島留学生にとって、また鹿児島県、市民にとって、２１世紀のインターネット・ボーダレス時代から相応しく、そして鹿児島と世界を結ぶ、実り多い架け橋になって欲しいと心から希っている。

開催日：１２月１８日（土）　固唾を呑んで待つ毎日である。

## 2007 年（第１２回）から主催が鹿児島県国際交流協会に移行しました。

https://youtu.be/m2OgxOkUeYo?si=ffDaMnK8SLNYtxd1

その後、協会会長の海江田順三郎がコンテストへの出場者が中国人が確かに多いけど半分以上が他のアジア（アセアン）と欧米人もそれなりに出場するのに主催が日中友好協会では偏って見られるのではないかと、県の国際交流協会の役員などと話し合われ

**２００７年（平成１８年１月２０日）第１２回**（今までの年末１２月、開催を飛ばして翌年に）として再出発しました。主催はこの回から**鹿児島県国際交流協会**になり現在に続いています。

## 鹿児島県日中友好協会創立２０年・鹿児島市日中友好協会創立４０年

### 鹿児島市日中友好協会　女性部発足　2003/06/266月25日(水)

福祉センター５F において天達美代子さんを代表にする文化交流協議会のメンバー約 40 名を中心に市の国際交流課・鹿児島市日中友好協会本部役員・留学生部等で女性部会設立の準備委員会が催されました。活動内容としては、中国の方々との理解と親睦を深める為パーティーや料理･一日遠足･短期間ホームスティなど多種多様の催しを企画実施。女性部会会長に天達美代子さんを選出事務局を中央町総合芸能企画

**2003/06/25(水)　鹿児島市日中友好協会に女性部の旗揚げ式**６月２５日(水)鹿児島市福祉センター５F において天達美代子さんを代表にする文化交流協議会のメンバー約 40 名を中心に市の国際交流課・鹿児島市日中友好協会本部役員・留学生部等で女性部会設立の準備委員会が催されました。**2015 年１０月３日『第３０回国民文化祭かごしま２０１５』**鹿児島市日中友好協会副会長の天達美代子氏が主宰する「鹿児島文化交流協議会」は第３０回国民文化祭かごしま 2015 のプレイベントとして　**市民文化ホール４階ホールに於いて『国際交流文化フェスタ』開催**

前日２日は出演する長沙市の高校生ら１５名が市役所を訪れて森市長に面会をしました。訪問したのは長沙市の私立高校の同弁湖実験学校の一行です。

**フェスタの開演に先立つ海江田順三郎鹿児島市日中友好協会会長の挨拶を書きます。**

「湖南省同弁湖実験学校の皆さま、ようこそ鹿児島へおいで頂きました。

鹿児島市と長沙市は１９８２年に、友好都市盟約を結び、これまで行政や民間での交流がいろいろ行われて来ました。先月は長沙市で開催された国際食品展覧会に、業者の人達と私と、天達副会長と一緒に参加して来ました。私が初めて訪問した１９８１年の長沙市は、市民は人民服を着て自転車が多く、自動車は少ないでした。ところが最近は人々の服装も立派になり自動車も増加し、街には高層ビル群が建ち並び目をみはる思いがします。

さて、話題は変わりますが、鹿児島は日本が封建制から近代国家に転換した明治維新の最大の功労者であった西郷南洲の出身地であります。そしてこの西郷南洲を崇拝し、明治維新を模範に孫文と中国の辛亥革命を起こしたのが長沙出身の黄興先生でした。

１８８７年、日本に滞在中の黄興先生は日本人の友人に案内され、東京から鹿児島に来て西郷南洲の墓地を参詣し、南洲を敬慕する詩を書き残しました。先年、わたくしたち日中友好協会は墓地のある公園に「黄興先生南洲墓地参詣の碑」を建立しました。今回鹿児島に来られた機会に、是非この記念碑を見学して「鹿児島・長沙両市の歴史的な関係を理解して欲しいと希望いたします。中国の古い言葉に「礼は往来を尚ぶ」とありますが、「長鹿両市の市民は今後も相互に訪問して友好親善を促進してゆきたいと念願します。

## 鹿児島県日中友好協会創立２０年鹿児島市日中友好協会創立 40 年

この後協会の広報紙『東方友誼』より２００４年に繋いでいきます。
２００４（平成１６年）『東方友誼』創刊号より（パート２）
５年間、第５号(2009 年２月)まで続いた協会新聞より

# 東方友誼

https://jcfak.com/wp-content/uploads/2025/06/toho1-5.pdf

お持ちのスマホで以下の QR コードをスキャンして東方友誼全編（５年）ご覧いただけます。

以下、東方友誼の中で主な祭事を紹介させていただきます。

●小異を存して、大同を求む（巻頭文）　　鹿児島市日中友好協会会長　海江田順三郎

『発刊に当たり』

以前から望まれていた会報の発刊が、遅まきながら実現したことを大変嬉しく存じます。
さて、日本と中国は一衣帯水の近い距離にあると言われて来ましたが、最近、特に日本の経済にとって、中国は非常に密接な関係になってきたようです北京オリンピックの準備もあり、中国は現在、高度成長の真っただ中で、その旺盛な投資のお陰で日本の素材産業も輸出が伸びています。一時は中国脅威論もささやかれましたが、日中の経済はすでに**唇歯輔車**の不可分の関係になりつつあります。（唇と歯は二つのものだが切り離すことはできない・・ことから相互が密接に助け合い、一方が滅びれば他方も危うくなるような関係の意味）経済関係に比し、政治や過去の歴史認識の面では、日中間には幾分の差異や、わだかまりがあるのを感じます。
互いの視点や、立場の違いが、物の見方、考え方にズレを生じさせるものと思います。
日中関係を円満に、前向きに展開する為に忘れてはならないのは１９７２年の日中回復の際、周恩来総理の談話にあった『小異を存して、大同を求む』の中国の格言ではないかと思います。日本の諺にも『小異を捨てて大同につく』とありますが、小異を無理に捨てなくても、共通の大きな目的に向かって「同心協力し段階的に小異の解決を図ることの肝要さを主張されたものと感銘します。「流水は先を争わず」相互の信頼と、互助互譲の精神を基調に、日中両国の子々孫々に至る平和と、友好の持続を念願して已みません。

**●長沙・鹿児島市友好交流祝賀会**

鹿児島市の友好都市である中国・長沙市で７月２２日、両市の友好交流祝賀会が開かれ、**鹿児島市長の赤崎義則氏に長沙市から名誉市民の称号がおくられました**。また、国際交流機関の長沙市対外友好協会は、民間交流促進に努力したとして、赤崎市長と鹿児島市日中友好協会の海江田順三郎会長を海外顧問に委嘱しました。
尚、一行はその日の午前中に岳麓山の黄興の墓に参り、墓前で太極拳を披露しました。
**フィナーレは赤崎市長をはじめ代表団の方々が総出でおはら節を踊り終了となりました。**

## 鹿児島県日中友好協会創立２０年・鹿児島市日中友好協会創立４０年

## 鹿児島市日中友好協会設立２０周年を迎えて

会長　海江田順三郎

鹿児島市日中友好協会は昭和６０年に設立、活動してまいりましたが、今年２０周年を迎えることが出来ました。今回の２０周年を一つの節目としてさらに友好盟約都市、中国長沙市はもとより上海、北京その他多くの中国の皆様方と交流が出来ますように努力したいと思っています。
さる**４月８日、王毅中華人民共和国駐日本国特命大使**をお招きして鹿児島サンロイヤルホテルで**記念講演を開催**いたしましたお話を拝聴いたしまして政治、経済、文化を交えながら、私たちの次世代へ残す交流の歩みは大切な一歩一歩の積み重ねと実感いたしました。
　１９７２年の日中国交回復により、日中両国は対等のパートナーとして、善隣友好の新たな時代に入りました。ところで最近になり「政冷経熱」といった政府間の関係悪化が憂慮されておることはご承知の通りであります。私たちはこのような時こそ、地方レベル、民間レベルで、日中友好のネットワークを築き、日中両国民の友好と、相互理解に努め、アジアの安定繁栄、引いては世界の平和に寄与致したいものと念願します。また鹿児島に在住されておられる多くの中国の方々に微力ながら支援体制を整えて、さらに深く強く交流が出来ますことを念頭に進んでまいりたいと存じます。今後とも皆様方の暖かいご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

**●両国の交流拡大を**

**王毅中華人民共和国駐日本国大使の講演　サンロイヤルホテル**

２００５年（平成 17 年）４月８日、サンロイヤルホテルに於いて、今後の日中関係について、講演を行いました。

講演は県・市など７団体の主催で「鹿児島市日中友好協会の設立２０周年記念」で企画した。（‥‥ということになっているが、内訳話ですが、当初、市日中はこんな企画もしていなければ、今年が設立２０周年記念だと意識していた訳でもありませんでした）全て、県の国際交流課から海江田会長への通達でことが進んでいきました。

市の日中としてはとんでもなく大きな贈り物をもらった気持ちでした。この講演をきっかけに、鹿児島県は県の日中友好協会設立へ向けて伊藤知事の強い押しもあって進み、６月１６日の『鹿児島県日中友好協会』の発足へと向かいました。

ところで王毅（現中華人民共和国外相）の当日の講演内容につて書きたいと思います。‥‥およそ４０分にわたる講演はすべて日本語行った。

鹿児島と中国の交流の現状について、県内企業の中国進出は１３社に留まり、中国の海外旅行者２８００万人のうち訪日したのは７０万人、うち鹿児島県には２０００人だったとデータを提示して鹿児島の観光（温泉、食材など）をメーンに交流を呼びかけた。王毅大使は海の協力を強めることが大切だと、鹿児島県は海に面している。海の協力を鹿児島県はぜひ重視していただきたい。

小泉総理は東シナ海はぜひ平和な協力の海にしたい。と（言っている）。中国側も同じ考え方を持っている。」と述べた。

また、１９７２年の日中共同声明に「日本国が過去の戦争に於いて中国国民に対し多大な損害を与えて責任を痛感し深く反省する」との文言が盛り込まれていることを指摘。

『国交正常化３３年になり、大きな前進があったが、時々問題も発生した。そのほとんどが歴史と対話に問題がある。共同声明の約束をきちんと守ればどんな問題でも対話を通じて解決できる』と語った。

このイベントを含めこの後の県日中設立式典にいたるすべての機会に、私は協会側として海江田会長に付いていた。まだ事務局長は木村さんだったと思うがあまりこの辺の流れからは引いておられたような気がする。

従って、あまり私（大石）の発言する場面はなかったけれど、この時の王毅講演会の司会は県の国際交流課のどなたかもシナリオ通りではあったが総合司会を独りで任された。（この講演会は鹿児島市日中友好協会の主催にされたので県国際交流課が表に出にくかったのかも知れない）

今でも王毅大使の登場シーンと「みなさま！大きな拍手でお出迎えください！」のシーンは浮かんでくる。

## 鹿児島県日中友好協会創立 20 年・鹿児島市日中友好協会創立 40 年

### ●鹿児島県日中友好協会が発足　２００５年６月１６日　　サンエール鹿児島

来賓に伊藤祐一郎知事、武亜朋駐福岡中華民国総領事、佐藤嘉恭（社）日中友好協会会長代理、酒井誠同常務理事、事務局長…出席した。伊藤知事は「民間、経済界、大学を中心にした県協会の設立を機に、県としても中国との交流促進と友好関係の発展をはかりたい」と期待を表明した。武総領事は「県協会の発足は大きな出来事、厳しい環境の中での発足は意義深い」と

高く評価して激励した。
爽快では、県全域の民間活力を生かし「経済や文化、教育、スポーツなどで交流を進め、相互理解と友好親善を図ることを」うたった設立目的を承認した。
また、今年度の事業として県内三市の日中友好協会や経済団体、大学などと連携し、中国側とも情報交換しながら、観光客誘致や留学生支援などの方策を探っていくことを決めた。
初代会長には、発起人代表で鹿児島市日中友好協会の海江田会長を選任。伊藤知事は名誉会長に就任した。
続いて行われた記念講演会では、（社）日中友好協会の佐藤会長代理が「日中関係をどう見るか」と題してやく１時間にわたり講演した。
その後行われた懇親会には中国留学生も招かれテーブルごとに交流を深め、発足を祝った。
　市の協会理事の濱野幸一郎が県日中の事務局長として市日中との連携を図りながら務めることになった。この頃から鹿児島市日中友好協会の事務局長に竹下嘉郎さんが、そして事務局次長に小林慎介さんが担当してくれることになる。

『日中国交正常化５０周年に想う・・海江田順三郎会長➡QR コードから』
東京で開催、協会から海江田県日中会長と鎌田　敬市日中会長の二人が出席しました。森山幹事長も顔を見せています。　右の QR コード

## 鹿児島県日中友好協会とは…設立目的・経緯・活動・発起人代表挨拶

設立の目的　　2005(平成１７）年６月１６日（木）

鹿児島県と中華人民共和国の経済，文化，スポーツ等の交流を図り，相互の理解と友好親善に寄与することを目的とする。

### ②　設立経緯

日本国と中国とは，地理的にも歴史的にも深く長いつながりをもっています。近年，両国は，経済，文化，スポーツをはじめとする各分野において親密の度を深め，人的交流もますます拡大しつつあります。これもひとえに，日中両国の友好のために尽くされた先人たちの熱意が，大きな実を結びつつあることの証であると考えます。

一方で，日中両国間には国家間で解決すべき課題も残されていますが、地方においては，これまでの交流実績を生かしながら，民間と行政が一体となって，多様な交流を推進し，緊密な友好関係を維持,発展させていくことは，極めて意義深いことであります。

鹿児島県は，日本本土の中でも中国に大変近い場所に位置し，1250 年前の鑑真和上の上陸地として，また，かつての遣唐使船の寄港地として歴史的にも深い関係にあります。こうした地理的,歴史的特性を生かして，近年では，1998 年に始まる本県と江蘇省との交流をはじめ，市町村，民間団体および学校などで幅広い交流が行われております。　また，鹿児島と上海結ぶ直行便は，本年３月 28 日に週２便から３便へと増便されたほか，「新鑑真号」や「蘇州号」などの定期観光船により鹿児島と中国が結ばれており，鹿児島,中国の相互交流が今後ますます活発なものになっていくものと期待されております。　さらに，2002 年４月には李鵬全国人民代表大会常務委員会委員長が本県を訪問され，本年４月には王毅中華人民共和国中日本国大使の講演会が開催されるなど，本県における中国との交流促進への機運は，これまで以上に高まってきております。

このような状況の中，「鹿児島県日中友好協会」を設立し，相互の友好協力活動を積極的に展開することにより，鹿児島県と中国との友好親善，相互理解を深めてまいりたいと考えております。

### ③協会の活動

１本県と中国との交流，友好親善のための諸活動
　本県と中国との経済，文化，スポーツ等交流に関する事業.　　本県と中国との友好親善に関す事業.
２関係団体との連携、協力　駐日大使館，各地総領事館など中華人民共和国関係機関との連携、協力.　県内外の中国との交流団体等との連携,協力.　その他の関係機関との連携,協力.

３協会組織基盤の強化　会員相互の親睦,交流を図る事業.　その他組織基盤の強化を促進する事業.

- **鹿児島県日中友好協会が１６日(木）に発足しました。**
- 鹿児島市のホテルでの設立総会には鹿児島県の経済団体や商工会をはじめ大学さらに県下の市レベルの日本中国友好団体など約１２０人の参加者で鹿児島県日中友好協会の発会を祝いました。
- 初代の会長には鹿児島市日中友好協会の海江田順三郎会長が選ばれました。海江田氏は「日中お互いの相互理解を深め、より親密な関係を築いていきたい」と抱負を述べました。
- 　来賓挨拶は伊藤鹿児島県知事（協会名誉会長）と中華人民共和国駐福岡総領事武亜朋氏が，さらに記念講演は「日中問題を考える」と題して佐藤嘉恭日中友好協会副会長が講演されました。
- 　会場を移し午後５時から懇親会が開かれ、参加した在鹿児島中国留学生(８名）も各テーブルに加わり市日中友好協会の女性部の余興や留学生自己紹介など和やかな歓談会食の宴が催されました。
- 2005(平成１７）年6月１６日（木）

**鹿児島県日中友好協会設立発起人代表挨拶　　海江田順三郎**

　皆さん今日は、本日は鹿児島県日中友好協会の設立総会のご案内を申し上げました所、多数ご来場いただき誠に有難うございます。
又ご来賓として地元から、公務ご多忙中を伊藤祐一郎知事が、福岡から、４月の王毅　大使ご来鹿の随行に引続き、武亜朋総領事が、そして東京から日中友好協会本部の会長代理で、元駐中国大使であられました佐藤嘉恭先生、並びに酒井　誠常務が遠路ご来臨いただきましたことを、喪心より感謝申し上げます。

このたび永年の懸案でありました県日中友好協会が、県当局のご支援と、地元経済界、大学、三市の日中友好協会等の協同で、設立の運びに至りましたことは、遅きに失したとは申せ、発起人の一人として、心から喜びに存ずる次第であります。　申すまでもなく鹿児島県は、地理的にも中国と近い距離にあり、歴史的も遣唐使船の寄港地であった坊之津や、鑑真和上が上陸した秋目の浜など、古くから有名でありました。　又、近年になり鹿児島市と長沙市、薩摩川内市と常熟市間の友好都市盟的の交流促進、更には鹿児島と上海を結ぶ航空路の増便など、中国と本県との関係は、ますます密接になって参りました。　さて、わが国にはおよそ２０００年の間、政治、文化、宗教各面に亘って、中国を師とし、中国に対し、畏敬の念を持ち続けて参りました。明治に入り、日清戦争にわが国が勝利してからは、日中の関係が逆転し、その後、日中戦争や太平洋戦争の敗戦まで、日本人は中国に対し、故なき優越感を増大させてきた憾みが反省させられます。　１９７２年の日中国交回復により、日中両国は、対等のパートナーとして、善隣友好の新たな時代に入りました。　所で最近になり、「政冷経熱」といった政府間の関係悪化が憂慮されておることはご承知の通りであります。　私たちはこのような時こそ、地方レベル、民間レベルで、日中友好のネットワークを築き、日中両国民の友好と、相互理解に努め、アジアの安定繁栄、引いては世界の平和に寄与いたしたいものと念願します。

機関紙「日本と中国」より。

**◆鹿児島に県協会が発足**

鹿児島県日中友好協会が１６日、発足した。県を挙げての交流の懸け橋となる団体を目指す。市内のホテルで開かれた設立総会には鹿児島市、薩摩川内市、名瀬市の各市日中友好協会の会員や経済団体、大学など約２００人が参加。来賓として伊藤祐一郎県知事、武亜朋駐福岡総領事、佐藤嘉恭（社）日中友好協会会長代理、酒井誠同常務理事・事務局長が出席した。中日友好協会から祝電が寄せられた。県協会が未成立なのは沖縄、長崎、岩手、群馬の４県になった。

設立発起人を代表して、鹿児島市日中友好協会の海江田順三郎会長は「政冷経熱といわれる時期だからこそ、地方レベルで友好を強化することが大切」と呼びかけた。伊藤県知事は「民間、経済界、大学を中心にした県協会の設立を契機に、県としても中国との交流促進と友好関係発展をはかりたい」と期待を表明。武亜朋総領事は「県協会の発足は大きな出来事。厳しい環境の中での発足は意義深い」と高く評価し、激励した。

総会では、県全域の民間活力を生かし「経済や文化、教育、スポーツなどで交流をすすめ、相互理解と友好親善を図ること」をうたった設立目的を承認した。また、今年度の事業として、県内の３市協会や経済団体、大学などと連携し、中国側と情報交換しながら、観光客誘致や留学生支援などの方策を探っていくことを決めた。

初代会長には、発起人代表で鹿児島市日中友好協会の海江田会長を選任。伊藤県知事は名誉会長に就任した。鹿児島商工会議所など経済３団体トップと鹿児島大など３大学長、２市の日中友好協会長が理事に選ばれた。

続いて行われた記念講演会では、（社）日中友好協会の佐藤会長代理が「日中関係をどう見るか」と題して約１時間にわたり講演した。設立記念懇談会には中国留学生も招かれテーブルごとに交流を深め、発足を祝った。

**「日中国交正常化５０年」九州日中友好交流大会（オンライン鹿児島版））**

**海江田順三郎鹿児島県日中友好協会会長がテレビ取材を受けて語りました**

**ユーチューブ動画をスマホで QR コードをスキャンしてください。➡**

（内容）翌日の南日本新聞に『民間交流で友好を・・・』（県内関係者発展に期待）との記事がありました。海江田順三郎のコメントは番組の中で聴いてもらうとして、２４年前から鹿児島の企業と中国をつなぐ進出支援コンサルタントの村田さんは「政治的には違いがあっても個々は信頼できる中国人は多い。両国は切っても切れない。５０年の節目を機に、これまで築いた人脈を生かして関係を深めたい」もう一方ハルピン出身の現在、鹿児島国際大学教授の康上賢淑氏は「中国人は日本を旅して好印象を持った。日本人も中国を訪問してもっと中国を知って欲しい」と。さいごに鹿児島で中国語教室を開いている滕さんは「教室の生徒さんは増えていますよ、民間交流でお互いを深め合うのがいちばんです。平和で友好的な関係をもつともっと深めたい」と。日中の絆を訴えます。根っこの部分では、人と人は分かり合える友人です。中国政府要人も日本のそれも、裸になったら義兄弟・・・言い過ぎかもしれませんがわたしはそう信じています。　大石

**鹿児島県日中友好協会創立２０年　鹿児島市日中友好協会創立４０年鹿児島市日中友好協会交易観光部設立**

**交易部会の設立について。**鹿児島市日中友好協会の新しい部会として中国との貿易を柱とする経済部門が発足します。個々の企業間（日中）の取引に協会がどのような形で協力出来るかについてはいろいろな難しい問題があります。協会としては相手先の斡旋･仲介といった直接的な手伝いは避けたいと思っています目的をもっておられる日中双方の企業に相談の場所を設けてあげる。といったスタンスを取りたいと思います。また、交易部という

カテゴリーの中には企業だけではなく文化交流や教育関係（留学生の派遣、相談）などで「中国が日本に求めているもの」、「日本が中国に求めているもの」等の仲介の場も提供したいと思っています。鹿児島と中国とは、地理的にも、歴史的にも深く長いつながりを持ち、近年、経済、文化、スポーツをはじめとする各分野において親密度を深め、人的交流もますます拡大しつつあります。
鹿児島市日中友好協会も本年協会設立２０周年になります。
今年の記念事業として、友好都市である長沙の偉人・黄興の記念碑の建立を計画しています。また「留学生との支援・交流」「各種中国関係教室の拡充」「外国人によるスピーチコンテストの開催」「機関紙の発行」その他、日中友好のための諸活動を積極的に推進して参りたいと存じています。
今回、設立する『交易部会』はこれまでの文化交流といった友好事業に較べると利害のからんだものになるかも知れませんが交易部の存在が日中双方にプラスになる存在になることを願うものです。
交易部会内では、なごやかな情報交換が行われ、会員内の和の結束が生まれ、対外的に、『日中友好協会の交易部』という良質のブランドが確立することを望むものです

**2005/09/24 法人部交易部会発起人会が去る９月９日（金）午後０時半から市内のいわさきホテルザビエル４５０３階にて開催されました。**

出席者２５名、中国東方航空鹿児島支店の喬謹支店長代理による「上海情報」という題で講演があり、その後、昼食をとりながらそれぞれの自己紹介、そして、中国との係わり合いなどを話し合いました。当日、参加された皆様は次の方々でした。

海江田順三郎（高島屋開発･株）　赤塚晴彦（学校法人赤塚学園）　船間雅彦（株･電通九州鹿児島支社）　内田信光（南海貿易株式会社）堂園哲也（株・コンテック）　竹山義也（アンジュコポレーション）塩屋昭雄（鹿児島国際観光･株）　椨　慎一（イーライフ共和株式会社）鮫島　恵（鮫島産業）　大隣隆起（ビューティヘルパー鹿児島）喬　謹　（中国東方航空鹿児島支店）　井川良二（まるいストアー）久保慎介（鹿児島南映商事）　川原篤雄（ワールドサンフーズ株）　他８名

**２００６年９月５日（火）　鹿児島市日中友好協会交易部会　総会開催**

サンロイヤルホテルに於いて交易部第二回目の総会並びに懇親会が開催されました。海江田会長、赤塚交易部会長の挨拶の後、審議に入り全員一致で各議案は可決されました。懇親会では、今年新しく中国東方航空支店長として鹿児島に赴任されました張俊莉女士が「日中交流の新しい道」という題でお話をされました。続いて交易部事務局長・宮下隆雄さんが「トランクビジネスびよる新しい交易」という題で講演しました。その後の会食での話題は、交易部企画でメンバーを募って『義烏ビジネスツアー』を実現しましょう、と盛り上がりました。（翌年、実現しました。

**総会開催"鹿児島市日中友好協会交易部新年会" を YouTube で見る**

**https://youtu.be/sq-r7yez24I?si=o7MAsMZwu980I-Sf**

サンロイヤルホテルに於いて交易部第二回目の総会並びに懇親会が開催されました。海江田会長、赤塚交易部会長の挨拶の後、審議に入り全員一致で各議案は可決されました。
懇親会では、今年新しく中国東方航空支店長として鹿児島に赴任されました張俊莉女士が「日中交流の新しい道」という題でお話をされました。続いて交易部事務局長・宮下隆雄さんが「トランクビジネスびよる新しい交易」という題で講演しました。その後の会食での話題は、交易部企画でメンバーを募って『義烏ビジネスツアー』を実現しましょう、と盛り上がりました。（翌年、実現しました）

**2007年3月10日～14日　交易部会の「義烏視察ツアー」"**

第一回交易部義烏研修旅行”を YouTube で見る

https://youtu.be/H-D63kVTu_I?si=fEqC4G_ISK0l-4wf

参加者は１５名　着いたその日は上海で黄浦江クルーズ等の市内観光。二日目は観光地に立ち寄りながら義烏へ移動。３日目は終日義烏市場視察と買い物（仕入れ）現地では貿易会社の方が二人加わり買物のアドバイスをしてくれました。ここには中国人はもとより世界中のバイヤーたちが安い商品を求めて集まります。巨大な建物が何棟もあって１日急いで廻っても１棟を周りきれないほどでした。中国のスケールと脅威を感じることでした。

**○２００７年７月７日（土）交易部総会並びに懇親会開催**

サンロイヤルホテルに於いて行われた　「第三回交易部総会」はおりしも梅雨のおわりの豪雨の中行われましたが懇親会では３月に行われた「義烏視察ツアー」の思い出話に花が咲き和気藹々のうちに散会となりました。

恒例の特別講演では鹿児島市相互信用金庫外為課副部長の村田秀博氏による『鹿児島県特産品の中国輸出』についての講演に会員は熱心に聴きいっていました。

## 交易部新年会と長沙経済視察説明会 2008/01/24 1月19日（土）サンロ

**イヤルホテル鹿児島市日中友好協会交易部の平成 20 年の新年会が開催された。**長沙市と鹿児島市とは、1982 年 10 月に友好都市盟約を締結して以来、両市の交流協議に基づき、毎年訪問団を相互派遣し、友好を深めてきた。鹿児島市は、長沙市より研修生・農業実習生の受入れを行ったり、「青少年の翼」事業により，鹿児島の高校生を平成 11 年から毎年長沙市へ派遣するなど、長い間文化・技術交流を推進している。また、昨年９月には、当協会の永年の念願であった、長沙市出身で鹿児島に縁がある黄興先生の「南洲墓地参詣之碑」除幕式が執り行われた。10 月には長沙市にて前述の「鹿児島市・長沙市友好都市締結 25 周年記念式典」が開催された。その中で前長沙市長・譚仲池氏より、「長沙市はすでに中国中部地域において政治、経済、文化、科学、教育、商業貿易の中心となっており、ここ５年で急速に経済の高成長を遂げている」こと、また今後ますます両市の活発な経済交流の実現を目指したい、というメッセージを海江田会長がいただいた。

そのような経緯を踏まえて、鹿児島市日中友好協会交易部は、鹿児島の企業と長沙の企業の橋渡しとしてなんらかの役割を担えないだろうか、と今後の計画を検討中である。具体的には、長沙、鹿児島、双方が地元の企業案内を作成し、そしてそれぞれの市政府のホームページにそれらを掲載して、お互いがいつでも閲覧できるようにする。また実際に長沙経済視察団を結成し、現地の状況を把握する、などの案が浮上している。

今回の新年会・説明会では交易部理事メンバーにより調べておいた長沙市の経済状況、進出している日本企業の現況などを事務局より説明することにした。説明会では、最初に海江田協会会長の挨拶と 25 周年大会に参加した際、長沙市で受けた感想などを会員に説明した。

次に、事務局の説明がり、そのあと、数名の会員による、長沙での実交易体験談や鹿児島における対中国交易のエキスパートである村田秀博氏によるお話などがあった。

出来れば今年上半期に長沙市を経済交流訪問の実現に向けて準備、検討をしていくことで説明会を終った。

そのあと、会員 26 名で座敷テーブルを移動しあって団欒、会食が続いた。昨年春の《義烏視察旅行》のメンバーの思い出話などにも花が咲き、当会交易部も少しづつ親しみと、まとまりが出てきたように感じた。

## 第２回　観光交易部【義烏市場訪問】

2008/07/24

義烏市場における商談について

貿易は、自社で１コンテナに仕立てられるかが肝要である。それが出来ないと商売としてなかなか成り立たない。しかし、貿易ビギナーは最初から１コンテナ数百万円のリスクを背負う事は難しい。そこで手っ取り早く買付けの世界に足を踏み込めるのが、１０万点以上の小商品が取り扱われ、活気あふれる日用品雑貨卸市場の街「**義烏**」である。

ここの最大の特徴は、小ロット（数量）・多品種・低価格で商品仕入れが可能なことだ。

一般的なパターンは、地元の貿易仲介業者兼通訳と市場内を回り、興味あるブースで商談買付けを行う。値引き交渉は中国人通訳を介して粘り強く行い、外国人価格を排除出来れば最高である。

まとまった数量を購入する場合は市場で商品を見つけた後、近隣に生産工場があれば直接出向くのが得策である。

買付けした様々な商品は貿易業者の倉庫に集められ、混載コンテナに仕立てられ日本に輸出される。代金決済は義烏では、１ブースで１コンテナ分の商品を買うことはまずないのでＬ／Ｃ（信用状）はほとんど使われない。

中国で前金を支払い、残金は取りまとめをする仲介業者に、日本から後日ＴＴ（電信）送金する場合が多い。

最小販売ロットは、各ブース様々である。数個で売ってくれる所もあれば、百個以上とかダンボール一箱単位でしか売ってくれない場合もある。

義烏以外で商談する場合は、一商品千個単位とか一万個以上と言われる場合もあるので、それに較べればはるかに購入しやすい。しかし、小口購入は段々難しくなって来ている。

数年前は「サンプルとして買う」と言ったりしたが、日本人は一般的に数量は少ないのに品質は厳しいので、「日本人と取引しなくても、いくらでも注文はある」と言うスタンスの所も増えている。

また、義烏は主に中国人向けの中級品を扱う市場であり、検品が必要となる場合がある。中近東などのバイヤーは不良品が混じっていても、元々が低価格なので、歩留りを追及し検品はほとんどしない。

日本では全てに厳格な品質が求められる。品質は年々向上している。しかし、この市場は余剰在庫・Ｂ級品・一流企業のアンテナショップ商品などが混在していることを忘れてはならない。

見極めが大事である。

義烏市場が今後ますます発展していく魅力ある市場である事は間違いない。貿易には様々なリスクが伴うが、同市場においてもそれを一つ一つ解決し、前向きに取り組んでいくことが大切だと思う。

最後に、交易部会が今後果たせる役割としては、貿易ノウハウの習得に努め、貿易をしたい会員を多く募り、ビジネスツアーを派遣するなど商談の場を多く提供することではないだろうか。

その結果、混載便を仕立てることができ、その後交易部会員が独り立ちできればこの上ない。それがひいては、鹿児島と中国の経済交流の活発化にもつながるはずだ。

鹿児島相互信用金庫　鹿児島県産品輸出支援室長　　**村田秀博**

参加者体験談として、（株）鮫島産業　鮫島　恵社長の視察記を「随便随筆」に載せました。

鹿児島県日中友好協会創立 20 年鹿児島市日中友好協会創立４０年

## 鹿児島・中国の相互文化経済交流①（往来の記録）

2006　(H18)　江西省九江学院５名来訪（４月）

2008（H20）　「長沙油絵芸術家協会来日』（展覧会開催）

2009（H21）　長沙市日本節(11 月 21 日～22 日)女性部（おはら祭 in 長沙）

2010（H22）　長沙市経済訪問団（雷副会長ほか９名・・火宮殿社長他）市交流課と市日中で応対

2012（H24）幻の友好都市盟約 30 周年記念イベント『長沙文化フェア歩歩高』交易部・土屋妥九担当

## 九江学院大学（江西省）一行６名鹿児島訪問。

2006（H20）4月５日（土）

江西省九江市の九江学院大学の副院長他、工学部、芸術学部、体育学部、学生部、等一行６名が鹿児島を訪問された。

現在、２年、当地で日本語教師をされている鹿児島市日中友好協会の池田公榮氏の縁での訪問です。

一行は昨夜の豪雨が嘘のように晴れ上がった４月５日午後０時３０分鹿児島空港に着きました。

協会側、交易部の宮下隆雄と大石車の２台の乗用車での案内が始まりました。

まず今回の日本視察旅行の無事祈願を兼ねて霧島高原のドライブと『霧島神宮』参拝をしました。

午後、市内へ戻って、一行の希望もあって『市水族館』と『黎明館』の見学。ウォーターフロントの散策のあと市街地の見学、そして、天文館の料理屋で『日本料理』を食べながらの友好会談で一日が終わりました。

二日目は鹿児島大学訪問を皮切りに市役所での市長への表敬訪問、県庁へ国際交流課課長を表敬訪問し夜は協会役員、中国留学生それに県の来賓を交えてのサンロイヤルホテルで和やかな晩餐会でもてなしました。尚、一行は７日朝、大阪から、東京へと旅発って行かれました。　　祈！一路平和。

## 鹿児島市と長沙市の友好都市盟約２５周年の祝典　2006 年 10 月 26 日

が１０月下旬に長沙市で開催され鹿児島市当局の他、市民有志１２０名がチャーター機を利用して参加しました。

現地での祝典の際に、私は図らずも「友好の使者」の称号を授与される光榮に浴しましたが、これは私個人に対してより、鹿児島市日中友好協会のこれまでの実績が評価された故のことと、会員の皆様のご協力に改めて感謝申し上げる次第です。

　祝賀会場では，９月に南洲公園に建立しました『黄興先生南洲墓地参詣の碑』のカラー写真を入れた額を私から長沙市長へお渡しさせて頂きました。

式典の前日に表敬訪問しました長沙市対外友好協会で、当協会の天達美代子女性部会長が、長沙市対外友好協会理事の委嘱状を受領され面目を施されました。

## 平成 20 年３月２６日　　長沙油絵芸術家協会来訪　美術展覧会開催

長沙市人民対外友好協会　様

　　早春の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

　さて、ご依頼のありました湖南省当代油絵芸術センターからの鹿児島展示会について、早速、当協会では実現に向けて各面から協議いたしました。その結果、訪日美術家の皆様方の御来日にあたり、当方の事情をご説明申し上げると同時に、下記事項につきまして、より具体的な内容をお聞かせ頂きたいとお願い申し上げる次第です。

１、今回の企画では、絵画の販売を考えていますか。販売を伴う展示会は、公立美術館では開催できません
　販売目的の日本開催については、当協会の協力はできません。

２、絵画の運送・保険料については、当協会はいたしません。
３、来日する美術家の滞在経費（ホテル）は、そちらで全額ご負担ください。　ご提案の半額負担はできません。
４、日本の美術家協会或いは油絵協会を誘い、日本展示の主催者にしたいとのご提案は趣旨が良く理解でないので、もっと詳しく説明してください。
５、絵画展の期間と訪日美術家の滞在期間は同じですか。(5 日間)通常、絵画展は１週間ぐらいです。

**《当方が協力（負担）できる項目》**

１、展示場所の賃料は、当方で負担します。
２、展示を行う都市（つまり鹿児島市）の美術家集団と訪日美術家との間で、日中美術討論会の開催については、開催に向けて努力します。ただ、提案にありました収蔵家代表の意味がよくわかりません。コレクターや絵を買う人、画商などの意味なら画家たちは賛同しないと思います。
３、広告、宣伝、行政の協力など大掛かりのＰＲ活動と資金が必要ですが、できる限り協力します。
４、歓迎パーティー、観光等についても協力します。　　以上

●　会場は山形屋デパート文化ホール（平方m）しかありません。借賃は１日　　円
尚、額縁１２０個を貸す業者はありません。

尚、このイベントは実現しませんでした。あまりにも日中双方の思いが一致しませんでした。協会イベントの歴史の中でもこれと幻に終わった『鹿児島市長沙市友好盟約３０周年記念イベント』の中止と２つでした。

## 鹿児島県日中友好協会創立 20 年・鹿児島市日中友好協会創立４０年

## 【黄興先生南洲墓地之碑　除幕式】（神事・式典）

2007 年（平成１９年）９月２３日（日）午後３時より　　南洲墓地公園内
黄興先生南洲墓地之碑　除幕式（神事・式典）

○神事・除幕

左：**鹿児島市副市長**大平和久**郷家遺族代表**西郷隆文　**鹿児島市日中友好協会**　海江田順三郎
右：**島津興業社長**　島津修久**西郷南洲顕彰会**　桂　久照**中国長沙市**研修生　　陳継華

黄興の詩の朗詠を楊暁帆（鹿児島市国際交流員）

〇　玉串奉奠を　島津修久並びに伊都子夫人　　西郷南洲顕彰館館長　高林　毅　黄興碑施工　前迫　実

〇式典　開会の辞　大石　主催者挨拶　協会会長　海江田順三郎

祝辞　鹿児島市副市長　大平和久　島津家３２代当主　島津修久　感謝状贈呈　前迫石材社長

**会員各位**　　鹿児島市日中友好協会

## 黄興の碑建立事業募金について（依頼）

爽秋の候、皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、鹿児島市日中友好協会へ格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、８月の第２回理事会で、孫文と共に中国辛亥革命の代表的志士である黄興先生の記念碑の建立案が承認されました。黄興先生は、湖南省長沙市の出身です。「華興会」の会長時代である1905 年に、孫文と共に「中国同盟会」を結成し、清朝を打倒して、中国の民主化の推進力となられました。1909 年には、鹿児島の南洲墓地を参拝されたのをきっかけに、終生、中国の西郷南洲を自認し、南洲翁の人格と思想に傾倒されました。黄興先生の憂国の至情を追慕すると共に、その出身地である長沙市と鹿児島市との相互理解と友好を深め、世界の平和と繁栄を祈念して、記念碑を建立いたします。建立場所は、鹿児島市の西郷墓地の一角です。会員の皆様におかれましてはどうか記念碑建立にご賛同いただきご支援を賜りますよう、ここに心からお願い申し上げます。

記

**募金目標額**　100 万円　　**寄付金**　　一口　5,000 円　　**募金の期限**　平成 19 年９月 30 日

送金方法は２種類ございます。１　鹿児島銀行　本店　　問合せ先鹿児島市魚見町１６０－４　　竹下嘉郎

# 黄興先生南洲墓地参詣之碑除幕式

2007/09/28 高さ２ｍ４０センチの堂々とした中にも気品のある碑が完成しました。その台座に埋め込まれた陶板には次の文章が書かれてある。孫文と共に中国辛亥革命の代表的志士であった黄興先生は、１８７４年、湖南省長沙市の学者の家に生まれた。性格は寡黙で沈着豪胆、体格も偉大で英雄の風格があり,名文家,能筆家としても有名であった。１９０２年、選ばれて日本に留学し、東京の弘文学院に入学したが早くから民族主義に目ざめ「華興会」の会長に推挙されるや。孫文の「興中会」と日本で統合を図り、１９０５年「中国同盟会」を結成して、清朝を打倒し、中国の民主化を目ざす革命運動の推進力となった。

１９０９年（明治４２年）、友人の宮崎滔天の案内で鹿児島を訪れここ南洲墓地を参詣した際、次の詩を賦した。

八千師弟甘同塚　　世事維争一局棋　　悔鑄当年九州錯　　勤皇師不撲王師　黄興先生は１９１６年、志半ばにして上海でその波乱に満ちた生涯を閉じ、後に故山の長沙市岳麓山に国葬を以って埋葬されたが、終生、中国の西郷南洲を自認し、南洲翁の人格と思想に傾倒した。

黄興先生の憂国の至情を追慕すると共に、その出身地、長沙市と鹿児島市との友好都市盟約終結二十五周年に当たり、両市の交流が更に深まることを切望して已まない次第である。

二〇〇七年（平成十九年）九月鹿児島市日中友好協会西郷南洲顕彰会**（注：黄興の詩の意訳）**

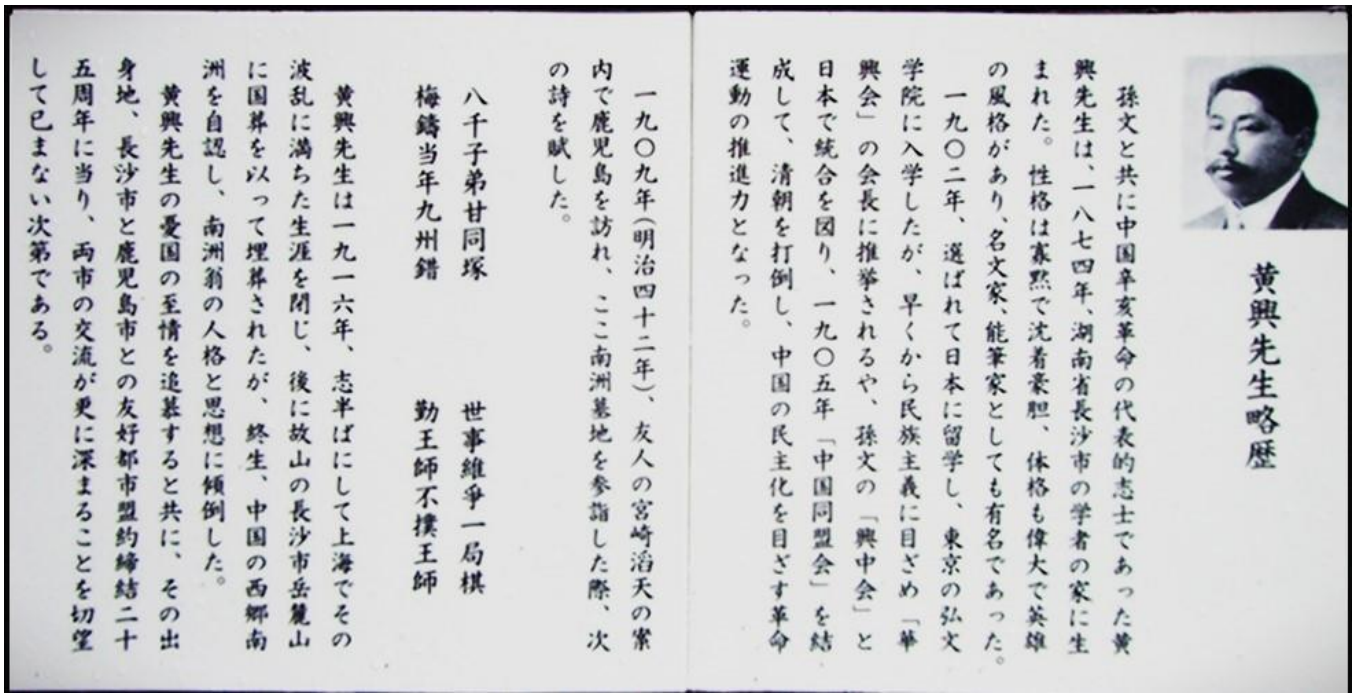
何千と言う多くの私学校の青年たちが師と仰ぐ西郷南洲と同じ墓地に眠っている。明治維新後の日本の政治や社会はまだ混沌として収まらず、あたかも目まぐるしく変わる囲碁の局面のようであったと思われる。それにしても悔やまれてならないのは明治十年、九州に西南の事変が起こりそれが失敗したことだ。もともと天皇を尊敬する勤皇の志の篤い西郷南洲の薩摩士族たちは最初から天皇に反抗して、その軍隊を打ち負かそうと言う考えなどなったはずだから。

朗詠は長沙外国語学校教師　**楊暁帆**さんスエーデン産の班レイ岩（黒御影石）の台座に貼られた白磁陶板には黄興の略歴が焼付けられている。高さは敷石部**分｛湖南省産の花崗岩（白みかげ石）｝から主碑まで２メートル４０センチ。以下碑文は以下の通りである。**

## 黄興先生南洲墓地参詣之碑に除幕式にあたって（挨拶）海江田順三郎

https://youtu.be/ma2scrEFcy0?si=OLRccua29bXMadOR

本日「黄興先生南洲墓地参詣之碑」の除幕式を御案内申し上げました所、ご来賓各位には公使ご多用の中をご臨席賜り、又日中友好協会、西郷南洲顕彰会の会員の方々のご参加を頂きましたことを衷心より厚く御礼申し上げます。ご承知の通り本年は鹿児島市と長沙市との友好都市盟約 25 周年に当たりますが鹿児島市日中友好協会は記念事業に長沙市出身で孫文と共に辛亥革命の領袖でありました黄興が明治 42 年盟友の宮崎滔天に案内され、東京から鹿児島を訪れ南洲墓地を参詣した記念碑の建立を思い立ちました。南洲公園で櫻島を望む最も景勝の場所に碑の建立をご許可して頂いた鹿児島市当局のご理解と、ご協賛頂いた西郷南洲顕彰会のご好意に対し心より感謝申し上げる次第でございます。黄興先生につきましては、略歴をお配りいたしておりますが以前私に始めて黄興が長沙出身であることをご教示いただいた島津興業の島津修久社長さん始め、多くの方が可成りな関心をお持ちのことと存じます。五年程前に県の黎明館で「西郷と黄興」と題するご講演をお願いいたしました黄興



黄興先生略歴

孫文と共に中国辛亥革命の代表的志士であった黄興先生は、一八七四年、湖南省長沙市の学者の家に生まれた。性格は寡黙で沈着豪胆、体格も偉大で英雄の風格があり、名文家、能筆家としても有名であった。

一九〇二年、選ばれて日本に留学し、東京の弘文学院に入学したが、早くから民族主義に目ざめ「華興会」の会長に推挙されるや、孫文の「興中会」と日本で統合を図り、一九〇五年「中国同盟会」を結成して、清朝を打倒し、中国の民主化を目ざす革命運動の推進力となった。

一九〇九年(明治四十二年)、友人の宮崎滔天の案内で鹿児島を訪れ、ここ南洲墓地を参詣した際、次の詩を賦した。

八千子弟甘同塚　　世事維乎一局棋
梅鶴当年九州錯　　勤王師不撲王師

黄興先生は一九一六年、志半ばにして上海でその波乱に満ちた生涯を閉じ、後に故山の長沙市岳麓山に国葬を以って埋葬されたが、終生、中国の西郷南洲を自認し、南洲翁の人格と思想に傾倒した。

黄興先生の憂国の至情を追慕すると共に、その出身地、長沙市と鹿児島市との友好都市盟約締結二十五周年に当り、両市の交流が更に深まることを切望して已まない次第である。

研究の第一人者であられる東京学芸大学名誉教授の中村　義先生がつい最近、岩波書店から出版されました「川柳のなかの中国」というご著書の中に黄興について述べられていますので２，３引用させて頂きたいと思います。・・中国で辛亥革命が起こった明治４４年１０月の大阪朝日新聞に黄興の大きな写真が掲載され「黄興は風貌が西郷隆盛のようで、彼自身も西郷南洲を心から敬愛していた。書や詩をよくし、囲碁が好きな黄興は日本の友人に親愛の情を抱かせた。「黄興には西郷同様黄興さんと『さん』付けがふさわしい」と紹介されています。黄興をここ南洲墓地に案内した熊本県荒尾の士族出身の宮崎滔天は四人兄弟の末弟で長兄は西南の役に従軍して戦死しています。黄興と肝胆合い照らした盟友でありましたので１９１６年（大正五年）に黄興が上海で病死した時、友人の古島（コジマ）一雄に宛てた手紙に『黄興に死なれたのは、本当に参った。自棄酒も飲めぬほど弱った・・・男泣きに泣いた』と述懐しています。戦前から政界、言論界で活躍し、戦後は吉田　茂内閣のご意見番として知られた古島一雄は当時、黄興の死を悼み「黄興の死は独り中華民国の不幸に止まらず日中親善を基礎に東和永遠の平和を願う日本国民にとっても　　大きな不幸である。」と弔辞を寄せています。本年は西郷南洲翁生誕百八十年没後百三十年に当たり南洲翁の遺徳をしのぶ節目の年でもありますが、

黄興が時代や国籍の違いを越えて南洲翁に傾倒したのは何故だったのでしょうか。恐らくは南洲翁の敬天愛人の思想と私心のない生き方に共感したからではなかったかと思われます。敬天愛人を誠実さと他への思いやりの心と解釈しますと、鹿児島と長沙の友好都市間において、又、日本と中国との隣邦関係においても誠実な態度で相手の立場を尊敬する敬天愛人の精神が肝要ではないかと思われます。南洲翁黄興先生の精神的、思想的なきずなを回顧し、今後の日中友好促進の規範とすることを念願いたし措辞でありますが御礼のご挨拶といたします。有難うございました。

**中村　　義先生　　2007・10・5　　大石ケイジ**

東日本は随分秋も深まっているように天気予報では報じていますが、ここカゴシマはまだ連日３０度を越す猛暑日が続いています。前の休日に霧島連山の中にある韓国岳の麓、えびの高原に、海老色のススキ（名物）を観に行って来ました。ここは近くに野生の鹿なども遊ぶ雄大な景色が広がる景勝地です。心なしか硫黄のにおいを含んだ山風に草原の秋の訪れを感じる一日でした。さて、『黄興西郷南洲墓地参詣之碑』の建立、除幕式も無事終りました。

思えば、先生に記念講演をお願いしてから早いもので５年が経ちました。事あるごとに口にしておられた海江田会長の念願の『黄興の碑』が友好都市盟約２５周年の年、西郷没後１３０年という記念の年に南洲公園に建てられたことを会員として嬉しく思います。当時はともかく現在において黄興が日本はおろか本国である中国の市民（留学生）にどのように評価されているか、ぼくが彼らに聞いた限りではとても低いものです。中国近代史上で活躍した黄興さんの（失敗しては又向かっていく）その日々の苦労と孫文の日々のそれとの比較は天地の感があるように思います。

しかし現在、国父とも称され中国にあるおびただしい数の「中山路」（各都市の目抜き道路。）「中山公園」各省都の最大公園、『孫中山銅像』も各省都のさまざまな場所で見かけます。そういうことから考えると日本の維新の源でもある薩摩、そのシンボル城山につながる西郷墓地公園に、孫文ならぬ黄興の『碑』が勝海舟と並んで、堂々と立っている姿を中国のひとびとに見てもらいたいものです。**先日、黄興の碑の周りを芝生で囲みました。との石屋さんからのメールが入りました。**先生も機会がありましたら一度、碑に会いに来られませんか。

２００７・１０・５

**訃報：中村義さん　７８歳　死去＝**東京学芸大名誉教授、歴史学専攻　／東京　中村義さん　７８歳（なかむら・ただし＝東京学芸大名誉教授、歴史学専攻）１９日、出血性胃かいようのため死去。葬儀は２４日午前１０時半、練馬区高野台３の１０の３の東高野会館。喪主は妻宏子（ひろこ）さん。〔都内版〕毎日新聞　2008 年 4 月 23 日**大石様**　お悔やみ有難うございます。突然のことでございました。

一月末に肺炎になったのですが、入院することもなく、抗生物質の治療で快方に向かい、元気になっておりました。　春になれば、また研究会には出席できると、本人も私も信じておりました。毎日散歩に出かけ足を鍛えて準備をしておりました。　４月１４日、朝食、昼食後、疲れたと申しまして、ソファーで横になっているものですから、「お医者様に行く？」と声をかけて、一緒に出かけました。貧血がひどく、肺炎の再発かもということで、とにかく入院いたしました。輸血をした結果元気になって、あれこれ本を持ってくるように私に指示し原稿を書かせておりました。貧血の原因を調べるため胃の検査も一応いたしました。急性の胃潰瘍で出血している由、止血の処置をして、おちついていたのですが、４月１９日に吐血して、あっけなく、逝ってしまいました。

鹿児島の皆様には、いつも暖かくお付き合いいただきまして、夫はたいへんよろこんでおりました。もっと、もっと黄興のことなど、お話ししたかったことと存じます。海江田様にはことのほかお世話になりました。よろしく申し上げてくださいませ。取り急ぎご返信まで。　　**中村宏子**

鹿児島県日中友好協会創立２０年鹿児島市日中友好協会創立４０年

**ジャパンウイーク　in　Hunan 湖南**

２００９年１１月２０日～２００９年１１月２３日

**「2009　JAPAN　WEEK　IN　HUNAN」。**

●共和国建国６０周年という大きな佳節の年を迎えております。

一方、昨秋以来の世界同時経済危機は、世界を視野に入れた経済を含む中日間の「戦略的共通利益に基づく互恵関係」を頑強なものに構築することの必要性と両国が共に世界に貢献することの必要性を我々に改めて実感させました。中日両国は互いに欠くべからざるパートナーであり、「共益」を目指す関係にあります。

そのような関係を築いてゆくためには、両国国民間の相互理解、相互信頼関係が不可欠であり、様々な友好交流活動を通じて、両国国民同士が隣人として、相互の文化を尊重し、理解するという友好の礎を絶え間なく強固なものにしてゆくことが大事であります。そしてこの度、継続的な更なる両国国民の友好拡大を目的として**中国湖南省人民対外友好協会、長沙市外事弁公室と在中国日本大使館は**

２００９年１１月２０日～２００９年１１月２３日

「２００９　ＪＡＰＡＮ　ＷＥＥＫ　ＩＮ　ＨＵＮＡＮ」を開催することで合意いたしました。

●主催組織　**湖南省人民政府 長沙市人民政府 在中国日本大使館**

今回のメーンイベントは２１日(土）に長沙市一の繁華街（歩行者天国）黄興路大広場で開催された。日中若者による舞踊の祭典でした。

鹿児島市からの代表団、鹿児島女子短大による「ヤング踊り連１９名」の華麗なるおはら節＆ハンヤ舞踊は現代風にアレンジされた鹿児島民謡をバックに見学に訪れた数千人の長沙の若者たちを魅了し全日中の演目中最大の拍手の嵐に包まれました。

コンサートではない普通の踊りでこのような喝采を浴び、鹿児島から参加した私たちも鳥肌の立つ感動を感じました。夜に行われました長沙市主催の記念晩餐会に於いて、主催された長沙市人民政府姚永春副市長は公式の挨拶文を読み上げたあとに自分の言葉で**わたくしは特に感銘を受けたのは鹿児島から参加された若い女性グループによる踊りでした。ぜひぜひ来年もここ長沙市に戻ってきて再び、あのすばらしい踊りを見せて欲しいと願っています」と付け加えた挨拶をされ、出席した私たち鹿児島メンバーも嬉しく思うことでした。**さる１１月２１日(土）中国湖南省・長沙市の繁華街広場で鹿児島市から参加した鹿児島女子短期大学(小松教授団長）のヤング踊り連１９名の舞いは観客の目をくぎ付けにしました。

鹿児島県日中友好協会設立２０年・鹿児島市日中友好協会設立４０年

# 鹿児島・中国の相互文化経済交流⑵（往来の記録）

③ ビジネスマッチング（地場企業）商談会　９月２１日（金）

茉莉花国際ホテル会場にて、鹿児島を中心とした企業様に自社商品やサービスの販路拡大の機会を創出する。事前に商談会を希望する企業を募集、その商品やサービスに関心のある湖南省、江西省の企業家と面談する事業。１社当たり３社から５社のカウンターパートの紹介を長沙市政府を通じて依頼します。

商談会は物産展参加・協力企業様を優先させていただきます。１０社程度を想定致します。

## 長沙市経済訪問団・鹿児島市天文館商店街との意見交換会

出席者●雷楚珠長沙市人民対外友好協会副会長以下９名

●天文　有馬勝正 We Love 天文館協議会　　５名

●日中友好協会　海江田順三郎会長　大石慶二副会長

村田秀博交易部副会長　鄭策・黄麗　通訳　　５名

●鹿児島市国際交流課課長前村　寛以下５名　陳継華（通訳）

## 市日中友好協会交易部主催長沙経済訪問団歓迎晩餐会

2010年・3・13日　夜　　禧臨

出席者●訪問団　　雷楚珠長沙市人民対外友好協会副会長以下　　９名

長沙友好訪問団との歓送会　　2010.3.15.サンロイヤルホテル

時間になりましたので只今より長沙市友好訪問団の皆さんをお迎えして鹿児島市と鹿児島市日中友好協会の共同主催によります歓送会を開催します。今夜の宴の進行を務めます鹿児島市日中友好協会の大石と申します。早春の鹿児島の夜が和やかな友好の場になるよう願っております。　それでは最初に何名かの御挨拶を賜りたいと思います。

鹿児島市役所市民局長　　**松永初男**さま

鹿児島市日中友好協会**海江田順三郎**会長

長沙市人民対外友好協会副会長　**雷楚珠**さまにご挨拶を賜りたいと・・・

乾杯の音頭は鹿児島市社交業組合理事長　　**谷川洋造**さまに・・・・

●お祝儀舞いに南日本太極拳クラブ理事長　**春田牧子**さまに演武を舞っていただきます。

この写真は**長沙市の『火宮殿』を村田交易部会長と交易部の（株）イーライフのメンバーの長沙市の歩歩高との経済交流に行ったとき、**以前、鹿児島に雷さんと一緒に訪問された火宮殿の社長さんに招待されました

その時の写真です。

## 鹿児島県日中友好協会設立２０年・鹿児島市日中友好協会設立４０年

### 貿易観光文化節　挫折！

交易部が挫折したのは２０１２年 ９ 月,**日本国政府による「尖閣諸島国有化」（野田総理大臣）**・・・石原東京都知事が購入を決めたのを中国政府の反発を和らげるためという理由だったが。この時(頃)からではないでしょうか。あんなに来ていた HP へのアクセスがぱたりと止まりました。

反日デモは９月１５日～１８日までが特に激しく暴徒化した一部が日系関連の商店・工場の破壊・略奪・放火などありました。友好都市の長沙市も酷く、一番大きな日系デパート『平和堂』の１、２階も打ち壊しになったそうです。**実は鹿児島市日中友好協会では交易部主催の大型プロジェクト（鹿児島・長沙市友好盟約 25 周年記念催事）が計画されていました。**

当時、交易部の事実上の会長役をしていた土屋妥九さんも残念だったことと思います。鹿児島の有名な産物である薩摩焼や錫製品、屋久杉製品などの大展示フエアを長沙市の大型百貨店・歩歩高（ブブガオ）で開催する為、明日には上海へ向けて日通の船舶で発送寸前の暴動でした。

### 鹿児島市・長沙市　友好都市盟約30周年記念事業

**会期　２０１２年9月１５日（土）～9月２４日（月）**

**会場　歩歩高広場（百貨店）長沙ＳＣ店（河西金星大道）**

鹿児島市・長沙市友好都市締結３０周年にあたる今年、両市の友好関係をさらに深めることを目的に鹿児島日中友好協会を中心とする組織と企業が鹿児島市と長沙市政府の協力のもとに長沙市で記念事業を開催する。

**主な実施内容**

**① 鹿児島長沙貿易文化節（9月１５日～9月２４日）歩歩高ＳＣ１階広場**

鹿児島の企業が中国資本の百貨店で直接長沙市民に製品や鹿児島の特産品を展示販売すると共に文化工芸の紹介をする。

**○貿易部門の内容**　　展示出店　：鹿児島の伝統工芸品（屋久杉・薩摩焼・大島紬等）

**○ステージ部門**　：鹿児島の文化と観光を長沙市民に実演と映像それに写真やポスターを使って紹介。

**【概　要】**

日中国交正常化４０周年、鹿児島市・長沙市友好都市締結３０周年にあたる今年、両市の友好関係をさらに深めることを目的に鹿児島の特産品フェアを開催します。このイベントは鹿児島市日中友好協会と長沙市人民対外友好協会の双方の協力のもとに鹿児島市・長沙市政府、鹿児島県日中友好協会、ソロプチミスト鹿児島（未定）その他多くの関連団体もこの３０周年イベントを後押しして貰っています。

**【内　容】**

鹿児島企業が中国資本の百貨店で長沙市民に直接、特産品を展示販売する。

●出店社数　　１５店（県・市・団体含む）

●販売内容　ブース出展:日本、鹿児島企業の製品の展示、販売（ﾜｺﾞﾝ：縦 80 ㎝×横 120 ㎝×高 90 ㎝）

●展示内容　正面玄関中央柱前に展示１柱１伝統工芸品（屋久杉・薩摩焼・大島紬等）

**文化節（ステージイベント）**９月１５日（土）～９月２４日（月）　　歩歩高ＳＣ１階広場

歩歩高広場１階に作った特別ステージにて、鹿児島の伝統芸能を始・文化・芸術・エンターテイメント・パフォーマンスなどを来店した長沙市民の皆さんに紹介・披露するイベントです。踊り、剣舞、フラワーデザイン、マジックショー、着物ショー。尚、オープン初日は「西郷・黄興子孫の方の歴史対面式」を計画しています。

**① 観光節（３０年の歴史パネル展示も含め）**９月１５日（土）～９月２　　歩歩高ＳＣ１階広場

長沙市政府による『長・鹿友好都市盟約３０周年の歩みパネル写真展』を中心に、鹿児島市と長沙市、そして鹿児島の観光連盟などの協力により、「ＤＶＤの放映、パンフレット配布」など、長沙市市民にかごしまをより深く理解してもらう企画。

**② お楽しみゲームやクイズ、抽選会など、子供にも楽しんでもらえる企画も考えています。**

● オプションとして、１６日から１８日（３日間）
観光ツアーを企画しました。映画「アバター」の背景になり、一躍、世界の有名観光地となりました武陵源（張家界）の旅を楽しみ下さい。詳細は別に参照。

旅行主催は南国トラベルと長沙市政府推薦の現地旅行会社のコラボです。

**ビジネスマッチング（地場企業）商談会　９月２１日（金）（旅程：9/20-9/24）　茉莉花国際ホテル**

茉莉花国際ホテル会場にて、鹿児島を中心とした企業様に自社商品やサービスの販路拡大の機会を創出する。商談会を希望する企業を募集し、その商品やサービスに関心のある湖南省、江西省の企業家と面談する事業。

１社当たり３社から５社のカウンターパートの紹介を長沙市政府を通じて依頼します。

尚、商談会ご参加の企業様には「観光貿易文化節」の物販のご協力もお願い申し上げます。募集企業は、10 社程度と致します。ご希望により長沙市に専門の通訳もお願いする予定です。

●市内近郊の視察研修（武陵源・張家界）も用意します

**3/９　大石副会長と 30 周年記念事業打ち合わせ**

一番の難関、中国での物流荷受けと国内配送業をイーライフ上海の蘇穎さんに委託成立。

あとは、日本側の輸出者を捜すだけ。それと、最大の難関である出店希望者の募集。

3/12　鹿児島市・県国際交流課、県特産品協会（出店者と展示品、既に中国に進出している業者）へ相談

3/14　鹿児島市国際交流課と共に陳さんと昼食会議（雷会長へ海江田会長からの親書託す）

3/28　連絡会議４名　元にて。
4/3　大石･村田部会長と事業打ち合わせ
4/11　鹿児島海陸運送（輸出乙仲さん）へ相談
4/26　鹿児島商工会議所ハンヤ祭り実行委員長へハンヤ踊り連のステージ演舞の相談
4/28 福岡から船間さんを迎えてそうしん３階にて会議
5/10　大石･村田部会長と事業打ち合わせ
5/24　船間さんを交えて、キリンにて会合。
6/1　鹿児島銀行貿易推進室長訪問相談
6/4　JETRO（日本貿易振興協会）中国食品輸出相談
　県特産品協会へ協力依頼・「漬物」メーカーさんに出品相談
6/6　鹿児島県観光交流局国際交流課課長・海外市場開拓班・鹿児島 PR 課へ相談
6/7　電通福岡　船間さん相談
6/12 ~ 6/16 長沙市訪問
　**※歩歩高百貨様が貿易ライセンスがないこと「輸入者」になれないことがわかる**
　**※雷会長に相談。貿易会社「輸入者」をご紹介していただく**
6/18 鹿児島貿易代理店 CTD さん、桜島貿易（上海）さんに相談
6/19 広東省中山市知人に相談（中山市での貿易、香港からの貿易等調べる）
6/21 海江田会長、大石副会長に相談
6/23 海江田会長、大石・天達副会長、村田部会長、青山事務長、小屋事務局長会議
6/27 鹿児島の薬局に「馬油」出品の相談・大石副会長と鹿児島県観光連盟へ相談
6/28 上海 SC 出品中の「醤油」メーカーに協力依頼
6/29 上海久光百貨店に出店中の「サツマイモ冷菓」メーカーに協力依頼・県特産品協会へ相談
6/30 海江田会長・大石副会長と相談
7/2　「さつま彫金」メーカー・醤油メーカーに出品協力依頼
7/3　「屋久杉工芸品」メーカー・「薩摩切子」メーカーに出品協力依頼
7/4　上海出品中の「バームクーヘン」メーカーに出品協力依頼
7/4 会長・大石・伊集院ソロプチミスト鹿児島三者会談（元）文化節の共催をお願いする。
7/6　輸入会社さんを紹介していただく
　JETRO（日本貿易振興協会）・県特産品協会・鹿児島県上海事務所元勤務の方へ相談
7/7　西郷さんにイベント内容、日程調整の相談（黄興・西郷隆盛子孫の１００年目の出会い）
7/7 貿易節に出品依頼と出ピン選びのため、丸新玩具卸部に行き、決める。あくまで委託とのこと。
7/9 文化節出演とフラワー展出品の為、西眞理子さんと交渉。
7/10　さつま工芸会の皆さんに説明会を開く
7/11　鹿児島海陸運送（乙仲さん）に相談、訪問する
7/12 悪天候の中、土屋、大石は物流、商流相談の為、福岡経由新幹線で大分へ日帰り出張する。
7/14 結果を報告の為、会長を交え会談。
7/18 昼、１５日の西郷＆黄興面接のあと、オープニング演武として津軽三味線日本一の石井さんに出演を依頼（森山氏の紹介）し快諾を受ける。交通費のみでボランティア出演。
7/18 午後３時～市国際交流課の意向を聞くことと、女性部から提案された物産協力の有無を聞き、計画通りの日程と、内容を実行するかどうか、を決める為、菊池会計、小屋交易部会計を交え討論会開催。
7/18　**資金調達難のため計画が強引すぎる、つまり、多額の負債を負った時に責任をだれが持つか。という話になり、先頭に立って努力している委員が個人賠償と決まり、事業遂行が決定されたがそこまでする必**

**要もなし、と翌日、会長の考え、予算担当の菊池委員の「これだけの委員会で、当の最高責任村田氏、事務局長竹下不在で決めるのは無理がある。との意見もあり。計画の縮小。大金のかかる物流契約を中止し、したがって１５日からの歩歩高での物産展と文化節（ステージイベント）を止めることにした。**

１７日鹿児島発　２４日鹿児島着

①、航空機の手配（補助金申請の為見積もりが必要です。）

②、現地宿泊　：　土屋・鄭のみ　茉莉花国際酒店で OK

私と鄭の２名は展示品の片づけや発送の支度準備もあるので

１７日鹿児島発　２５日上海移動

２６日上海発　鹿児島着です。　　南国交通トラベル御中　　緒方様

思いつきました。やばいです。

補助金申請は１か月前までです。７月末までに申請書を書き終わらないと・・・

小屋さんは会社の関係で休めるかわかりません。１７日組はなるべく多い方がいいので菊池さん、グループにも話しかけて見ましょう。まだいるかも知れません。東京発て長沙で合流可能なら大塚さんもメンバーに入れられます。　　**大石より**

17 日出発は、大石さん、小林さん、土屋、鄭くんの４名ですよね？

19 日出発が、村田さん、小屋さんでしょうか？

少しでも早くしたいですが、もう日程は 20 日～23 日までと決めましょう。歩歩高にもそれでお願いしています。鄭君から返答・状況を確認してもらいます。　　***土屋より***

大石様

おはようございます。昨日もありがとうございました。

さて、お詫び廻りですが、本日の日本郵便の結果次第（20 万円以内の運送代！？）ですが、今日と明日で動きます。

①、西郷さんについては、海江田会長からも一言のお電話が必要ではないかと思います。

②、黄偉民さんへも劉蓉さんを通じてアポイントをいただいたままです。

③、現時点でのお預かり予定品目について（屋久杉 5Kg　さつま彫金 12Kg　薩摩焼 35Kg：箱・梱包資材含む総重量）・ 商品は、ご協賛いただいている方々の商品を展示する方向ですよね。（特産品協会からではない）

④、◆結果的に、ハンドキャリーしてもっていけるだけの場合、私の主観でチョイスしていいですか？

⑤、小林さんご提案の展示資材に関する予算は、10 万円です。

※本日の日本郵便からの回答次第です。

金額根拠は小屋さんの試算を参考にしています。いかがでしょうか？

◎観光節のパンフレットがだいぶ重くなり、予算オーバーになる予想です。***土屋妥九***

**張　日さま**

お世話になります。

①、西郷さんの件、今回の 9/19～9/24 の間は訪問できません。

但し、海江田会長他、鹿児島にお招きしてお会いしたい希望はあります。

海江田会長が訪長時（9/20-9/23AM 中）に、黄偉民様とお会いして直接お伝えできればと思っています。②、雷会長のご紹介の貿易会社さま（湖南中鴻貿易有限公司さま）

郵便荷物（EMS）の受取人のお願いをして下さい。

**********

鹿児島県日中友好協会創立２０年鹿児島市日中友好協会創立４０年

# 中国留学生とサマーキャンプ（BBQ 大会）

**○初めての１泊キャンプ（南大隅・花瀬川キャンプ翌日は花ノ木農園・神川の滝）**天文館では夏のまつり「おぎおんさー」と、参議院選挙の投票日などなにかと賑やかな 2013 年7月２０日・２１日の２日間わたし達は南大隅の景勝の地、美しい緑と清流の里、千畳敷の石畳で有名な花瀬川にキャンプに　右 QR コードからユーチューブを

鹿大留学生を中心に国際大学・志学館大学・九州日本語学校の中国人留学生６０数名の１泊２日のバス旅行です。１日目はバーベキュー大会やキャンプファイヤーなどで賑やかな夜を過ごしました。キャンプの翌日、昨夜の疲れもそこそこに（と言うのは学生達に訊いたら寝たのは３時とか、４時とか、何をしてたのかな）近くにある障害者支援施設セルプおおすみを訪ねました。

生憎、日曜日の為働いている皆さんに接することは出来ませんでしたが、ここでは中村隆重理事長のもとに「共汗共育」をモットーに掲げ、利用者と職員が一体となって生産活動に励んでいます。
ここで作られる製品は、「福祉施設で作られた製品」の枠を超えて、消費者の厳しい理事長・中村…氏は「ＴＰＰなにするものぞ、５年後を目指し、にんにくや豚肉製品など本物の高級製品をひっさげて中国市場に打って出たい」と熱い思いを皆に語りかけました。「セルプ花の木」は広さが東京ドームの５倍あり、年間の精豚生産量は３０００トン、他に手作りハム、ソーセージ、ベーコンに餃子、ンバーグ、パン、ジエラード、青物では良質な「にんにく」の生産にこれから力を入れたいとのことでした。おいしい生産された豚肉や野菜の入ったカレーライス（人数が多いのでサービスとはいきませんでしたが）を戴いたあと、神川大滝の観光に向かいました。

**○2016 サマーキャンプ**　協会主催の留学生と日本人との交流バスツアーも最近は留学生たちも時間もお金も以前からすると余裕が出来てきたようなので主催と企画を両者で運営は留学生たちに任すというスタンスをとることにしました。　QR は鹿屋青少年自然の家カヌー体験 2016 今回はその第１歩です。「３年前のの花瀬川キャンプがよかったやはり夏の１泊が思い出になります」そんな意見が留学生の間で多かったようで今年は費用の少なくて済む鹿屋の「青少年自然の家」での合宿（サマーキャンプ）になりました。昼は海浜活動（カヌー体験）はハイキング夜は BBQ を楽しみながら学習発表や演芸会など学生相互（広い中国ですから）と日本（協

会員）人との交流を楽しみました。余談ですが、もともと４、５年位前（小林基起鹿大国際交流センター教授主宰）まではここ（鹿屋青少年自然の家）で『異文化共生事業』イベントが盛大に行われていて毎夏中国人だけではなく世界各国の鹿児島在住の外国人でそれはにぎやかなものでしたよ、と職員の方たちが話しておられました。

**○➡のQRコードをスマホで撮ると最新２０２４年（昨年）のキャンプをご覧いただけます。。**

## 2024サマーキャンプ

**は8月17日（土）18日（日）**時間：２０２４年８月１７日（土）～１８日（日）

場所：大隅青少年自然の家（鹿屋市）新城海の家（垂水市）

メインの骨組みは留学生（朱会長）一任しましたが、細かい、イベント内容（例えば、スイカ割りの棒の準備に飲み物、花火の購入など）とても素晴らしい完璧な準備でした。留学生（今回は短期の修生も多くいました）にとってこの日はきっと、貴重な回憶（鹿児島での想い出）になることでしょう。

帰りの船の中で彼らと話していました・・・、日本での最高の思い出になりました！と、又長沙で会いましょう！・・・こんどは、私たちがもてなしします・・と握手で、別れました。

**2025　県交流員・鄧麗霞と鹿児島市のアドバイザー・劉開麗さん**（南京市）のお二人は協会での交流の中でも想い出に残る二人です。特に鄧さんファミリー（ご主人とお嬢ちゃん）とのサマーキャンプも一緒でしたが、ここには一緒に行った花見の記録など忘れ難いメモリーを動画で残しました。

**水産学部　留学生学友会会長　　曾キイ**

まずは東高校の皆さん、サマーキャンプに参加し今回のキャンプですが、主催者として反省しないといけないことがたくさんあります。プレーホールのプログラム準備不足や、ハイキングの道迷いなど。しかし、皆さんの感想文を読み、「完璧なイベントでもなかったのに、こんなに楽しんでもらえてよかった！」と強く思いました。このイベントはぜひ今後とも末永く続けていってほしいです。私たちが卒業してここにいなくなっても、また後輩たちがこの日中友好の場を守り続けてほしいです！異文化に対して自分の理解ですが、話している言葉や日常の習慣が違っても、人間そのものは同じです。微笑みを見せたら、必ず微笑みがかえってきます。そうすれば、誤解があっても少しずつ解けていくでしょう。私は高校卒業して日本に来たが、すでに４年間経ちました。日本人と接したことのない中国人は、日本人に対してステレオタイプしか持ってないですが、逆も同じでしょう。しかし、実際に日本で過ごしてみたら、日本人はどれほど優しい人かはじめて身をもって感じました。皆さんも、ステレオタイプに左右せず、自分の目で確かめみたらどうでしょうか。参加してくれて本当にうれしく思っています。またほかの国際交流イベントでお会いしましょう！

# 鹿児島県日中友好協会創立２０年・鹿児島市日中友好協会設立創立４０年

## 全日本中国語スピーチコンテスト鹿児島大会

https://youtu.be/36bFvW-7-yU?si=gCYBCOkAK72Qhc5y

一方、鹿児島市日中友好協会では県の協会も設立したのを契機に、全国大会のある地方予選会として鹿児島県日中友好協会主催【全日本中国語スピーチコンテスト鹿児島大会】として回数も今年の大会（２０２４年）を第 42 回（協会イベントとしては第１２回目）として毎年開催しています。

第１回目は 2013 年（平成 25 年 10 月６日）佐藤理事が事務一切を仕切りました。会場は鹿児島商業高校講堂を借りました。

そして４年目の第４回大会が 2016 年（平成 28 年）10 月 23 日、宝山ホール４回で開催。

協会として初めて予選会を通過して鹿児島大学生の前原未来さんが東京大会に出場しました。

結果は優秀賞でしたが協会としては初めての快挙で、前原さんには交通費を出してあげました。

担当理事の濱野さんが引率しました。

その後、鹿児島予選のレベルは着実に上がっていきました。これは、出場者の母体である『日本語教室』の努力と初回から審査員であり当スピーチコンテストの担当幹事役の康上シオン（鹿児島国際大学教授で当協会の顧問）氏の努力によるものです。

QR コードの動画は２０２４年にあつた第４２回の『全日本中国語スピーチコンテスト鹿児島大会』のようすです。今回の動画は各部門の優勝者（1 位）のみの紹介になりました。審査委員長に福岡から中華人民共和国駐福岡総領事館の副総領事の成岩氏に遠路お越しいただきました。

入賞者は・・・・

スピーチ部門【一般の部】前原　瑞季（全国大会に出場、準優勝を勝ち取りました）

以下大学生・院生部門：　寺田　華愛・中・高生部門　仲　　漣音

朗読部門　　渡邉　純平

鹿児島県日中友好協会設立２０年・鹿児島市日中友好協会設立４０年

# 中国留学生＆日本人学生の友好活動（１日バスツアー）

学生部というくくりで初めて鹿大の学生さん達と接触を始めたのは２００２年の長沙市との友好盟約２０周年記念に行われた「中村義先生の【黄興と西郷】の講演」以降です。海江田さんに連れられて**鹿大の小林基起教**授を訪ねました。大石が「学生部協会世話人」をすることになり教授の指導の下に協会内に「中国語会話教室」を始めたのが、協会と（留学生を中心にした）学生部の始まりでした。其の頃の日中友好協会の活動図は学生部は顧問の小林先生以下、日本人学生（長谷法広・七枝章子）中国人（白銀平・金晶・田野飛）このあとの数年はすべての企画が充実していき、一気に体制作りが固まっていきました。小林基起先生の指導で中国留学生たちと交流が深まりました。

## 中国留学生と行く一日バスツアー

### ○2012年7月22日　中国留学生と行く夏天１日バスツアー開催

中友好協会と鹿児島大学・鹿児島国際大学の中国人留学生が共催して、恒例の１日バスツアーが行われました。目的地は阿久根市の長島の小浜海岸。阿久根市からうず潮の見える大橋を渡り美しい東シナ海をバスで走ること30分のところにあります。地引網を楽しんだり、日照りの中でのバーベキュー大会や、スイカ割りゲームなどを楽しみました。参加者は中国人留学生60名、協会関係の日本人15名の盛会でした。

### ○2014年は阿蘇高原を訪ねました。

毎年恒例の鹿児島市県日中友好協会が支援し鹿児島の大学に在住する中国人留学生と １ 日バスツアー2014 年は 80 名の留学生と 10 名の協会会員 90 名、バス２台で秋の阿蘇高原を訪ねました。

### ○2024年12月8日南薩摩の景勝地と歴史を学ぶ1日バスツアー

やや肌寒い薄日日和でした。鹿児島大学（中国本土各地からの交換留学生も多い）中国留学生 45 名（内、国際大学１名）他、県市の国際交流員　中国語を習う日本人中高生７名含む 60 数名の参加者でした。少し肌寒い陽気でしたが雨は降らず弱い太陽が心地よかった・・・そ

んな日和の催行でした。
鹿児島の観光地に中では幾分、マイナーな地を選びましたので道の険しい場所も多く、大型バスでは乗っていてヒヤヒヤし通しでしたが南国交通の運転手さんのハンドルさばきと、離合するクルマがいなかったのが幸いでした。中国の若者たちとの交流を通して思うことは、彼らは日本人学生に比べてかなり大人に見えることです。「しっかりしている」と言ったら分かりやすいかも知れませんね。女子学生にしても、もしここに日中の女子大生がいたとしたら、日本人学生は女子高生に見えるのでは？？そんな気がします。

## 鹿児島市の国際交流財団（旧 KICS キックス）イベントにもボランティア参加。

○2010 年 12 月５日、外国人 55 名、日本人 60 名スタッフ 20 名

**大型バス３台で晩秋の出水を訪ねました。**

主な訪問先は出水武家屋敷群、レストラン三蔵でのソロプチミスト出水の皆さんによる薩摩汁とおにぎりの昼食を戴き、12 月とも思えない暖かい芝生の会場では珍しい昔の薩摩武士やお姫様の衣装を着付け敷いて貰い記念撮影会や凧揚げなどを楽しみました。午後は●鎖国山感応禅寺を訪れ座禅の体験や島津家初代から五代目までの墓地を参拝し鶴の渡来地（つる観察センター）を訪ねました。

## 2008/5/18 春天留学生と行く１日バスツアー・宮崎日南紀行朝７時半、鹿児島大学図書館前

。今回の参加者は中国人留学生　４５名、日本人大学生　６名、協会会員６名（世話人）、小学生２人の計５９名。年々、人気のバスツアーになりました。

今回は留学生関係を鹿児島大学留学生学友会に１本化、今年の会長の孟クン（人文社会科・修士）にすべて任せました。例年、参加者が混乱して悩んでいましたが、今年は彼の活躍ですべて上手く進みました。協会の**学生部は児玉新会長**の活躍で今までの中で一番多い日本人学生の参加で、交流ツアーとしてはバランスが理想的でした。

バスの中では孟くんと日本人学生との絶妙のコンビでプロの南国交通バスガイドをまじえ、結構長い時間の車中を楽しく盛り上げていました。
絶好の天候に恵まれ、ちなみに翌日は大雨でした。愉しい１日バスツアーをすることが出来ました。
参加者が未だ多かったそうで、出来れば参加希望者は全部，行けるような企画が出来ればというのが協会企画部の理想です
縁があって鹿児島に留学中の中国人の学生、研修員、そして出来れば、鹿児島の市民になっている中国人ファミリィ、また、故郷中国を離れ日本の鹿児島に夢を抱きながら、いろんな理由から鹿児島市民や同胞の中国人ともあまり接していない帰国子女、その家族・・・など、中国に関っている多くの人に広く、呼びかけて１日楽しく過ごすバスツアーを企画してみたいと思っています。

# 鹿児島県日中友好協会創立２０年・鹿児島市日中友好協会創立４０年

## 全日本中国語スピーチコンテスト鹿児島大会

https://youtu.be/36bFvW-7-yU?si=gCYBCOkAK72Qhc5y

一方、鹿児島市日中友好協会では県の協会も設立したのを契機に、全国大会のある地方予選会として鹿児島県日中友好協会主催【全日本中国語スピーチコンテスト鹿児島大会】として回数も今年の大会（２０２４年）を第 42 回（協会イベントとしては第１２回目）として毎年開催しています。

第１回目は 2013 年（平成 25 年 10 月６日）佐藤理事が事務一切を仕切りました。会場は鹿児島商業高校講堂を借りました。

そして４年目の第４回大会が 2016 年(平成 28 年)10　月 23 日、宝山ホール４回で開催。

協会として初めて予選会を通過して鹿児島大学生の前原未来さんが東京大会に出場しました。

結果は優秀賞でしたが協会としては初めての快挙で、前原さんには交通費を出してあげました。

担当理事の濱野さんが引率しました。

その後、鹿児島予選のレベルは着実に上がっていきました。これは、出場者の母体である『日本語教室』の努力と初回から審査員であり当スピーチコンテストの担当幹事役の康上シオン（鹿児島国際大学教授で当協会の顧問）氏の努力によるものです。

QR コードの動画は２０２４年にあつた第４２回の『全日本中国語スピーチコンテスト鹿児島大会』のようすです。今回の動画は各部門の優勝者（1 位）のみの紹介になりました。審査委員長に福岡から中華人民共和国駐福岡総領事館の副総領事の成岩氏に遠路お越しいただきました。

入賞者は・・・・

スピーチ部門【一般の部】前原　瑞季

以下大学生・院生部門：寺田　華愛・中・高生部門　仲　漣音朗読部門　　渡邉　純平

鹿児島県日中友好協会創立２０年・鹿児島市日中友好協会創立４０年

2014 年（平成２６年）１月 23 日　鹿児島市天保山公園の共月亭近くに

# 「中国人養父母感謝之碑除幕式」

除幕式のＱＲコード

ＱＲコード除幕式法事

https://search.app/Gtd7MG8AnxCp2gm37　　URL クリックする

平成２６年１月２３日（木）午前１０時 30 分から天保山公園（鹿児島市与次郎）の共月亭南に表記の『碑』が建てられその記念除幕式がありました。２年前に協会に参加した鬼塚建一郎さんは幼小時代を中国東北部の牡丹江で過ごされました。第二次大戦の末期に、日本人成人男子が関東軍により国境警備に動員され、住民の大半は老人と婦女子だけであった。このような状況下で終戦後は交通も途絶し、内陸部へ入植していた開拓民の祖国への帰還は困難を極めていた。混乱の中で家族が離ればなれ、身寄りを失った鬼塚さんたち日本人の幼児たちは多くの中国人養父母に引き取られ、その家族の養育を受けることとなった。戦後、多くの日本人の幼児（孤児）たちは戦後遅く始まった「訪日肉親探し」により養父母のもとを離れ帰国した。

鬼塚さんは帰国後生活面で多くの苦労を味わったけれど、このように、ともかくも生き永らえて余生を日本で過ごせる身の上を顧みる時、終戦当時に自分たちに救いの手を差し伸べてくれた養父母たちに対して何か報いたい、感謝　の気持ちを形であらわし、末永く後世に伝えて行きたいとあちこち訴えて来ました。私たち日中友好協会の力を借り行政にも働きかけたいと、海江田会長に訴えられました。記念碑建立は日中友好協会がする事業ではないけど鬼塚さんの気持ちはよく理解できます。と海江田会長は県や市に何度も足を運びその努力もあり設置場所については鹿児島市の協力で天保山公園の共月亭隣の景勝の地に場所が決まりました。海江田氏と親交の深い前迫石材株式会社の前迫　実社長の破格の石碑代協力もあり全費用を遺華孤児鹿児島会と県・市日中友

好協会の負担で完成することが出来ました。当日は快晴に恵まれ、残留邦人、支援者 60 名程が碑の誕生を祝った。除幕式では主催者側として鬼塚会長、海江田会長、椿県日中監事の３人、来賓側は李　天然中国駐福岡総領事を始め鹿児島県知事、鹿児島市長の代理のお二方が赤いロープを引かれました。高さ２．６ｍの碑が姿を現すと出席者から大きな拍手が起こりました。

## 中国人養父母感謝之碑除幕式　　海江田会長挨拶

https://youtu.be/CuyOi42LCPU?si=_pQxHRJg3jmuDYHR

本日は寒さ厳しい時期に、またご多忙中の所、駐福岡中国総領事の李天然先生始め国会議員、鹿児島県、鹿児島市代表の御来賓並びに日本人遺華孤児会、日中友好協会会員のご参加を得まして「中国人養父母感謝の碑」の除幕式を取り行わせて頂きますことを誠にあり難く衷心より御礼申し上げます

一年程前に遺華孤児会の鬼塚会長より、第二次世界大戦後、旧満州で肉親と離ればなれになり現地に置き去りにされた日本人孤児を引き取り養育して戴いた中国養父母の感謝の石碑を建てるのが永年の宿願であるが、なかなか実現できないので日中友好協会の力を借りたいとの申し入れがありました。しかしこのような計画は全国でもあまり例を聞きませんので私共でも当初は協力を躊躇いたしておりました。

けれどもよく考えてみますと国籍を超えて日本人の孤児を救済された中国養父母の方々の人道的行いはその恩恵にあずかった孤児だけでなく、日本人のすべてが中国の人々の恩義に感謝すべきであることに気づき、また、「恩は石に刻め、恨みは水に流せ」と言う日本の古い諺も思い出されました。

昨年は丁度「日中平和友好条約締結」三十五周年に当たりましたので日中友好推進の記念事業として鬼塚会長の計画に協力を約しました。　その後紆余曲折はありましたが、幸いに鹿児島県、鹿児島市の御指導を仰ぎ当天保山公園に石碑建設の許可を昨年十月に鹿児島市より頂く事が出来ました。あらためて行政当局のご理解ご配慮に深く感謝申し上げる次第であります。

中国の古典「論語」に“孝は百行の本”―親孝行が人間のすべての行いのきほんである―と説かれています。戦後、中国に残留を余儀なくされた孤児の会員が“育ての親”の中国人養父母への感謝と顕彰を実行したことは親孝行の一端となり、又日中関係改善への一石を投ずることになることを期待し粗辞ではありますが共催者の挨拶に代えさせて頂きます。

## 中国側からの報道

終戦の混乱で中国東北部に残された日本人孤児を育てた中国人養父母たちへの感謝の石碑が鹿児島市天保山公園で 23 日、除幕された。鹿児島県在住の中国残留邦人と同県日中友好協会が建立した同石碑の除幕式には、中国在福岡総領事館の李天然（りてんねん）総領事のほか、鹿児島県の伊藤祐一郎知事、同協会の海江田順三郎会長ら約 60 人が参加した。新華網が報じた。

「中国人養父母感謝之碑」と刻まれた高さ約 2．5 メートルの石碑には、「中国養父母の人道的精神と慈愛心に深く感謝し、ご恩を永遠に忘れません」と記されている。

李総領事は除幕式で、「日本の軍国主義が発動した侵略戦争は、中国やアジアの隣国に甚大な被害をもたらしたと同時に、日本の国民も大きな被害を受けた。日本人孤児はまさに戦争の被害者。中国の庶民はこれら『敵の子

供』に憐みを示した。死の窮地から救い出しただけでなく、自分の母乳と広い心で彼らを大人まで育て、人類の戦争史上に仁義の歌を刻んだのだ。同石碑は、日本国民の中国の養父母に対する感謝の気持ちだ」と語った。李総領事はさらに、「日本の指導者の歴史問題における逆行と靖国神社参拝問題における独断専行に対して、中国やアジア各国の国民は深い懸念を抱いている」と指摘し、「歴史を胸に刻むのは、恨みを抱き続けるためではなく、悲惨な歴史を繰り返さないため。正しい態度で歴史と向き合ってこそ、未来がある」と強調した。

## 除幕式　南日本新聞

2014/01/22 南日本新聞

鹿児島県内の中国残留邦人らでつくる「日本人遺華孤児鹿児島会」と県、鹿児島市の日中友好協会が、終戦前後の混乱の中、幼い残留邦人を引き取って育ててくれた中国人養父母に感謝する碑を同市の天保山公園内に建立した。養父母への感謝の碑は全国的にも珍しいという。２３日午前１０時半、除幕式がある。

残留邦人で鹿児島市星ケ峯４丁目に暮らす鬼塚建一郎さん（７３）の提案に、県、市の日中友好協会が賛同。日中平和友好条約締結３５周年記念事業として実現。費用は３団体の会費や寄付金などで賄った。

鹿児島市と長沙市の友好都市締結を記念した共月亭近くに建てられた碑は高さ約２・５メートル。中国残留邦人が実の家族と離ればなれになり、中国人に引き取られた経緯などを記した碑文に加え、養父母への感謝の思いを込めた鬼塚さんの漢詩が刻まれている。

県社会福祉課によると昨年１０月現在、県内の中国残留邦人は５６人、配偶者は３０人。帰国して２８年になる**鬼塚さん**は「残留孤児は中国の養父母がいたから生きてこられた。念願がかなった」と感慨深げ。県、市の日中友好協会会長を務める海江田順三郎さん（８５）は「碑が日中友好促進につながってほしい」と話した。（福盛三南美）

## 朝日新聞　除幕式 2014/01/24 朝日新聞／鹿児島県

終戦の混乱で中国東北部（旧満州）に残された日本人孤児を育てた中国人養父母たちへの感謝の石碑が鹿児島市で２３日、除幕された。日中間で国同士の関係はこじれたまま。建立に携わった孤児や日中交流関係者は、この碑が友好を再び取り持つことを願っている。

感謝の碑は鹿児島市の天保山公園にできた。高さ約２・５メートルで、「中国人養父母感謝之碑」と記された。除幕式は市内に住む残留孤児、自治体など関係者約７０人を迎えて開かれた。

発起人で鹿児島市に住む残留孤児、鬼塚建一郎さん（７３）は「（感謝の碑は）日中両国の永久の絆になる」とあいさつし、感謝の気持ちを漢詩にして読み上げた。中国駐福岡総領事館の李天然総領事は「心より感謝を申し上げる。この厳かな雰囲気を目の当たりにして感無量の気持ちです」と述べた。

**鬼塚さん**は中国・黒竜江省出身。旧ソ連軍侵攻による混乱のなか、実父と生き別れ、実母とも死別した。凍傷や皮膚病で生死の境にあった５歳のころ、吉林省の農家、トウ兆学さん（当時４５）夫妻が引き取り、育ててくれた。約４０年間、北朝鮮国境の長白山（白頭山）のふもとでともに農業を営んで暮らした。１９８６年に帰国し、市内の量販店で定年まで働いた。中国では現地の子どもから「日本鬼子」といじめに遭うこともあったが、実子と分け隔てなく育ててくれた養父母に救われた。「残された私たちは、もし養父母たちが引き取ってくれなければみんな死んでいた」と鬼塚さん。「異国の孤児に救いの手をさし伸べてくれた恩を忘れてはいけない」と、感謝を示す碑の建立を思い立った。

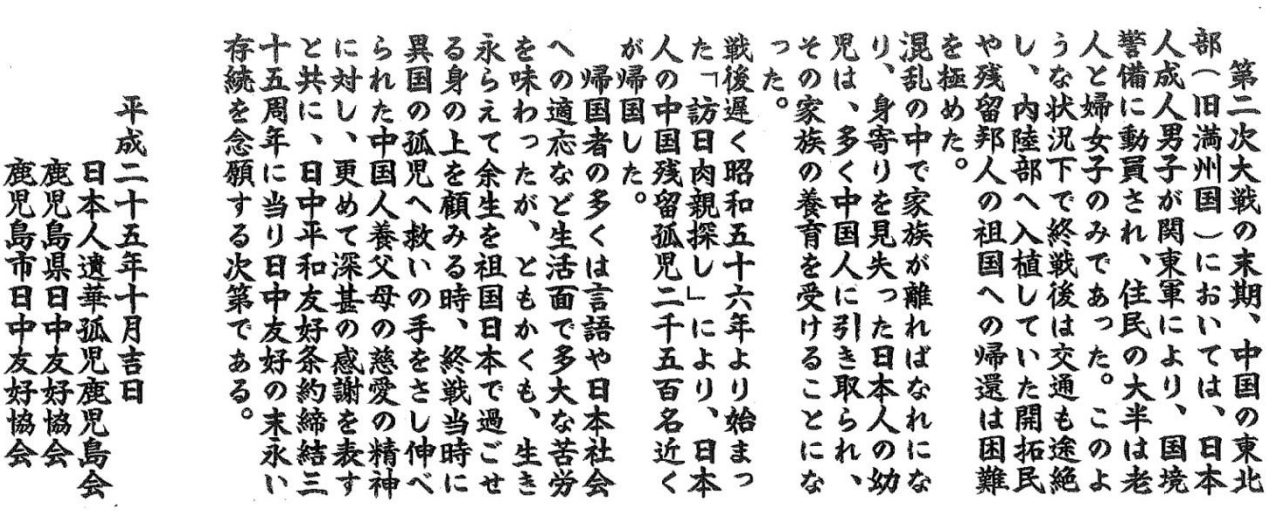
旧知の県日中友好協会長で高島屋開発相談役の海江田順三郎さん（８５）に相談し、互いの私財を投じての建立が決まった。東京に建てることも考えたが、快く市有地提供に応じた鹿児島市での建立を選んだ。

厚生労働省によると２０１３年１２月までに永住帰国した残留孤児は２５５３人。県内には１３年１０月現在、２５人おり、平均年齢は７５歳と高齢化が進む。この日、式典には約１０人が家族と訪れた。
遼寧省で育った残留孤児、高山文夫さん（７１）＝鹿児島市＝は「またここに来て、命を救ってくれた養父母のことを思い出したい」と話した。　尖閣諸島問題や首相の靖国神社参拝を巡り、きしみ続ける日中関係。海江田さんは建立を「国とか政府ではなく中国人と日本人、人間同士の付き合いを大切に考えるきっかけにしたい」と話し、こう期待する。「これを皮切りに、残留孤児がいる全国各地に『感謝の碑』が広がれば、日中関係も前進するんです」（小池）

## 解説

平成２６年１月２３日（木）午前１０時 30 分から天保山公園（鹿児島市与次郎）の共月亭南に表記の『碑』が建てられその記念除幕式がありました。

２年前に協会に参加した**鬼塚建一郎さん**は幼小時代を中国東北部の牡丹江で過ごされました。第二次大戦の末期に、日本人成人男子が関東軍により国境警備に動員され、住民の大半は老人と婦女子だけであった。
このような状況下で終戦後は交通も途絶し、内陸部へ入植していた開拓民の祖国への帰還は困難を極めていた。混乱の中で家族が離ればなれ、身寄りを失った**鬼塚さんたち日本人**の幼児たちは多くの中国人養父母に引き取られ、その家族の養育を受けることとなった。戦後、多くの日本人の幼児（孤児）たちは戦後遅く始まった「訪日肉親探し」により養父母のもとを離れ帰国した。
鬼塚さんは帰国後生活面で多くの苦労を味わったけれど、このように、ともかくも生き永らえて余生を日本で過ごせる身の上を顧みる時、終戦当時に自分たちに救いの手を差し伸べてくれた養父母たちに対して何か報いたい、感謝の気持ちを形であらわし、末永く後世に伝えて行きたいとあちこち訴えて来ました。
私たち日中友好協会の力を借り行政にも働きかけたいと、海江田会長に訴えられました。記念碑建立は日中友好協会がする事業ではないけど**鬼塚さん**の気持ちはよく理解できます。と海江田会長は県や市に何度も足を運びその努力もあり設置場所については鹿児島市の協力で天保山公園の共月亭隣の景勝の地に場所が決まりました。
海江田氏と親交の深い前迫石材株式会社の前迫　実社長の破格の石碑代協力もあり全費用を遺華孤児鹿児島会と県・市日中友好協会の負担で完成することが出来ました。



第二次大戦の末期、中国の東北部（旧満州国）においては、日本人成人男子が関東軍により、国境警備に動員され、住民の大半は老人と婦女子のみであった。このような状況下で終戦後は交通も途絶し、内陸部へ入植していた開拓民や残留邦人の祖国への帰還は困難を極めた。
混乱の中で家族が離ればなれになり、身寄りを見失った日本人の幼児は、多く中国人に引き取られ、その家族の養育を受けることになった。
戦後遅く昭和五十六年より始まった「訪日肉親探し」により、日本人の中国残留孤児二千五百名近くが帰国した。
帰国者の多くは言語や日本社会への適応など生活面で多大な苦労を味わったが、ともかくも、生き永らえて余生を祖国日本で過ごせる身の上を顧みる時、終戦当時に異国の孤児へ救いの手をさし伸べられた中国人養父母の慈愛の精神に対し、更めて深甚の感謝を表すと共に、日中平和友好条約締結三十五周年に当り日中友好の末永い存続を念願する次第である。

平成二十五年十月吉日
日本人遺華孤児鹿児島会
鹿児島県日中友好協会
鹿児島市日中友好協会

鹿児島県日中友好協会創立２０年・鹿児島市日中友好協会創立４０年

## 中国人養父母感謝之碑除幕式後の『法要』鹿児島市西本願寺にて

当日は快晴に恵まれ、残留邦人、支援者 60 名程が碑の誕生を祝った。

除幕式では主催者側として鬼塚会長、海江田会長、椿県日中監事の３人、来賓側は李　天然中国駐福岡総領事を始め鹿児島県知事、鹿児島市長の代理のお二方が赤いロープを引かれました。高さ２．６mの碑が姿を現すと出席者から大きな拍手が起こりました。

### 法要

https://youtu.be/ep3lUOTWFgM?si=dzJmy-FhklU_W6Oc　左クリック

鹿児島県市日中友好協会と遺華日本人孤児鹿児島会では終戦時旧満州にて親と離ればなれになり中国人養父母に助けられやがて帰国した残留孤児の方々がその恩に報いる為感謝之碑を立てました。

除幕式は１月２３日鹿児島市与次郎の公園に建ち盛大な除幕式を行なわれました。今回、その法要が３月１９日（水）鹿児島市の西本願寺鹿児島別院に於いて盛大にとり行われました。

## 「中国養父母への感謝の碑」の建立について

質問１　建設費用は、全部でいくらかかりましたか

答え：祈念碑の総工費は１５０万円、値引きして貰い１２６万円でした。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| その詳しい内訳は：主碑 | 高さ 1.8m | 巾 60 ㎝ | 奥行３０㎝ | ３０万円 |
| 台座 | 50 ㎝ | 巾 1200 ㎝ | 奥行 700 ㎝ | ３８万円 |
| 縁石 | | 3.2m × 1.5m | | １３万円 |
| 文字彫刻＆施工 | | | | ３８万円 |
| 説明文 | | | | １８万円 |
| 計 | | | | １４３万円 |
| 値引き | | | | ２３万円 |
| 税込最終値段 | | | | １２６万円 |

◎石種は中国湖南省の石を使用しました。

質問２　建立費用はどのようにして、だれがどれだけ負担されましたでしょうか。

答え：鹿児島県日中友好協会、鹿児島市日中友好協会。海江田順三郎会長
日本人遺華孤児鹿児島会会長　鬼塚建一郎氏、以上の４者によるほぼ均等割り
で記念碑の費用を出しました。尚、鹿児島市は天保山公園敷地を無料提供して貰いました。

質問３　碑の設計図は、だれが考案されましたか。
答え：　海江田会長と前迫石材の前迫実氏（石碑建立に詳しい）の二人。
質問４　中国総領事、国議員、県議会議員など、政治家への、除幕式参加依頼は誰が尽力されましたか。
答え：　鹿児島県日中友好協会事務局長　濱野幸一郎さんです。
質問５　除幕式には、何人くらい参加されましたか。
答え：　除幕式の翌日２４日の南日本新聞によると「残留邦人、支援者ら約５０人が碑の誕生を祝った」とあります。大体７０名ほどだったと記憶しています。
その参加依頼書はどこが発送してくれましたでしょうか。
答え：　鹿児島県日中友好協会事務局長　濱野幸一郎さんです。
質問６　碑の建立に向けて、会議・打ち合わせを何回開催されましたか。
答え：　実行委員会（海江田・濱野・鬼塚・佐藤・大石・除幕式設営業者）を設け　７回～８回ほど開きました。
質問７　除幕式典の費用は？
鹿児島市日中と鬼塚氏から援助して貰いました。　１２万円

中国人養父母感謝之碑　除幕式

日時　平成２６年１月２３日（木）　開会午前１０時半より　天保山公園内
仏式　開会の辞
「皆様お待たせいたしました。ただ今より『中国人養父母感謝之碑』除幕式の仏事を執り行わせて戴きます」
法事は浄土真宗本願寺派・鹿児島別院さまにお願いいたします。
「皆様、ご起立をおねがいします」僧侶が正面を向いた時「一同礼！」　『御着席ください』
●進行は浄土真宗本願寺派の方にお任せします。（司会進行も）主催者来賓１０名程のお名前、役職を前もって西本願寺の総務部長・暉峻康郎（テルオカヤスオ）様におねがいしました。
除幕式
「それでは除幕に移らせて戴きます」「お名前をお呼びしますので恐れ入りますが，まず向かって右側にお進み願います」
〇中華人民共和国福岡総領事　李天然様　〇鹿児島市副市長
続きまして次の方は向かって左側にお進み願います。　〇参議院議員　保岡興治様
〇鹿児島県日中友好協会　海江田順三郎会長　〇日本人遺華孤児鹿児島協会　鬼塚健一郎
それでは皆様！　紐をお取りください。そして、わたしの１２３の合図で紐をおひきください。
「１．２．３ハイッ」
ここで中国東北部（旧満州国）において中国人養父母に引き取られ、数年間温かい養育を受けられた鬼塚健一郎様に自作の漢詩を中国語で朗詠して戴きます。先に日本語訳を説明させていただきます。
【式典】
〇開会の辞　「ただ今より式典を始めさせていただきます、まず主催者を代表して日本遺華孤児鹿児島会の鬼塚健一郎がご挨拶申し上げます。
〇次にお二方より祝辞を承りたいと思います。
まず中華人民共和国福岡総領事　李天然様にお願いいたします。有難うございました。
〇ここで感謝状の贈呈を行います。
中国人養父母感謝の碑建立施工者　前迫石材株式会社　代表　前迫　実様
●閉会の辞　司会者より参加者に簡単なお礼のことばを・・・・　以上

# 鹿児島県日中友好協会創立２０年・鹿児島市日中友好協会創立４０年

## 中文学習会（チャイナサロン）若者の語学交流サロン

中文学習会とは、中国の留学生が日本の高校生に中国語を教える学習会です。鹿児島大学と国際大学の中国人留学生たちが、高校生に中国語を教えています。場所は公共施設の会場です。学習の方法は、参加する生徒に学校の中国語の教科書や中国語検定のテキストなどを持参してもらい、その中の分からない箇所や発音を留学生が教えるというものです。出来るだけ１対１教えるようにしています。

生徒達は大変熱心で、殆どの高校生が休憩を取ることなく勉強しています。学習会は６年前に始まりました。今年から日本の大学生向けのプログラムも追加しました。この学習会が縁となり、**福岡総領事と県立鹿児島東高校との交流会を実施しました。**１回目はコロナ禍でしたので、オンラインで総領事館と高校の教室を繋いで交流をしました。

**２回目は昨年、東高校の体育館で高校生と若い領事との交流会を行いました。**参加した高校生は領事たちと日本のアニメの話で盛り上がっておりました。今後も若者の交流を増やしたいと思っています。留学生と協会のジョイントイベントはサマーキャンプや１日バスツアーそして春節パーティなどがありますが、語学を通してお互いが相互学習をする試みは、従来ある『中国語教室』とはまた一段階アップしたものが、お互いに得られると信じています。　　鹿児島県・市日中友好協会　会長　鎌田　敬

**２０１９年2月３日に已下の主旨、内容、日程で名称は『中文談話室』としてうぶ声をあげました。**

**趣旨：**　鹿児島大学及び同大学中国人留学生学友会の協力を得て、県内高校生等の中国語学習に貢献する為、中文談話室（チャイナサロン）を月１回程度開催する。

これは、中国語に関心を持つ高校生などに中国人留学生との交流を通して、ネイティブな中国語を直接聞き中国語に親しみを持ってもらい、ひいては日中友好を志す人材に育って欲しいとの思いからスタートするものです。

２、内容：〇中国語検定受験希望者にヒアリングを中心とした特訓
〇中国語スピーチコンテスト出場希望者に発表分作成のお手伝い
〇その他日常生活や旅行等に必要な中国語会話

●第 1 回の『餃子教室』が鴨池の公民館にて開かれました。鹿大の中国人留学生や高校生の愉しい交流会でした。
基本は中国人留学生と日本人高校生や大学生との語学の学習であることには違いない。この『チャイナサロン』を活用して、協会内における若者（日本中国学生部）の活動の幅を広げたいと考えている。担当する石原俊文さんの活躍が期待されている。いろいろな企画が石原さんから提起される。そのいくつかを上げてみる。

**左の QR コードから『チャイナサロン』をユーチューブ動画で観ることが出来ます。**

県・市日中友好協会は、「日中鹿児島の青年友好交流の勧め」のコンセプトも踏まえ、「中国人留学生会」の協力をもらい、留学生が高校や大学で中国語を学んでいる学生と対面して「中国語検定受験」挑戦を、応援する取組を進めたい。　　世話人　石原俊文

# 鹿児島県日中友好協会創立２０年・鹿児島市日中友好協会創立４０年

## 九州日中友好交流会議・福岡総領事祭事・九州地区ブロック会議・中日友好会議の軌跡

左 QR は唐家璇氏ご挨拶(2013)

鹿児島県日中友好協会長　鎌田　敬　第 17 回日中交流会議に参加して

『**金の橋を渡って**』

今回の訪中は中国政府の招聘で実現したもので、11 月７日に開催される第 17 回日中交流会議に参加することが目的である。九州から 37 名全国から 100 有余名の参加があり、鹿児島からは私を含めて４名の参加があった。訪問地は北京と南京である。久しぶりに訪れた北京は、以前は道路を埋め尽くしていたアウディの黒のセダンが姿を消し、日本車が増えているのに驚いた。街中もゴミがなく清々しい。

観光地の古い街並みでは、漢時代のきれいな服装をして記念撮影をしている女性を多く見た。街には近代的なビルが増えているが、そこに住んでいる人たちの意識がかなり変わってきている気がする。その日の夕刻に長富宮飯店にて歓迎会があった。「**第 17 次中日交流会議歓迎晩宴**」である。

中国人民対外友好協会会長の楊万明氏が、また中日友好協会常任副会長の程永華氏が挨拶をされた。程永華氏は、日中国交回復後、初の国費留学生６名として入学して来られた。その中には大使になられた程永華氏を始め長崎総領事をされた藤安軍さん、札幌総領事をされた許金平さんが居られた。私が創価大学２年の時である。

セレモニー終了後に程氏とお話しをした「私が留学中には、日本政府は何もしてくれませんでした。その時に私の学生生活を支えて下さって有難うございました。私の学業を支えて下さって有難うございました。

このことを４年前に伝えたかったのですが、コロナで今になってしまいました。」と創立者池田先生を偲んで言われた。

私はこの言葉を創立者にお伝えしたかったのであるが、帰国後５日目に創立者はお亡くなりになった。お手紙を出すことも出来なかった。かえすがえすも残念である。

翌日の「**第１７次中日交流会議**」は日中双方から２５０名の参加者で会議が行われた。

会議は４つの分科会に分かれて、それぞれ発表と意見交換が行われた。会議では日中双方からそれぞれ５．６名の発表者が日中友好の活動について報告を行った。私も第４組で発表した。

中国側の発表の中で、中国の少子高齢化を取り上げ、**今後日本の介護事情の取り扱いを参考にしていきたいという発表があり、少子高齢化問題で世界の最先端にある日本の事情を考えさせられた。**

その日の夜は程永華氏のご招待で、九州のメンバーは北京のレストランで歓待を受けた。程氏はひっきりなしに写真撮影を求められ、食事を取る暇もないほどであった。私も同行の鹿児島国際大学の学生２名と一緒に写真を撮った。程氏と久しぶりに学生時代の話も出来た。食事は北京ダックが２回も振舞われるという豪華なものであった。　翌日は高速鉄道、中国の新幹線で北京から南京まで移動した。時速 350ｋｍで疾走する列車で、４

時間ほどで南京南駅に到着した。寒い北京から一転して鹿児島のように暖かい南京へ到着した。南京はプラタナスの街路樹が亭々と生茂る古都である。

**南京で特筆すべきは南京虐殺記念館の訪問である。**

最初に献花所で献花と祈りを行った。それから記念館に入館した、記念館に来たのは２回目であるが、以前より大きく設備も充実してきており、来館者も増えている。

私は持参した数珠で発掘された遺骨の前と、万人坑の遺骨の前とで慰霊のご祈念をさせて頂いた。

来るたびに思うのは、日本人の好戦的な民族性である。日本の明治以降は外国との戦争の歴史である。

平成以降に戦争はないが、これがいつまで続くという保証はない。

我々は戦争を起こさないという不断の努力を続けなければならない、と改めて思った。

　それから南京師範大学を訪問した。東洋一の美しい大学と称されるキャンパスは、緑に満ちていた。

日本のマスコミの報道に反して、中国は着実に進化し発展している。これは教育に力を入れているからだと思う。大学等の教育機関の充実もそうだが、今回行われた会議にしても通訳に若い人を登用し、参加者にベテランの通訳を配し、通訳の間違いにその場で指摘して実践的に教えているのを見ると、若い人の育成に力を入れているのが窺い知れる。

海を見ると目に入るのは波の高さや風の強さで潮の流れは見えない、巷間流布されている中国への批評は波の高さや風の強さであるが、中国の潮の流れは悠久として、進化を繰り返して広く流れている気がする。

**『金の橋を渡って』　2025・３・２６「九州中日友好交流大会・歓迎夕食会にて」**

鹿児島県日中友好協会理事長 鎌田 敬

本日は発表の機会をいただき誠に有難うございます。

私の日中友好協会との関わりを述べたいと思います。

（略）私は中国の中日友好協会の副会長をされている程永華さんと同じ大学で２年間を共に過ごしました。

１972 年に日中国交回復をし、1978 年に平和友好条約を締結します、その間の激動の６年間の 1975 年に、国交回復からの初めての国費留学生６名が母校の創価大学に留学されてきました。（略）

…唐家セン会長のお話しの中で・・・「いくら漕いでもなかなか前には進まない、しかし、漕ぐ手を休めるとアッ！という間に流されてしまう。我々は、どんな時でも、中日友好の旗を降ろしてはならない。

大切なのは若い人の交流である。若い人は中国の未来である、若い人は日本の未来である。若い人の交流に尽力して欲しいと、わたくし鎌田は鹿児島の地で日中の若い人の交流を進めています！

中国と日本の間には先人たちが築いた「金の橋」が架かっています。それは日中の国交が回復する以前から先人たちが築いた金の橋です。本日この橋を渡って楊萬民対外友好会長ご一行の皆様が福岡に来て頂きました。

これ程嬉しいことはございません。今後も多くの若者たちがこの橋を渡るよう尽力してまいります。

それでは❣中日の更なる発展を祈念して、乾杯したいと思います！！

## 中華人民共和国駐福岡総領事楊慶東着任レセプション

２０２４年4月２２日（月）18:00―20:00　ホテルニューオータニ　博多４階　鶴の間

中華人民共和国福岡駐総領事館 楊　慶東総領事の着任歓迎レセプションが開催されました。新着任の 楊慶東総領事のご挨拶のあと熊本県知事の挨拶、元衆議院議員山崎　拓、防衛副大臣　鬼木　誠氏らの挨拶が続きました。楊慶東総領事は当日招待参加された九州各県の日中友好協会の皆様方へ 笑顔で対応されていた。鹿児島からは華僑総会 楊忠銀会長、 県日中友好協会 海江田順三郎会長を始め 鹿児島市の 松山芳英副市長、 鹿児島市日中友好協会 鎌田　敬会長 、鹿児島県日中友好協会女性委員会委員長 天達美代子が招待されました。**写真は総領事と記念の一枚である。**参加者は600 名位とのことです。

ご 招 待

このたび、中華人民共和国駐福岡総領事に着任し、下記の通りレセプションを開催いたします。何卒ご光臨くださいますようお願い申し上げます。

中華人民共和国駐福岡総領事　楊 慶 東

2024年3月吉日

記

日 時　2024年4月22日(月)　18:00－20:00
場 所　ホテルニューオータニ博多4階 鶴の間
福岡市中央区渡辺通1-1-2　TEL:092-714-1111

★お手数ですが同封返信はがきで4月12日(金)までにご出欠をお知らせください
★ご来臨の際は本状を受付にご提示いただきますようお願いいたします
★レセプションについての問い合わせは 092-715-4435(楊) 092-781-2288(練)　No.0183

**鎌田コメント**

600 名程の参加、松山鹿児島市副市長も参加して頂きました。鹿児島市からの参加は始めてです。総領事館と鹿児島市の交流が始まります。

私は副市長を連れていろんな方に紹介したり、紹介されたりと今回は人と人との交流活動に忙しく、レセプションの内容は観ていませんでしたので殆ど解りません。山崎拓先生とお会いして激励を受けました。因みに森山派は山崎派を警鐘しているとのことで、鹿児島に縁の有る先生です。

**天達美代子コメント**

４月 22 日(日) 場所は ホテル　ニューオータニ博多の４階、鶴の間での 中華人民共和国駐福岡総領事 楊慶東　総領事の着任レセプションにご招待を受けました。

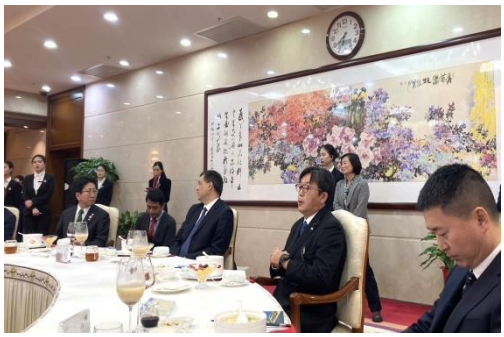
おもてなしを嬉しく総領事は私たちが帰る時まで、気にかけて下さっていました。

また今回が初めての鹿児島市の松山副市長の参加は、これからの九州日中友好交流のつながりを有意義な交流に繋いだ。

**●…JAPAN-CHINA FRIENDSHIP ASSOCIATION**

君たちは今日から、標準語を話すようにして欲しい。大切な中国の留学生だ、正しい日本語を覚えて貰わないといけない。方言はやめて標準語を話すようにお願いしたい。」と言われました。

私の話す日本語の標準語が大変流暢なのは、中国の留学生のおかげであります。その程永華さんが 2010 年に大使になられたことを聞き、私は福岡の中国総領事館に連絡を取り、「私は今度大使になられた程永華さんと同じ大学の者ですが、何か私にお手伝い出来ることはないでしょうか。」と言いましたら、「一度お会いしましょう」と李天然総領事が言って下さり。お会いしました、「あなたは何が出来ますか。」と言われましたので、「私は行政書士というビザの専門家で、九州の会長をしております。各県に中国の方のビザの相談窓口を作っては如何でしょうか。」と提案し、李天然総領事と九州各県を回り相談窓口を作りました。



その時に「あなたはなぜ日中友好協会に入らないのですか。」と言われ、「そうだ日中友好協会に入ろう」と思い入会し、

現在鹿児島市の会長と県の副会長理事長を致しております。

さて、コロナの始まった 2020 年の 1 月に会員の趙君より、「中国で N95 という手術用のマスクが不足していて、手術が思うように出来ない。

●…また、当協会は、留学生との交流をしており、県内の中国語を教えている高校の生徒に留学生が中国語を教える「中文学習会」を行っております。高校生達は学校の教科書、中国語検定試験の教科書を持参して留学生から 1 対 1 で中国語を教えて貰っています。高校生は驚くくらいに熱心で、3 時間休みもなく教えて貰っています。

総領事館より高校生との交流をしたいとの話があり、学習会に参加していた県立鹿児島東高校に話をすると、交流会をしましょうということになり、東高校の体育館で全校生徒と総領事館の副総領事、領事達とで交流会を開催しました。

領事から「私は日本のアニメに興味を持ち、日本語を学び領事になりました。」という話があり、高校生達とスラムダンクやワンピースのアニメの話をして盛り上がっておりました。またコロナ禍の最中に留学生から、コロナ禍でアルバイトが激減し生活が大変ですと言われ、私は政府機関の職業安定所に出かけ相談をしました。職業安定所には現在外国人担という部署が出来ており、そこで留学生にアルバイトを紹介できるそうで、バイト先の資料を頂ました。その資料を留学生に配り、職業安定所に相談に行くように連絡しました。●そして私は南日本新聞に連絡を取り、中学生達の募金活動を是非取材してくれるように頼みました。数日後に新聞に、中学生達が地元のスーパーの前で募金活動をしている記事が写真と共に掲載されました。

募金活動をしていると買い物に来たお母さん達が、「私も伊敷中学の卒業生よ、あなた達が立派なことをしてくれて本当に嬉しい。」と言って寄付をしてくれたそうです。学校から連絡があり、集まった募金を受け取りに行きました。殆どが 100 円玉や 50 円玉で 10 万円ほどのお金が、大きな袋に詰められていました。

その袋と「山川異域 風月同天」と書かれた中学生達が作った色紙がありました。「山川異域風月同天」という言葉は、中国へのメッセージとして、中学生達がインターネットで調べて書いたそうです。それらを携えて総領事館に届け、感謝状を頂き中学に届けました。校長先生、生徒達がその感謝状に大変喜んで頂きました。

コロナが激しくなり、外出も思うように出来なくなり、総領事館より、伊敷中学にお礼に行きたいのだがコロナで行けないのでオンラインで交流をしたい。との連絡があり、夏休みに伊敷中学と総領事館とのオンライン交流を致しました。

そしてコロナの開けた昨年に律桂軍総領事は鹿児島を訪れ、伊敷中学を訪問し校長先生に、募金の礼を丁寧に言われました。「中国は伊敷中学がしてくれた募金のことは決して忘れません。是非皆さん中国に来てください

」と言われ、校長先生は大変喜んでおりました。

●…海江田会長が理事をしている南風病院に行きお願いをすると、承諾して頂き 1 万枚のマスクの贈呈をして頂くことになりました。N95 のマスクを集めていることを聞いた留学生達が、時は一般のマスクも不足している状況でしたので、留学生達がマスクを母国に送ろうという運動をはじめ、鹿児島大学と鹿児島国際大学の学生達が力を合わせて 1 万枚のマスクを集めました。

集めたマスクはいずれも福岡の総領事館を通じて中国へと送られました。南風病院での手術用マスクの贈呈式と留学生が一般のマスクを集めた活動の様子は、地元の南日本新聞にそれぞれ掲載され、大変な反響がありました。数日後、私の携帯に電話がありました、市内の伊敷中学の生徒会長の女生徒でした。

「新聞を読みました。私たち伊敷中学の生徒会は中国の支援活動を生徒会活動にしたいと思います。是非話を聞いて下さい。」と言われ、伊敷中学を訪れ生徒会長、担任の先生、教頭先生と話をしました。生徒会長から「中国にマスクを送ろうと思いましたが、今はどこにもマスクを売っていません。ですから募金をして中国に送ろうと思います。計画書を作りましたから見て下さい。」と言って手渡された計画書には、タイトルになんと「中国救うぞ大作戦！！」と書かれていました。計画内容もしっかりしたものでした。私は「君たち凄い。本当に凄い是非募金活動をして下さい。集めたお金は私が責任を持って総領事館に届けます。」と約束しました。

そして私は南日本新聞に連絡を取り、中学生達の募金活動を是非取材してくれるように頼みました。数日後

**●…以下は鎌田敬氏が北京で開かれた第 17 回中日友好交流会議の際に、発表したスピーチです。**

**=●「2015 年度九州日中友好交流大会」が9月 25 日（金）ホテルニューオータニ福岡にて開催されまし**た。　　日中国交正常化５０周年記念大会　右 QR コードから

今年は『**中華人民共和国成立６６周年国慶節祝賀会**』も同時開催されました。会議内容は以下。

① 福岡県日中友好協会代表挨拶・会長：松本　　龍

② 中国駐福岡総領事代表挨拶　・総領事：李天然

③ 日中友好協会会長：　**丹羽宇一郎会長の基調講演**（５０分）

④ 中日友好協会会長：　**王秀雲**副会長より基調講演（５０分）

日中友好交流会議　２０２２オンライン　右 QR コードから

今回、加藤紘一前会長から新しく会長になられた前駐中国日本大使の丹羽さんの基調講演が当日参加された九州の日中関係の会員方の注目―ある意味期待―を集めたのではと思われます。

氏は淡々とした語りで「実は今日は予定していた話はやめて今現在、自分が思い浮かぶ話を語って行きたい」と云うのが出だしの挨拶でした。

今日渡米した習近平主席がアメリカでアメリカの首脳とどういう話の展開になるのか？そんなおはなしから講演は始まって行きました。まあ、いろいろなおはなしがありましたがつまりは、日米にしても日中にしても「いろいろ小さいことはあるでしょう。―尖閣の問題も、南シナ海の問題もちいさな問題？―ちいさな問題はお互い長い目で時間をかけて解決してゆけばいいじゃないか。

私は何度も習近平さんに会いました。そして言っておられました。「中国と日本はおたがい住所変更は出来ませんね。仲良くしないわけにはいかないでしょう」と。

でも３２代続いて来た日本総理大臣と中国政府との友好関係を安倍内閣が壊すような無責任な態度はとらないで戴きたい。・・・そんな話です。

「わたしは２つの提案したい。東京都と北京で２年後の２０１７年―この年は日中国交正常化から４５周年を迎えます。習近平内閣の第２期がはじまります。―

この記念すべき年に大きな国家式典をやろうじゃないか。これからその準備をはじめましょう。もう一つは日中の姉妹都市（友好都市ですよね）どうしでも大きな式典をする。それは、国ではなく民間から提案し盛り上げていきたい。・・・６時からの国慶節祝賀会の際、会員の皆さんと交流（挨拶）があるのかと思って参加しましたがそんな機会はなく早々と東京？へ帰ってしまわれ残念でした。近くで顔も見れませんでいた。―チョット愚痴を―さて　―２０分の休憩の後第２部として二つの班に分かれての分散会―

共通のテーマは日中地域民間交流を中心として（環境・経済・留学生）

私たち鹿児島日中は海江田順三郎鹿児島県市日中友好協会会長が座長を務める第２分散会（経済）

まず日本側からは佐賀県日中の犬山俊郎氏による『小城地区日中友好協会のとりくみ』
中国側からは劉舫氏による『大連市による中日友好のとりくみ』と広州市から来られた朱さんの『広州市による中日友好のとりくみ』・・・この後の折角中国からいらした友好会員方との意見交換の時間も一人一人の話が長く、時間を押されてしまい尻切れで終わってしまいました。残念と失礼では。

## 鹿児島県日中友好協会創立 20 年・鹿児島市日中友好協会創立 40 年

## 鹿児島市の小学校児童と長沙市の小学校学童との交流

２０１９年～２０２１年の３年間（コロナ禍直前）女性委員会の設立前夜、**天達さんも中心になって**湖南省の長沙市の小学校の生徒さん３０名程を校長先生他担任の先生方と一緒に、鹿児島市の小学校を訪問して児童交流を催しました。市内の「山田小学校」「荒田小学校」「清水小学校」などと児童同士の交流はとても素晴らしいことです。私たち役員もボランティアで御手伝いをさせていただいていますが本当にほのぼのとして感動させられることがいっぱいあります。
**２０１８年1月８日～１０日**に行われました。

『長沙市芙蓉区育英第二小学校』生徒２２名が『異文化交流ホームスティ』として鹿児島市と姶良市の家庭に滞在しました。

**鹿児島文化交流協議会　会長天達美代子**（鹿児島市日中友好協会　副会長）が**主催団体**で、鹿児島市日中友好協会が賛助という形になります。天達さんからの報告は以下の通りです。
「ホームスティ受け入れの際、姶良市と鹿児島市の家庭に２泊するための歓迎会をジェイドガーデンでおこないました。
対面式の後それぞれの２２名は鹿児島市内、姶良市の学童受け入れ家庭（ホストファミリーと言います）に滞在。次の日は鹿児島市役所前からマイクロバスで移動して姶良市の山田小学校に於いて、校長先生の心からの受け入れご指導の下すばらしい学校交流となりました。

交流を終えて移動―鹿児島市役所を表敬訪問し終了後、ホームステイの為姶良方面と鹿児島市役所前で受け入れ家族に引き渡し式を行いました。

中国・長沙市の児童とふれあい
荒田小

鹿児島市と姉妹盟約を結ぶ中国・長沙市の小学生と、鹿児島市の荒田小学校4年生67人の交流会が29日、同校であった。互いに地元の良さをPRし一緒にゲームを楽しみ触れ合った。

長沙市の一行は「文明小大使」として九州を訪問した青園小児童、教員ら約30人。荒田小児童は桜島ハミカンや黒豚、かるかんなど鹿児島名物を中国語を交えて紹介した。「友達をつくろうゲーム」では必ず両校の児童が入るようにグループをつくり、名前を教え合うなど通訳を介して話した。

青園小5年の朱雪さんは「また鹿児島市に来ることを楽しみにしています」とほほ笑んでいました。

ゲームで交流する荒田小と長沙市青園小の子どもたち＝29日、鹿児島市荒田1丁目

国際交流

移住者の集い
外国人も参加

県内のU・Iターン者や外国出身者が交流する「かごしま移住者のつどい」が24日、鹿児島市本港新町の北埠頭旅客ターミナルであった。かごしま企業家交流協会が、移住者を支える場をつくろうと開き、県内から約120人が集まった。

3人の外国出身者が移住体験を発表。鹿児島市などで料理店を開くカーン・モハマド・

切り合う　つながる　連携する

長沙市外事弁公室の後援という形ではこの後、**２０１８年７月１４日から５日間**（１８日まで）「日中平和条約締結４０周年親善交流 in 長沙」と銘打ったイベントが長沙市であり、天達美代子氏が代表となる交流団が１月に来訪した芙蓉区第二育英小学校を訪問して、当地の父兄との親善交流が行われました。

## 鹿児島県日中友好協会創立２０年鹿児島市日中友好協会創立４０年

**2021年（令和3年）5月22日　サンロイヤルホテル**

# 鹿児島県日中友好協会女性委員会　創立記念式典

右の QR コードから創立記念式典のダイジェストをご覧いただけます。

## 鹿児島県日中友好協会女性委員会　１周年記念イベント

https://youtu.be/RuoakCkVJQY

**記念講演　原口　泉**

**令和４年５月２２日（日）宝山ホール**　演題　　**『鹿児島と中国～黄興と西郷南洲』**

●・・・お話（１周年記念講演の）を頂いた時２つのお願いがあるので喜んで飛びつきました。今本を書いています「日本人としておきたい琉球・沖縄史」と言うタイトルの本です。

１つ目のお願いは・・・と言うと、懇意にしている福岡の藤島次男（もしかしたら正確ではないかも知れません…）さんから「実は黄興さん自筆の扁額（縦４０センチ横１ｍ５０）を私の自宅に保存しています。日中友好にお役に立てばここに置いているより長沙市に寄贈して黄興記念館か黄興鎮（確か、革命記念館と一緒にある）に架けてもらいたいけどどうすればいいのか分からない」と相談を受けたばかりだったところに、旧知の天達さんから講演依頼が来た。その瞬間、「そうだ、天達さんを通して黄興額を長沙に寄贈してもらおう」と思いました。

●私と天達さんとの出会いは...

２００８年？いやも少し前に枕崎での何かの時が最初だったかも知れません。あと南洲墓地で何かの式典があった時歌を唄ったのを憶えています。

●ご自分の今度出す新刊書『日本人として知っておきたい琉球、沖縄史』の内容を首里城の歴史（何回かの焼失と木材確保の苦労など結構長く話された。年代計算を間違えたりして。

●琉球王国歴史の話：琉球は明治５年まで薩摩藩に属していたが江戸に登るときは中国の礼服で登った。
　士と言えば日本では武士のことを言うが、中国や琉球国では文化人のことを言った。

今こそ大事な時期と話す。唐の冊封使が琉球王に冠と暦を送る。５００人２年間も琉球に滞在する。●鹿児島はトルコ的な立場がいいのではないかとの持論を展開。つまりロシアとウクライナの戦争にトルコという両方に良好関係を持つ国が間を取り持つ（仲裁に入る）そんな立場に鹿児島はなるのがいいのでは多様性が必要と●鹿児

島は日中戦争の第一次長沙作戦の中心部隊（４５連隊）だった。

今こそ大事な時期と話す。唐の冊封使が琉球王に冠と暦を送る。５００人２年間も琉球に滞在する。●鹿児島はトルコ的な立場がいいのではないかとの持論を展開。つまりロシアとウクライナの戦争にトルコという両方に良好関係を持つ国が間を取り持つ（仲裁に入る）そんな立場に鹿児島はなるのがいいのでは多様性が必要と

●鹿児島は日中戦争の第一次長沙作戦の中心部隊（４５連隊）だった。

## 女性委員会３周年記念イベント

https://youtu.be/-a76S3JUBnY

２０２３年5月１４日（日）鹿児島市のイオン鹿児島中央店８階の多目的　　ホールに於いて 鹿児島県日中友好協**会女性女性委員会**による『日中友好交流の集い』が行　われました。 第１部は「みんなでディスカッションタイム」と題して鹿大・鹿国大・東高　校・女性委員会との間で「日中異文化体験や解説など」の意見の交換が行われ、ときには笑いを誘いながら、たのしい対話が続きました。 第２部は「日本と中国の伝統衣装の紹介（シ　ョー形式）」が行われ、華やかなファッションショーが繰り広げられました。留学生・高校生たちの以外に上手な（堂々とした）歩きっぷりに観客からも大きな拍手が沸き上がりました。 第３部の音楽で綴る日中交流合唱大会へと続き、最後は、全員が参加しての「鹿児島おはら節」を踊りながら会場をパレードして、たのしい３時間にわたる日中友好交流の集いを終えました。

## 鹿児島県日中友好協会女性委員会４周年記念イベント

### 第１５回さつまの風（国際芸能文化の祭典）

### 『女性委員会の皆さんへの報告』

２０２５年6月3日　　天達美代子

今回、私は６月３日から８日にかけて中国揚州市からの揚州公共外交友好訪日団一行５名の日本側案内人として鹿児島県日中友好協会女性委員会委員長並びに鹿児島県日中友好協会副会長の立場で行動を共にしました。

そもそも、話の**発端というか『背景』は**と申しますと、2017年（８年前）揚州職業大学講師・呉玲が区政 13 名を率いて「鑑真の道」プロジェクトを実施し天達美代子氏と友好の種を蒔きました。呉玲氏と天達氏は共同で揚州と鹿児島を中心に文化の交流を基軸としつつ教育・経済等の多角的な分野での活動、推進を目指しました。

「鑑真の道」――文化を帆に
揚州市訪日団が日本五都市を訪問し、民間外交の新章を開く
鹿児島 大阪 奈良 厚木 東京

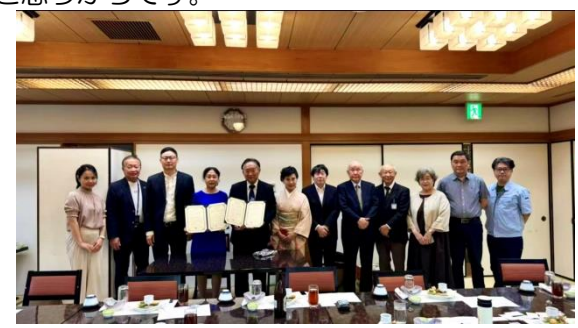
さて、呉玲さんの方から今回の企画についての詳しいスケジュール（日程、訪問先など）届きましたが、一番の入り口は訪問団への招聘状（入国手続き）です。これについて同じ訪問先の一つである奈良県日中友好協会会長の天根会長からのアドバイスを受けました。そして入国管理・招聘状作成・申請等は専門の鹿児島県日中友好協会会長・鎌田敬さんの尽力でまず入り口が開きました。

５日間の行程とその詳しいことはスケジュールにのっとり簡単に説明させていただきます。

一行は鹿児島空港から坊津鑑真和上記念館に直行しました。（以下具体的に、簡単に話を進める。内容は添付したウイチャットのコピーを参考に・・・・・・）　**右コピーは呉玲さんからいただきました。**

・・・委員会の皆様には充分なご説明も無しにバタバタと揚州市訪問団と行く「鑑真の道」プロジェクトが終わりました。

具体的な画像や動画付きの行動報告を待たずに報告会をさせていただいたのは、このような日中の文化交流こそが私たち女性委員会がこれから取り組んで行く第１歩ではないかと思うからです。



あっという間に設立３年が過ぎました。今から２３年前に鹿児島市日中友好協会が長沙市との友好都市盟約２０周年を記念して故・海江田順三郎会長が行った『黄興と西郷・記念講演会』が新しい日中友好協会の始まりであったように、今度の揚州市との文化交流（鑑真の道）がやがて毎年の恒例行事となり、鹿児島～揚州市、そして鹿児島～奈良・京都日中とのイベントを鹿児島県日中女性委員会の恒例事業に育てたいと夢見ています。海江田さんが「そいじゃが！」と・・・

これからは皆さまと力を合わせて鹿児島県日中友好協会女性委員会の発展を目指したいと思います。・

## 鹿児島県日中友好協会
## 女性委員会の軌跡（40 周年女性委員会のあゆみ）　　天達美代子

2025 年６月３日から８日にかけて、揚州公共外交協会が主催する「鑑真の道」揚州公共外交友好訪日団が、日本の鹿児島・奈良・大阪・厚木・東京の５都市を訪れ、６日間にわたり 10 件以上の文化交流イベントを実施し、成果を得ることができました。

今回、私は中国揚州市からの**揚州公共外交友好訪日団一行５名の日本側案内人として**鹿児島県日中友好協会女性委員会委員長並びに鹿児島県日中友好協会副会長の立場で行動を共にしました。

具体的な画像や動画付きの行動報告を待たずに報告会をさせていただいたのは、このような日中の文化交流こそが私たち女性委員会がこれから取り組んで行く第１歩ではないかと思うからです。あっという間に設立３年が過ぎました。今から２３年前に鹿児島市日中友好協会が長沙市との友好都市盟約２０周年を記念して故・海江田順三郎会長が行った『黄興と西郷・記念講演会』が新しい日中友好協会の始まりであったように、今度の揚州市との文化交流（鑑真の道）がやがて毎年の恒例行事となり、

鹿児島～揚州市、そして鹿児島～奈良・京都日中とのイベントを

鹿児島県日中女性委員会の恒例事業に育てたいと夢見ています。
海江田さんが「そいじゃが！」と・・・
これからは皆さまと力を合わせて鹿児島県日中友好協会女性委員会の発展を目指したいと思います。・鑑真和上の道は文化交流の訪問だけではないです
日中両国の心を繋ぐ民間外交の具体的内容の実施ですが文化を媒介として人と人との繋がりを礎に国際的交流関係を育むものと思います。最終

日上野公園不忍池の鑑真和上像にて６月３日から８日迄の工程が無事に終わりました。鑑真和上像の前において、お世話になりました、各地の皆様に心から感謝のお礼を申し上げました。

お願いしたい内容について改めて別に資料を今書いています。鹿児島の南さつま市より始まりました
鑑真和上高層？の道を一緒に辿り、特別拝観したあと、墓前にて日本と中国の両方の線香を準備し、鑑真和上の墓前へ案内して頂きました。奈良日中友好協会の天根会長の優しさに触れ、心からの感謝を、線香の香りと供に、
鑑真和上の墓前で『坊津旅情』を奉納歌として唱え御詣り出来ました。「これは日本と中国の交流の法要ですね」とのお言葉を頂き胸がいっぱいの嬉し涙でした。坊津から唐招提寺迄の鑑真和上の内容を纏めました。

## 鹿児島県日中友好協会創立２０年鹿児島市日中友好協会創立４０年

【黄興&滔天の二人旅⑵】―1909（明治 42 年）南洲墓地参詣（創作編）

### 墓前の詩の解釈論争！

実はこの後、黄興が南洲墓地を参詣し、そして詠んだ詩文の解釈でひと悶着が起きるなど・・・考えもしなかったことである。

八千子弟甘同塚　　世事唯争一局棋

悔鋳当年九州錯　　勤王師不撲王師

●「何千という多くの私学校の青年たちが師と仰ぐ西郷南洲（隆盛）と同じ墓地に眠っている●明治維新後の日本の政治や社会はまだ混沌（こんとん）として収まらず、あたかも目まぐるしく変わる囲碁の局面のようであったと思われる／●それにしても悔やまれてならないのは１８７７（明治１０）年、九州に西南の事変が起こりそれが失敗したことだ●**もともと天皇を尊敬する勤王の志の篤い西郷南洲の薩摩士族たちは、最初から天皇に反抗してその軍隊を打ち負かそうという考えなどなかったはずだから**」（意訳は鹿児島市日中友好協会）実は２００２年１２月１０日の中村義先生の講演の際、記憶に残ったことがあった。それは講演の最中だった。

**二人は墓参りをした後・・・**
「たぶん、黄興と宮崎のふたりは、鹿児島市内の、どこかに泊まった筈ですが・・・・、そこのところまでは、

書かれていません。と」、中村先生が仰いました。
ところ、すかさず聴衆のどなたかが手を挙げて「二人は鹿児島には泊まらずにそのまま歩いて熊本方面に向かいました」と・・・（その声が今でもなぜか耳に残っています）。

〇その後、黄興の鹿児島へ来た時の状況になぜかとても興味を持ち始めました。
ふたりはどんな格好をして鹿児島まできたのだろう？　その頃の鹿児島の町や田舎道は・乗り物は何だったのか・たぶん歩行だろうか？
本当に、南洲墓地で詩を即興で作ったのだろうか？　何故？残っていないのか・
**このあと２０１１年に大きな催事？？がありました。そして黄興の南洲墓地参詣が蘇る時が又来ました。**
●黄興の思い入れからすると鹿児島に着いて城山に行き南洲神社の階段を上がり愛して止まない南洲翁の墓前に参り、振り返って眼前に広がる桜島を目にした時の黄興の様子・・そして，詠んだ漢詩のくだりが書かれていないのが残念である。日記には「墓参りをして、城山を見物した」とある。見張りの探偵もいない自由の身なら、西南戦争の跡もまだ生々しく残っている筈、もしかしたら実際は、もっと当時の足跡を辿ったのではないだろうか？
そして、鹿児島になぜ一伯しなかったのだろうか？黄興研究の第一人者である中村義先生も、あの時の講演までは、黄興は鹿児島に一泊したと思っておられた（講演でそう語られ、「その宿の名前までは書かれていないので残念ながら分かりませんが・・・・と語られた時に、観衆の一人の方が「そのまま鹿児島を去りました、と発言した。もっと知りたい、あっけないほど短い二人の鹿児島市の足取りである。
●黄興が思慕する西郷に想い馳せて語った漢詩の解釈にある方が異議を申し立てたのである。
それも後ほど、『黄興の道行き』の落し物である。肝心の海江田順三郎氏は今、もういない。というよりはっきりした答えは（何度も尋ねたけど）答えられなかった。

**勤王師不撲王師　　勤皇の師はもとより皇軍の師を滅ぼす意にあらず**
**鹿児島市日中友好協会訳は下**

「何千という多くの私学校の青年たちが師と仰ぐ西郷南洲（隆盛）と同じ墓地に眠っている●明治維新後の日本の政治や社会はまだ混沌（こんとん）として収まらず、あたかも目まぐるしく変わる囲碁の局面のようであったと思われる／●それにしても悔やまれてならないのは１８７７**王の志の篤い西郷南洲の薩摩士族たちは、最初から天皇に反抗してその軍隊を打ち負かそうという考えなどなかったはずだから**」（市協会訳）

**松尾善弘曰く　　◎なぜ市訳のようなでたらめ訳がまかり通るのであろうか。理由は二つある。**

一つは訳者の心底に西郷崇拝の念があり、正解の心を覆っているからである。西郷信仰の弊害の最たるものと言えようが、西郷をかくも厳しく批判した黄興が帰国後「俺は中国の西郷だ」などと嘯くことなどまずありえない話である。
二つ目は、訳者が現代中国語に基づかず、従来の訓読法に頼った通弊がみてとれることである。
漢詩の真髄が語音（平仄）にあることを強調する所以である。
さて本に書いた松尾論に戻つて 3 句と 4 句をひも解いてみる。
〇3 句。悔＝残念だ（動）　主語は黄興。以下は目的語。　錯＝重大な間違いをしでかす。主語は西郷
　二字の間に、当年=明治十年当時、九州=九州の地が挟み込まれた形
つまり、**3 句は「誠に残念だ、当時、九州で大きな間違いをしでかしたことは」西郷を厳しく批判した内容。**
〇七言句は2･2･3字で小休止しリズムをとる。すなわち

〇四句は、「勤王師不、撲王師」と切って読むべきで（市訳）のように「勤王師、不撲王師」と切って読んだ訳にすべきではない。　勤王師＝天皇に忠誠を尽くす軍隊（=西郷軍）が王師＝天皇の軍隊（＝新政府軍）を本気で攻撃しなかったなどと兵士をばかにするような訳をしてはならないのである。

かくして 3 句と 4 句を平仄上も語法上も矛盾なく整合性をもって日本語訳した通訳は

‥誠に残念なことだ。　九州のこの地で大きな間違いが引き起こされたのは。

**‥もともと勤王の軍隊（西郷軍）は天皇の軍隊（新政府軍）を討つべきではなかったのだ。**

## 大石ケイジアンサー

私は日本語ではなく黄興が南洲墓地で読んだであろう西郷隆盛を偲んで詠んだ詩を中国語に訳した宮崎滔天日記を添えて身近にいる頭のいい多数の中国人に読んでもらった。協会訳と、松尾先生の訳を・・・・・・

みなさん！うーん！と呻ってすぐには答えなかった。協会側のぼくが訊ねているので忖度もあるかも知れない。ただ、はっきり皆さんが言うには西郷を尊敬して止まない黄興が遠い鹿児島市まで墓参りに来て西郷さんをけなすような漢詩を詠むことは絶対にありません！と異口同音に答えた。

わたしも思うに文言の表現法にあるのでは、ある程度はぼかして詠む人に言葉は任したらと思う。

想いを言葉にするのは確かにむずかしいけれど。

ただ文言（漢詩の正しい平仄法）に則り過ぎて黄興の人となりを充分理解していない松尾先生の西郷を断罪するような表現は困ったものだと、その点だけ余計な表現だったと思う。

## 大石より松尾様へ

松尾善弘様　　大石ケイジ

**新著『漢詩で繙く西郷像』送っていただきありがとうございます。**

早速、関係個所も含めて目を通させて戴きました。数年前になりますか？先生の講義（サンエールでの）をお聞きしまして漢詩の面白さが少し心に感じ（お伺いした目的とは別に）関心を抱きましたがこれからまた新しい勉強も大変だな・・とずぼらをしています。

この度の新書は本のカタチ。厚さなど、とても素晴らしく以前に頂いた専門書（実はまだ書棚に置いたまま―）に較べベッド・ソファの横に置いて学べそうは本です。

５９ページ目のの数行がなければ日中協会の友人達にもまとめて配ってあげたい気持ちです。

もっとじっくり読んでよく理解できるようだったらぼくの友人たち（松尾さんと同年代）の歴史好きにも勧めたい一冊です。

全国の高校仲間４０名程とオンライン（メールやLINE で）交流をしているので紹介したいと思います。こちらは一南洲公園の黄興の碑文についての解釈上のこだわりはおろか黄興の名前も知っているのはごくわずかです。

それより第一章と第二章の大久保・川路漢詩の方が興味があるのではと思います。

西郷墓地参詣の際に黄興が詠んだ漢詩についての解釈の９０％は松尾さんが正しいのでしょう。

もしかしたら中村氏も第四句目の平仄式の解釈についてはよく分かっておられなかったのかも知れません。

漢詩の「直訳」と「意訳」の関係はどうなんでしょう？英訳や仏訳などもですが、日本の古文の解釈も同じ論争が時にありますが、ぼく自身も第四句目については黄興は西郷の行為（西南の役）に批判的であったのでしょうね。「若

者たちをなぜ抑えられなかったのか・・」とか。

　ただ墓前で黄興が桜島に向かって詠じたであろう七言絶句の解釈は、私としては松尾さんの指摘通り「本気で官軍を倒そうというつもりはなかった」と訳すことは間違いと言われることに反対はしません。
とは言え、西郷びいき（これは絶対外せません）の黄興は「西郷！おぬしも馬鹿なことをしたもんだ」「どんな事情があったかもしれないが・・」と思ったとしても心から「西郷を厳しく批判罵倒した」とは思いたくないですね。
松尾様の５９ページの文「・・・西郷をっくも厳しく批判した黄興が帰国後「俺は中国の西郷だ」などとうそぶくことなどまずありえない話である。黄興は西郷を崇拝（尊敬）などしてはいなかった。と何を理由に断言されるのかがわからないです。
訳された中村　義（学芸大学名誉教授）は講演に来られた数日間もそばでお世話しました。そして東京のご自宅に訪問させていただきよく存じ上げております。先生が黄興を調べる中で、黄興自身が西郷オタクに近いほど西郷を慕い、自分も黄興さんとさん付けで周りに呼ばれることを喜んでいたという話も聞きました。
またいつかお会いすることがありましたらお話しさせてください。まずは素晴らしい新書を戴き心より
御礼を申し上げます。

２０２１・７・１　　大石ケイジ

鹿児島県日中友好協会創立２０年鹿児島市日中友好協会創立４０年

# 訃報！！

**５月６日**　昨夜、編集長の敬愛していた鹿児島県日中友好協会会長・海江田順三郎氏が亡くなりました。
　文化人としても鹿児島の宝とも云える方でした。
心からお祈りを申し上げます！！あとしばらく元気でおられたら、協会設立４０周年（市日中）、２０周年（県日中）を海江田氏を中心にお祝いすることが出来たのに、本人も、かねてからその日（１１月３日）をとても楽しみにしておられました。

残念です！！訃報を受け、県内の関係者からも別れを惜しむ声が相次いだ。鎌田　敬鹿児島県日中友好協会会長は・・・・「日中にとって大きな損失」10 年来、その揺ぎ無い平和主義の信念に触れて来た。
「複雑な世界情勢だからこそ「日中友好が最大の安全保障」と言い切っていた。先代会長に学んだことは多い。海江田氏の近くにいて氏の話をいつも聞かされていた鎌田氏の記憶・・・「戦争って、いろんな理屈をつけますが、いい戦争とか悪い戦争とかないと思うんです。戦争ってのは避けなくちゃいけない、しちゃいけない事なんですね。ただ必ず「自衛のため」とか理屈をつけますけど、どういう理屈をつけてもせんそうしちゃいけない。
鹿児島県華僑総会の楊忠銀会長は・・・・全く威張らない穏やかな人、「こころの支えが亡くなった」と悲しむ。『中国への理解が深く、県内の残留孤児関係者も『海江田さんがいればこころ強い』と話していた。間違いなく民間交流の架け橋だった。と声を落とす

# 海江田順三郎・お通夜・告別式・LINE 往来

鹿児島市出身。1953 年、京都大学経済学部卒業。鹿児島の高島屋開発（通称タカプラ）1993 年~2007 年に社長を務めた。戦時中は佐世保市に勤労動員され，帰省中の 1945 年に鹿児島大空襲に遭遇、陸軍航空士官学校入学前に終戦を迎えた。機会を捉えて戦争体験を伝え平和への思いを語った。80 年代以降は鹿児島市と友好都市の中国・長沙市などとの交流に情熱を傾け、県と市の日中友好協会の会長を長く務めた。2014 年、終戦前後の混乱期に幼い残留邦人を引き取って育てた**中国人養父母に感謝する碑の建立**では主導的役割を果たした。

日中関係が悪化するたびに草の根交流と相互理解の大切さを説いた。鹿児島市教育委員長、鹿児島経済同友会福代表幹事なども歴任した。（以上・南日本新聞より）尚、（公社）日本中国友好協会（東京）理事も歴任。

海江田順三郎が残した両国の友好の証しは鹿児島市に多く残る。西郷南洲公園（墓地）内に勝海舟の秘と並んで桜島を臨んで建つ『中国の西郷』と呼ばれ、孫文らと辛亥革命を先導した長沙市出身の志士**黄興（こうこう）の記念碑**もそうである。訃報を受け、県内の関係者からも別れを惜しむ声が相次いだ。

鎌田　敬鹿児島県日中友好協会会長は・・・・

「日中にとって大きな損失」10 年来、その揺ぎ無い平和主義の信念に触れて来た。「複雑な世界情勢だからこそ「日中友好が最大の安全保障」と言い切っていた。先代会長に学んだことは多い。海江田氏の近くにいて氏の話をいつも聞かされていた鎌田氏の記憶・・・「戦争って、いろんな理屈をつけますが、いい戦争とか悪い戦争とかないと思うんです。戦争ってのは避けなくちゃいけない、しちゃいけない事なんですね。ただ必ず「自衛のため」とか理屈をつけますけど、どういう理屈をつけても戦争しちゃいけない。

**永野洋子**　流石に海江田順三郎氏の偉大な人脈や日中友好協会への尽力~ロータリークラブでのご活躍~受け付けで義父もロータリーでしたので数名の方達お目にかかりました。昨夜から今日の葬儀随分予定より遅れましたが、滞りなく無事に終了しました~鎌田会長様も福岡総領事様をお見送りされました。康上先生も葬儀にもお見えになりました。鎌田会長様もヒヤヒヤでしょうね。昨夜より葬儀弔問は少なかったです。

昨夜は知事今日は市長お見えになられました。とても立派な葬式でした~

**総領事様**、鹿児島大学留学生代表の弔辞心響く海江田様への最高の贈り物だったのでは~大石様の采配改めて感謝(最高)

今朝の南風録海江田様の人柄~昔実れば実るほど垂れる稲穂かな~と両親が言ってましたが~海江田様のような人材は時代と共に失われつつあります。後のない私も反省点ばかりですが😩海江田順三郎鹿児島県日中友好協会名誉会長の葬儀の際、鹿児島大学中国留学生学友会会長・陳さんの（弔辞）を披露させていただいたところ，列席の皆さんのこころを打たれたと，ことばをたくさんちょうだいしました。

**鎌田**　柿田さんとは先ほど連絡が取れました。テレビと新聞の電話インタビューが長くて遅くなりました。昨日総領事館より**楊総領事が出席**されると連絡がありましたので娘さんに了解をとって、**総領事に弔辞をお願いしました。**

**総領事は私でよければと了解して頂けました。**

**昨日通夜で塩田県知事が出席され、御礼を言いました。**

「あと６か月生きていたら記念式典に参加できたのに。と言われました。「総領事が来られて弔辞を述べられます。最後のはなむけになると思います。」と言いますと、うなづいていました。

**鹿児島大学中国留学生学友会会長陳くん弔電**

海江田順三郎さんのご逝去、心よりお悔やみ申し上げます。鹿児島県と中国との民間交流に長年尽力され、その半生をかけて友好の架け橋を築いてこられた功績は、地域と国を超えて深く記憶されることでしょう。私は中国からの留学生として、こうした温かい交流の土壌の上に学び、暮らすことができていることに深く感謝しています。そのご尽力の恩恵を受けている一人として、心からの敬意と感謝、そして哀悼の意を表します。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

**山田みほ子：**立派な葬儀ですね～🙏タカプラ天文館の中心に居られて！いつも多岐皆さんの面倒を見られて～穏やかな姿がずっと変わらず、目に浮かびます。有難う御座いました。有難うございます🙏

本当に良く頑張られました！30 年前の八島遺作展オープニングの時、既に 67 才の大先輩、確か？雑誌で対談したり、いつも変わらず、大往生ですね～寂しくなります。

**井原（海江田お嬢様）**そうなんですね。**90 通くらい頂いた中から５通だけ読んで頂きました。喜んで頂き、良かったです。私も嬉しいです。**大石さんの事は、常々父に伝えていましたので、父もわかっていると思いますし、**わざわざお忙しい所に自宅まで来て頂き有難うございました。**失礼なんてとんでもないです。

**井原佳予子（海江田お嬢様）**父、南日本新聞社から、記事の連載の話しを頂いていました。何やら少し書きかけていた様子でしたが、中途半端になって流れていた感じでした。

**大石**新聞にもそれらしきこと書いてありましたね。

お父様の葬儀関連のマスコミ報道（新聞テレビ）まとめて YouTube 作品作ろうかと思っています。書きかけてある遺作原稿を井原さんがスマホに録音して送ってくださいませんか？画像のBGM 代わりに流したいと思います。

**佳予子（海江田お嬢様）**書きかけの原稿用紙はかなり前に見ましたが…父の机な棚は無秩序に書類が層を作っているので、発掘できるか、自信ないですしばらくは市役所その他、手続き関係で忙しいですし、近々にみつけるのはちょっと難しいです

**海江田お嬢様**　ふと、昨年あたり、長沙市との姉妹都市盟約の時の冊子を父に見せて貰ったのを思い出して、貴重な資料なので、また、その他、整理でき次第、いつか発掘してお渡ししたいと思います。

**大石**　もし何か？で「手伝ってくれる人いないかナ？」と思う時（こと）がありましたら、ぼくを先頭に協会スタッフが、動いてあげます。どうぞ遠慮なく命じて)くださいね。

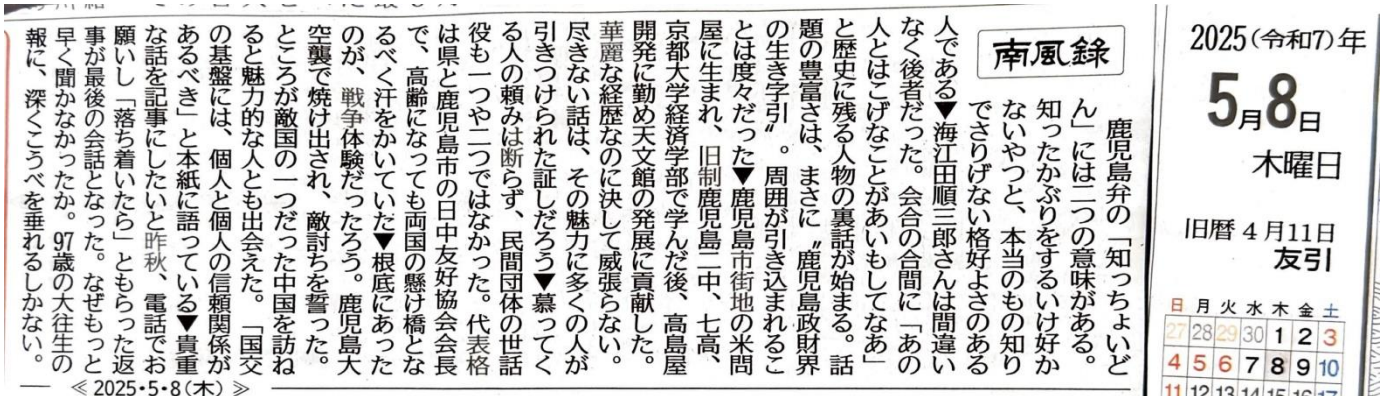
**海江田お嬢様**　有難うございます。宜しくお願い致します。受付をして頂いたのは、通夜、葬儀、両日とも同じ方ですか？2 名で間違いないですか？

【県市連絡会議 LINE】昨日よりマスコミの対応、総領事館の対応に追われています。きょうも午前中に KYT、午後に KKB が取材に来ます。夕方には斎場に行かなくてはなりません。明日の告別式では代表で弔辞を詠むことになりましたが、原稿も出来ておりません。こんなに大変とは思っておりませんでした。

**鎌田会長**女性委員会から花輪を供花しました。

女性委員会から受付は６名ら.7 人います。ご安心下さい。

きょうの夕方６時１５分から KKB のニュースで、私のインタビューが流れるそうです。私はお通夜で見れません。どなたかよろしければ、見て下さい。日中友好協会から受け付け鄧レイカ様と永野が昨日大石様より承り５時に斎場で待ち合わせておりますので女性委員会の皆様宜しくお願い致します永野**石原**受け付けで、お二人に永野さんに、お疲れ様です。トウ麗華さんには母国語で、辛苦了と声かけたらにっこりされました。私が今やろうとしている友好交流の中国語サロン、中国語の訳が出来るようになり友好交流に役立つ人材育成！外国語大学がやることですので。

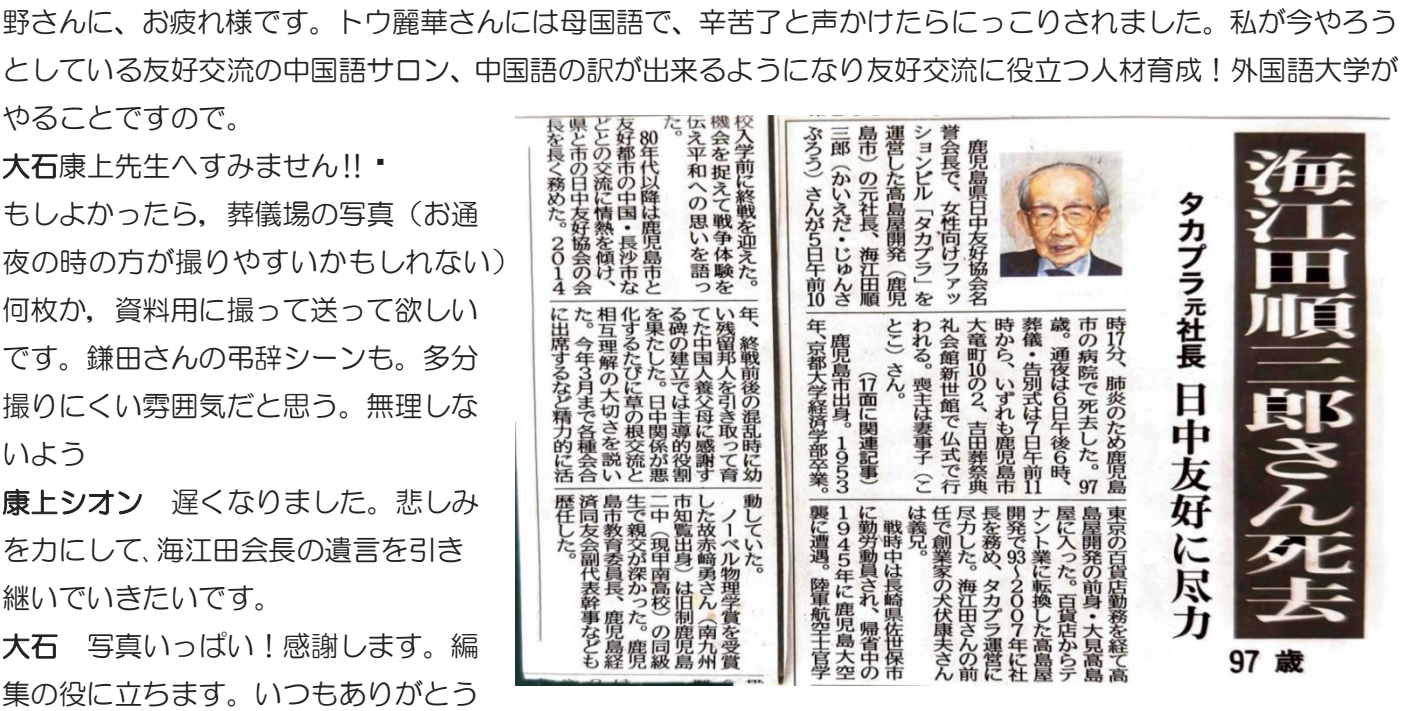


南風録

鹿児島弁の「知っちょいどん」には二つの意味がある。知ったかぶりをするいけ好かないやつと、本当のもの知りでさりげない格好よさのある人である▼海江田順三郎さんは間違いなく後者だった。会合の合間に「あの人とはこげなことがあいもしてなあ」と歴史に残る人物の裏話が始まる。話題の豊富さは、まさに〝鹿児島政財界の生き字引〟。周囲が引き込まれることは度々だった▼鹿児島市街地の米問屋に生まれ、旧制鹿児島二中、七高、京都大学経済学部で学んだ後、高島屋開発に勤め天文館の発展に貢献した。華麗な経歴なのに決して威張らない。尽きない話は、その魅力に多くの人が引きつけられた証しだろう▼慕ってくる人の頼みは断らず、民間団体の世話役も一つや二つではなかった。代表格は県と鹿児島市の日中友好協会会長で、高齢になっても両国の懸け橋となるべく汗をかいていた▼根底にあったのが、戦争体験だったろう。鹿児島大空襲で焼け出され、敵討ちを誓った。ところが敵国の一つだった中国を訪ねると魅力的な人とも出会えた。「国交の基盤には、個人と個人の信頼関係があるべき」と本紙に語っている▼貴重な話を記事にしたいと昨秋、電話でお願いし「落ち着いたら」ともらった返事が最後の会話となった。なぜもっと早く聞かなかったか。97歳の大往生の報に、深くこうべを垂れるしかない。

≪2025・5・8（木）≫

2025（令和7）年
5月8日
木曜日
旧暦４月11日
友引



海江田順三郎さん死去

タカプラ元社長 日中友好に尽力

97歳

鹿児島県日中友好協会名誉会長で、女性向けファッションビル「タカプラ」を運営した高島屋開発（鹿児島市）の元社長、海江田順三郎（かいえだ・じゅんさぶろう）さんが5日午前10時17分、肺炎のため鹿児島市の病院で死去した。97歳。通夜は6日午後6時、葬儀・告別式は7日午前11時から、いずれも鹿児島市大竜町10の2、吉田葬祭典礼会館新世館で仏式で行われる。喪主は妻事子（ことこ）さん。

（17面に関連記事）

鹿児島市出身。1953年、京都大学経済学部卒業。東京の百貨店勤務を経て高島屋開発の前身・大見高島屋に入った。百貨店からテナント業に転換した高島屋開発で93～2007年に社長を務め、タカプラ運営に尽力した。海江田さんの前任で創業家の犬伏康夫さんは義兄。

戦時中は長崎県佐世保市に勤労動員され、帰省中の1945年に鹿児島大空襲に遭遇。陸軍航空士官学校入学前に終戦を迎えた。機会を捉えて戦争体験を伝え平和への思いを語った。

80年代以降は鹿児島市と友好都市の中国・長沙市などとの交流に情熱を傾け、県と市の日中友好協会の会長を長く務めた。2014年、終戦前後の混乱時に幼い残留邦人を引き取って育てた中国人養父母に感謝する碑の建立では主導的役割を果たした。日中関係が悪化するたびに草の根交流と相互理解の大切さを説いた。今年3月まで各種会合に出席するなど精力的に活動していた。

ノーベル物理学賞を受賞した故赤崎勇さん（南九州市知覧出身）は旧制鹿児島二中（現甲南高校）の同級生で親交が深かった。鹿児島市教育委員長、鹿児島経済同友会副代表幹事なども歴任した。

**大石**康上先生へすみません!!・

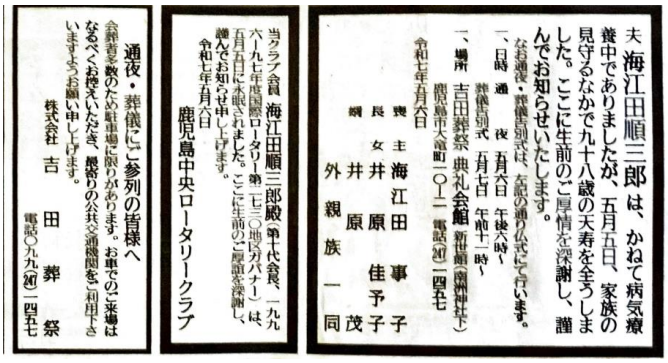
もしよかったら，葬儀場の写真（お通夜の時の方が撮りやすいかもしれない）何枚か，資料用に撮って送って欲しいです。鎌田さんの弔辞シーンも。多分撮りにくい雰囲気だと思う。無理しないよう

**康上シオン**　遅くなりました。悲しみを力にして、海江田会長の遺言を引き継いでいきたいです。

**大石**　写真いっぱい！感謝します。編集の役に立ちます。いつもありがとうございます。(ありがとう)最後の画像、濃紺の夜空に輝く天井の灯りが『孤独？永遠？』会長の微笑みが…目に浮かんで来ました。

**隈元（大石友人）**　南日本新聞の記事の亡くなった方の報道で２日に渡りこのように取り上げられる事は、それ程例は、ありませんね。海江田さんが、いかに日中友好に尽くされたかという事でしょう。改めてご冥福をお祈りいたします。

**南郷**　海江田さんと言う方えを知らない人が多分多かったと思いますがお亡くなりになって初めめて日本と中国の友好のために尽くされた事が分かり改め



夫 海江田順三郎は、かねて病気療養中でありましたが、五月五日、家族の見守るなかで九十八歳の天寿を全うしました。ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせいたします。

なお通夜・葬儀告別式は、左記の通り仏式にて行います。

一、日時　通　夜　五月六日　午後六時～
　　葬儀告別式　五月七日　午前十一時～
一、場所　吉田葬祭　典礼会館（南洲社主）
　　鹿児島市大竜町一〇二一　電話(〇九九)二四五七

令和七年五月六日

喪主　海江田事子
長女　井原佳予子
孫　井原茂
外親族一同

当クラブ会員 海江田順三郎殿（第十代会長、一九九六・九七年度国際ロータリー第二七二〇地区ガバナー）は、五月五日に永眠されました。ここに生前のご厚誼を深謝し、謹んでお知らせ申し上げます。

令和七年五月六日

鹿児島中央ロータリークラブ

通夜・葬儀にご参列の皆様へ

会葬者多数のため駐車場に限りがあります。お車でのご来場はなるべくお控えいただき、最寄りの公共交通機関をご利用ださいますようお願い申し上げます。

株式会社 吉田葬祭
電話〇九九(〇九)二四五七

て素晴らしい方だったんだなぁと思っています。これからも日本と中国🇨🇳の友好関係が続く事を願いながら御冥福をお祈りします。

**とおやま（横浜）**　海江田さまの葬儀には、長沙市からの弔文が届いたでしょうね.
また、養父母に育てられた孤児だった方々や留学生達なども含め、大勢の参列者だった事でしょう。最後までお人の為に尽くされた〝利他〟の実践者❣️ 今日合掌🙏

**王宗成　鹿大中国留学生**　ニュースで海江田さんの訃報を拝見しました。日中友好のために尽されたことに深く敬意を表します。ご冥福をお祈りいたします。

**金安キ（鹿大留学生）**すごく心が痛むニュースです。海江田さんは本当に偉大な方ですね日中友好のために多大な貢献を支えることに感謝致します。ご冥福をお祈りします

新聞　第3種郵便物認可　【朝刊月ぎめ定価】3,400円(消費税込み)【1部売り】150円

# 日中交流 草の根貫く

## 海江田順三郎さん死去

## 空襲体験、平和の語り部に

5日に97歳で亡くなった海江田順三郎さんは、高島屋開発（鹿児島市）の社長として天文館の発展に努める経済人の顔とは別に、もう二つの顔があった。日中友好協会長として両国の民間レベルの交流拡大に尽力。郷里が地獄絵図と化した80年前の鹿児島大空襲の語り部としては、平和を願う強い気持ちを訴え続けた。（1面参照）

鹿児島市日中友好協会総会で中国人留学生とあいさつする海江田順三郎さん（左から2人目）＝2002年、同市中央町

県や市の日中友好協会長を長年務め、43年を迎える鹿児島市と中国・長沙市との友好都市締結の架け橋となった。在日中国人には、日本語支援や市民との交流の機会を提供。尖閣問題などで両国関係が冷え込むたびに、政治に左右されない草の根交流や相互理解の大切さを説いた。

海江田さんが残した両国の友好の証しは鹿児島市内に多く残る。太平洋戦争後の混乱で中国に取り残された残留孤児の「中国人養父母」に感謝する碑や、「中国の西郷」とも呼ばれ、孫文らと辛亥革命を指導した長沙市出身の革命家黄興の記念碑がその例だ。

市民2千人以上が犠牲となった1945年6月17日の鹿児島大空襲では、自宅に無数の焼夷弾が直撃し、多くの人々と共に火の海を逃げ惑った。戦争末期の空襲を「地獄絵図のよう。今でも夢に出てくる」と語っていた。幾度となく生々しい戦争体験談を伝え、郷土が二度と戦火にさらされることがないよう最晩年まで願い続けた。（江口淳司）

## 天文館の発展に貢献

### 県関係者、悼む声 相次ぐ

タカプラ閉館の際、見送る市民らに手を振って感謝する海江田順三郎さん（左）ら＝2018年2月12日、鹿児島市千日町

5日に亡くなった海江田順三郎さんは、経済人として長年天文館地区の発展に貢献しつつ、反戦・平和への思いを胸に日中民間交流に尽力した。訃報を受け、県内の関係者からは別れを惜しむ声が相次いだ。

「日中にとって大きな損失」。鹿児島県日中友好協会の鎌田敬会長(72)は10年来、その揺るぎない平和主義の信念に触れてきた。「複雑な世界情勢だからこそ『日中友好が最大の安全保障』と言い切っていた。先代会長に学んだことは多い」と語る。

鹿児島華僑総会の楊忠銀会長(88)は「全く威張らない穏やかな人。心の支えがなくなった」と悲しむ。残留孤児のための記念碑建立に触れ、「中国への理解が深く、県内の残留孤児関係者も『海江田さんがいれば心強い』と話していた。間違いなく民間交流の架け橋だった」と声を落とす。

鹿児島大空襲の語り部でもあった海江田さん。日中交流活動を通して知り合った鹿屋市の作家郷原茂樹さん(81)は、太平洋戦争を題材にした近著を執筆中に取材した。「『竜が走るように山形屋前を炎が通り抜けた』と語る姿に、焼夷弾が市街地を焼け尽くす情景がリアルに浮かんだ。国防を巡り日中関係が不安定な今だからこそ、もう一度語ってほしい」

県内経済の活性化や人材育成にも力を尽くし、青年会議所やロータリークラブ（RC）の活動に積極的に携わった。50年近く親交のあるワールドサンフーズ（鹿児島市）の川原鶴雄会長(76)は「鹿児島市で10番目のRC設立にあたり『地域のために頑張れ』と言われたことを忘れることができない」と振り返った。（上岡毅、寺師周平）

社 2025年 （日刊）
南日本新聞

◆鹿児島市で小屋5棟など全焼　5日午後0時40分ごろ、鹿児島市犬迫町の資材置き場から出火、プレハブ小屋4棟計136平方㍍と木造小屋1棟4平方㍍、軽トラック1台を全焼、家電や木材などの廃材約1300平方㍍を焼いた。鹿児島西署によると、けが人はおらず、管理者は調査中。近隣住民が110番し

鹿児島県日中友好協会創立２０年鹿児島市日中友好協会創立４０年記念

# 【長沙市日本語教師日記】範例院長とにわか教師物語

## 奥山健司の長沙日本語教師日記

●2012/01/05　もうすぐ黄花空港へ出発。

長沙に来て中国語はまったく上達しなかった。食堂では今でも身振り手振りの注文。近所のラーメン屋では，私が行くと菜箸を渡してくる。壁のメニューを指し示すため。朝食の肉まん屋の店員さんは私の好みの肉まんをすぐに４個出してくる。果物屋のおじちゃんはいつもゆっくりと金額を教えてくれる。スーパーの店員さんたちは道であっても「ハ～イ！」と声をかけてくれる。

最初に行った食堂のお母さんは店の前を通るたびに話しかけてくる。バドミントンでは，ペアの女性が見るに見かねて特訓してくれるし，学生達はあちらこちらに連れて行ってくれるし，いろんなイベントにも一緒に参加した。鳳凰へも行った。岳陽楼も洞庭湖にも行った。地元の料理もたらふく食べた。有名なお酒もたくさん飲んだ。充実した４カ月。あっという間の４カ月。みなさん謝

●2012/01/07

１時から雷さんと友人の任さんと３人で黄興路へでかけた。

今日は写真をとることが主な目的。先日連れてきてもらった雷さんの実家周辺の路地が撮影現場。古い中国の街並。生活感あふれる中国。つまり日本が失くしてしまった風景がそこにある。そんな街並を歩いていると時間を忘れる。子どものころの故郷の風景。まるでタイムスリップしたような感じ。自分がどこを歩いているのかさえも分からなくなる（地理不案内とは別に）。店員さんは日本語が少し話せた。気をきかせてくれたのか日本の歌も流れた。ちなみに珈琲１杯３８元（約４６０円）。

●**範先生**・劉先生ご夫婦が送別会を開いてくださった。　おいしい四川料理と美味しいお酒をたくさんいただいた。どの料理もまろやかな辛さがとてもおいしかった。有名な四川料理のコースを腹いっぱい食べることができた。みなさんの会話はほとんど分からなかったが，李さんが私の故郷のことを尋ねてきた。劉先生に綺麗な海と満天の星空のことを通訳してもらった。ここ長沙に海はない。残念なことに，霞んだ夜空に昴を探すことはできない。このふたつとも何物にも代えがたい。ぜひ，お世話になった方々にその美しさを実感してもらいたい。途中から範先生と劉先生の息子さんも参加した。中学生の彼は，範先生によく似た男前。日本語も少しは話せる。３年後くらいに日本へ留学するそうだ。

2012/01/04

●雷さんが実家に用があると言うので一緒に連れて行ってもらった。雷さんの実家は黄興路の広場からちょっと奥に入ったところにある。　メインストリートは若者達でにぎわっているが一歩筋が違うと雰囲気が全然違う。この古い街並みでは，華やかなファッションで着飾った世界２位の経済大国とは別の庶民の生活のにおいが感じられる。　中国の人々も豊かさを追い求めている。古い建物がどんどん取り壊され，都市計画のもとモダンなビルが立ち並ぶ。日本がそうだったように。

●中国は物価が安い。だが，贅沢品に関していえば日本とさほど変わらない。たとえば車，国産の車は確かに安

い。それでも，５万元（約 60 万円）はするそうだ。しかし，長沙市内を走っている車の多くは外国メーカーの名前が入っている。外国産の輸入車に関して言えばほとんど日本と値段は変わらない。長沙の車の保有台数は 100 万台を突破し，ひと月に約 20 万台のペースで増えているそうだ。最近行われた商談会で１日２万台の契約があったという。長沙市内の車の多さとその種類で中国の発展のスピードを感じ取ることができる。　ガソリンの値段も高い。また，珈琲やチョコレートなども日本とさほど変わらない。マクドナルドやケンタッキーの値段も同じようなものだ。

●初日の出は雲と霧で残念ながら見ることができなかった。しばらくは天気が悪そうだ。気温は思ったほど低くない，鹿児島の方が寒いと思う。この冬は異常に暖かいそうだ。これも，温暖化の影響かもしれない。昼過ぎに雷さんと功夫クラブの学生２名が訪ねてきた。男４人で私が作った雑煮らしきものを食べてみた。やっぱり餅を食べると正月の気分になる。ここの餅を初めて食べてみたがおいしかった。次はぜんざいにも挑戦してみよう。雷さん達はこれから黄興路へ買い物に行くということだ。誘われたが今日はやめておいた。天気が良くなったら写真を撮りに行こう。

**●橘子洲とは**湘江に浮かぶ島。長沙市内の繁華街からすぐ近くにある。とても広く，細長い。橘子洲大橋から歩いて公園の南端まで行ってきた。2～3ｋｍはあると思う。天気が曇りで，いつものように街全体にスモッグがかかり，景色はあまりよく見えなかった。島の中は樹木が多く，広場には芝生が植えられていた。ベンチがあちらこちらにあり，読書でもしたくなる落ち着いた感じの公園だった。名前の通り柑橘系の実があちらこちらにぶら下がっており，とろうとしていた観光客が警備員に叱られていた。島の南端には毛沢東主席の若かりし頃の像がそびえたっていた。像と言うより巨大なモニュメント。さすが中国，大きい。

## 永谷元宏の日本語教師

●若いころから三蔵法師や史記、三国志が好きでした。　広い中国に長い長い歴史と、果てしない夢を想像していました。縁があって長沙の日語学院からお誘いを頂きました。晩学で日本語教師の手習いをし、地元岡崎市の日本語教室の　お手伝いをしたことが幸運を運んできたようです。しかし最近は中国入国のビザ許可がとりわけ厳しくなり訪問ビザも外事局の入念なチェックが必要になったようです。ようやく難産のビザが交付され、ぎりぎりの赴任となりました。中国語もままならぬ中で日程だけが追いかけてくるようですが、「何とかなるものさ」といつも潜り抜けてきた悪癖を武器に楽天型にきめこんで２月 21 日に出発します。「いつも、明るく,楽しく、前向きに」の心構えで海外ボランティアに励んだ先輩諸氏の行動を目標に長沙で微力ながら友好の輪が広がれば嬉しい

**●2009/02/23　授業が始まる**春節を挟んだ一か月半ばかりの休みを終えて２月２３日（月）から授業が始まった。学習期間は原則２年であり、私の担当は半年クラス、１年クラス、１年半クラスの３クラス（生徒数は各３０～３５人）。「みんなの日本語」の教科書をベースにした会話や日本文化の紹介などの授業をすること。第１回目はやや緊張気味にたどたどしい中国語で自己紹介をした後、みんなに自己紹介をしてもらう。約８割が若い女性で湖南省の出身者が多いが広東省や湖北省からの人もいる。年齢も１７歳から２５歳ぐらいとバライティの幅が広い。みんなの目標は日本語能力試験をパスし将来、通訳や日本と関係のある仕事に就くことだと胸を張って応える。みんな目を輝かして一生懸命に聞いてくれるのに感激する。学生は８時から午後４時ごろまで授業を受け夕食後また午後７時半から９時半頃まで教室で自習する。寒い教室でとにかくよく勉強している。軟弱な私には刺激が大きいが自分なりに頑張ってみるつもりだ

。**●2009/02/２６歌は流れる**　　本格的な授業が始まった聴解（ヒアリング）

は日本語能力試験の中でも不得意な科目と聞いたので、日本から持ってきた歌のＣＤを使って聞き取り練習をしてみた。１年クラス（０８０２班）は夏川りみの「涙そうそ」１年半クラス（０７０４班）は谷村新司の「いい日旅立ち」をかけてみた。（どちらも私の好きな歌ですが）１フレーズづつ聞きながら書いてもらう。少し難しいかと思ったが、かなりよく聞き取れていて感心した。聞きながら書くことは、とても大変だがフレーズを何回も繰り返すうちにメロディーもすっかりおぼえてしまった。最後はみんなで合唱しおおいに盛り上がった。先日の自己紹介で「歌が大好きです」といった生徒の多いことを思い出す。今ではインターネットバーで日本の音楽を沢山取り込んでいるので日本のメロディーは若者たちの生活の中にすっかり溶け込んでいるようだ。歌は日本人の気持ちを伝えるに格好だ。かくして長沙の街に「涙そうそう」や「いい日旅立ち」の歌が流れ旅立っていくことを夢にみる。

●でも今日はなんだか聞き覚えのあるメロディーが聞こえる。テンポもややスロー調だ。あっ！私の好きな竹田の子守唄だ。http://www.youtube.com/watch?v=vwjonOlpdmo

この歌は中国の人たちにも愛されていたのか。そう知ると、この名曲よ長沙中の大空に大声で響き渡れと思ってしまう。授業の始めにこの音楽について生徒に聞いてみた。ほとんどの生徒はこれは中国の歌だと思っているらしい。先生これは悲しい子守唄ではなく、「希望の祈り」の歌ですよと言う。よく聞いてみると文化大革命が終結した１９８０年代に新生中国に託して作曲された「祈祷」という歌だそうだ。苦しい時代からやっと明るい日差しが見えはじめた頃、大衆の希望の祈りがこの「祈りの歌」を中国中に根づかせたそうだ。

●もとより生徒達の生まれる前の歌だが、みんなこの歌が好きなようだ。竹田の子守唄の悲しくつらい歌詞もみんなに話した。そしてこの歌を日中２つの歌詞で合唱し過ぎ去った昔を互いに思い浮かべたのだった。（中国版）「祈祷」生徒の抄訳から　ここに希望の鐘を鳴らす祈りがある。失敗は失せ　永遠の成功がここにある。　地球は動きを忘れ、夏、秋、冬の季節もなくなる。　宇宙は天の窓を閉ざさず、太陽は西の空に沈まない。「祈祷」は下をクリックしてください。http://www.youtube.com/watch?v=_8cLMPt4HtM&feature=related

●2009/04/4 **清明節の暖かい食卓**長沙市の東の郊外に黄興鎮という村がある。方さん（女性）の実家がここにある。今日は清明節である。日本のお彼岸とよく似て先祖を祀る日のようだ。今日から月曜まで連休になり生徒も半数は実家へ帰り供養する。彼女の友達と共に８人で早朝のバスに乗り東のバスターミナルに着く。ここから定員２０名ほどの小型の田舎行きバスに乗り換える。帰省客も多くバスは満員。小雨ふる狭い田舎道を田畑の景色を配してバスは進む。４０分ほどで終点の黄興鎮に到着した。バス停の広場には立派な石像が立っている。黄興という名前に聞き覚えがあった。石像は果たして２０世紀の初期に孫文に協力し中華民国成立の立役者となった歴史の人であった。日本にも留学し反清運動の指導者となり仲間から中国の西郷隆盛と慕われたと言う。（鹿児島市日中友好協会のＨＰにも詳述されていた）このバス停から 40 分ほどの所に黄興の生家があるそうだ。

●この地の名前の由来であろう。方さんの実家はバス停から５分ほど歩いた所にあった。「私の家は農民です」と方さんは胸をはって言う。家は土づくりの頑丈な構えだが中は質素・清潔であった。新しい TV が簡素な室内を占領している。みんなでひまわりの種や落花生を食べながら彼女の少女時代の写真を眺めて話に花が咲く。台所の丸テーブルを囲んで昼食を御馳走になった。近所に住む彼女のおじいさんはテーブルの中央に座り私にこちらの地酒

を進める。優しい微笑みで迎えてくれた顔の皺には 80 年の歴史が刻まれている。日本人と話すのは初めてだと言ってフランスに留学した孫娘のことなどを話し笑みがこぼれる。方さんのお母さんは働き者で料理上手だ。ご主人とは見合結婚し遠方から嫁いで来たという。今の若い人は自由恋愛ですよと付け加えた。たたき造りの床の部屋は昔の日本の農家のように幾分薄暗く寒そうであったが、快くみんなを迎えて下さったご家族の心づかいがとても暖かかった。

●**日本料理レストラン範先生ご夫妻**に日本料理レストランに招待して頂いた。○市の中心部にあるそのレストラ

ンはなかなか格調のあるお店で割烹姿のウエイトレスさんや着物姿の女将も見え本国さながらの雰囲気である。先生が日頃お付き合いされている方々にもそこで紹介された。長沙市対外友好協会副会長の雷先生をはじめ鹿児島に縁の深い方々で、広い視野と見識をお持ちの人ばかりなのでいささか気遅れしたが親切にしていただき胸が和む。日本や中国のことなど話が飛び交うが話題の弾むごとにお猪口の乾杯をみんなで繰り返す。初めての中国式乾杯だったが話が円滑に流れてとてもいい雰囲気だ。鹿児島から研究生として派遣されている**柿木さん**にもお会いした。中国語も堪能な上に日本女性らしい上品な雰囲気をもった方で嬉しい出会いであった。日本料理についてはここが内陸なので日本とは味が少し異なるが流石に食の国だけあってどれも工夫がされていて美味しい。とにかく中国の人は話好きだ。中国語の解らない自分でも引き込まれる話術に感心した。

**2009/05/29　岳陽の旅（1）**岳陽は長沙から汽車で１時間ばかり北の街だ。中国第２の湖「洞庭湖」の畔に栄えた

所で三国志フアンの自分にとって長江と並んで是非訪れてみたい場所だった。幸い**岳陽出身の姚さんが案内してくれることになった。**長沙駅で朝早い汽車に乗り岳陽に着いたのは９時過ぎであった。岳陽楼のバス停を降りると曇天の下に茫洋とした洞庭湖の風光が広がった。海のような広大な湖水を眺めていると中国へ来て以来の解放感が体中に広がる。湖畔は幾分湾形をなしその周りには高い城壁が築かれ古く呉の時代の軍港の様相を今も髣髴とさせる。岳陽楼の周りは公園として整備されその門前には観光の店が軒を連ねている。岳陽楼は元来戦の基地と建造されたが幾度か再建され今の楼閣は清時代のもののようだ。岳陽楼の上からは眼下に洞庭湖の眺望が開け数隻の大型船が往来している。遥か昔、長江の流れに乗って沢山の軍船が湾内に押し寄せたであろうと一人感慨に耽る。一方、その風光明媚のため杜甫や李伯の詩にも詠われ楼内には多くの詩人の肖像画が飾られている。姚さんが売店で「岳陽楼記」を買ってプレゼントしてくれた。宋の時代の範仲淹の作で岳陽の名を一躍有名にした名文である。「文末の”先天下之憂而憂後天下之楽而楽（天下の憂いに先んじて憂い、天下の楽しみに後れて楽しむ）”は中学の教科書に載っていますよ。ご存知でしたか？」と彼女は付け加えた。そうだ熟語「先憂後楽」はどこかで聞いたことがあ

ったと秘かに安堵した。政治に携わる者の心構えであろうか。いつの時代にも賢者はいるが賢明な為政者は出現し難い。中国人は底辺も広いが途轍もなく優れた人材も稀に輩出してきたに違いない。中国の気品と誇りを垣間見た気がする。**益田太輔（二代目科技日語教師）**●３日目

５月７日（金）一日雨

　この日は長沙の５月には珍しく朝から雨。朝食は大石先生が泊まっていた華程大酒店（３つ星）のセルフサービスバイキングを頂いた。やはり驚いた事は、いつもお粥に入れる腐乳（豆腐を醗酵させて塩づけした物、朝食の

お粥には一般的 一口サイズ大）も唐辛子で味付けしてあった。いままで色々な中国のホテルの朝食で腐乳を食べたが、ピリ辛く味付けしてあるものは初めての体験だった。湖南省らしい。他の料理もやはり辛いものばかりで、あっさりした物は無かった。お昼は宿舎の向えにある安い店に大石先生と行った。チャーハン一人前５元（約 50 円）。味もおいしく、一人で食べるのに適当な量であった。が、サービスで付いてきたスープがいけない。やはり辛いのだ。日本で言えば激辛。もうあきらめよう。早く慣れなければ。食べ終わると大石先生の友達 **袁静さん**が車で迎えに来てくれた。彼女も以前長沙科技進修学院日語分院の生徒であったらしい。３人で一緒にウォルマートへ買物へ行った。米国最大のディスカウンターが長沙まで進出しているとは思わなかった。まだ行っていないが、カルフールもあるらしい。そう考えると長沙も結構都会なのかな？　ウォルマートでは、身の回りの足りない物をそろえた。食料品も買おうと思って、ひょいと覗いた所に手のひらサイズの陸亀がいた。ペット用ではない。食材だ。隣にあった田鶏（食用カエル、田んぼにいる鶏に似た味の動物からこの名がついた）やザリガニには慣れているが、陸亀とは。いやはや、中国人はこれだから･･･。

●夕食は大石先生が明日から長期中国旅行へ出かけるので、最後にと平和堂５階にあるブラジル料理へ出かけた。ここは 58 元で食べ放題。７時頃行ったが、満席で 30 分待ちとの事。長沙でも人気のスポットだ。料理はサラダ（サラダは長沙ではここでしか食べられない･大石先生談）、シュラスコ系に切ってくれる各種お肉、６種類のジュース、ビール、スパゲッティー、デザートアイス等々とても満足するものだった。が、ここにも奴等がいた。田鶏と亀。せっかくのブラジル料理がもったいない。それともブラジルでもポピュラーな食材なのか？亀→食べました。と言うか甲羅ばかりで、どこを食べたのかもわかりませんでした。味付けはただ辛いだけ。もっと素材の味を生かそうよ。

●窯嶺(ヤオリン)地区から人民路→芙蓉路→天心閣の横を抜け、南側から黄興南路歩行街へたどり着いた。歩行街には、上海の南京東路歩行街と同じような路面ミニバスが走っていた（幾分規模は小さいが）。北の端まで進むとそこには昨日行った、ウォルマートがあった。あ！ここにあったのか。昨日は雨でそれも自動車で行ったので場所がちんぷんかんぷんだったので、うれしい誤算である。早速中に入る。おお！！食料品売場で昨日は見ていない寿司を発見した。生徒に寿司が何であるかわからせる為に、日本で必死に寿司の拡大写真を取ったのが無駄になったが、まあいいだろう。教材に使えるぞ。　ああ！！値段を見ていなかった。まあいいだろう。近くにあった**日本風の「火の国ラーメン」**で食事するついでに見に行こう。

**立石みわの長沙日本語教師**●ここ長沙は、既に日中３０度を超える暑さになって来ました。湿度も高く蒸し蒸しとした暑さに、街にはＴシャツを捲り上げ、お腹丸出しで歩くお父さん達の姿もチラホラ（笑）。最近は、知人に会うと 「今日も暑いですね～」 という挨拶から始まります。すると決まって、「先生、長沙の夏はこれからです。まだまだ、こんなものではありませんよ。」 と脅されます（笑）。冬は寒く、夏の暑さも厳しい長沙ですが、学校の教室には冷暖房はありません。教室に行くと人の熱気で更にモアァ～～とした暑さ・・・子供達の態度にも締まりが無く、ダラダラさが目につきます。さすがに目に余り、「日本語の勉強をしたくないなら、教室を出なさい！！」 と怒ってしまいました。ダメなものはダメと注意することも優しさの一つ、やはりけじめは大

事です。
めったに怒らない私の態度に子供達もビックリ！このことを同僚に話すと、「えっ！？いつも優しい先生が怒ったんですか？　中国語で！？」 とこれまたビックリされてしまいました。不思議なもので、興奮すると中国語がスラスラ・・・、自分自身が一番ビックリです（笑）ここ中国に来て特に“けじめ”や“礼儀”については意識しているように思います。何故なら、子供達や同僚にとって、私は初めて接する日本人であるかもしれないのです、恥ずかしい日本人にならないよう１日１日を丁寧に過ごしたいと思います。

●憧れの海外生活、自国では経験できない多くの出来事に遭遇します。もちろん、毎日が楽しい事ばかりでもありません。今回は、誰にでも起こりうる**トラブルを敢えてご紹介したいと思います。**先日行われた我が校での開放日に際し、湘譚大学の先生から浴衣をお借りしていたので、返却とそのお礼に行って参りました。湘譚大学は、長沙市よりバスで約１時間程の湘譚市にあり、毛沢東主席の出生地に因んで開校された由緒ある伝統校です。そんな素晴らしい大学を訪問できる喜びに、心弾ませながら訪ねた湘譚市。商業中心の熱気溢れる長沙市とは異なり、大学を中心に閑静な住宅地が広がる落ち着いた大学都市。湘譚バスセンターからタクシーを拾い、車窓から整然と続く緑豊かな街並みを楽しんでいると運転手から「何処から来た？」と質問。ネイティブとは明に違う言葉遣いに興味津々で、その後も矢継ぎ早に質問・・・、「大学の先生か？」「給料は幾らだ？」「日本の地震は大丈夫か？」などなど。『明け透けにものを言う兄さんだな・・・ちょっと煩い』と内心思いながらタクシーのメーターを見ると２０元超え・・・大学の先生にバスセンターから大学までは、せいぜい１２～１５元だと聞いていたのに・・・訝しく感じながらも無事に目的地へ到着、メーターは２５元。と、突然、運転手がメーターを消すではないですか！？そして言った言葉が「料金は６０元。」完全に悪質な運転手です。こちらも「違う、違う、２５元でしょう！！」と必死に主張、暫く押し問答を続けるも相手も一歩も引かず、最後の手段で大学の先生へヘルプの電話を掛けようとしたとき「３０元でいい。」と手元にあったお金を引っ手繰るように取り、走り去って行きました。大した金額ではないですが、とても残念で悲しい気持ちで一杯・・・暗い気持ちで先生のお宅を訪問することとなりました。しかし、先生のお宅へ入ると、肩を落とした私を励ますかのようにたくさんの日本料理と先生方の素敵な笑顔が出迎えてくださり、一気に気分も上昇！　楽しいひと時を過ごすことができました。色々とトラブルも多い海外生活、怪我も無く毎日平和に過ごせていることに感謝しなければ。

**●韶山･花明楼**

長沙市の南西に位置する緑豊かな丘陵地帯**‘韶山(ｼｬｵ ｼｬﾝ)・花明楼(ﾌｫｱ ﾐﾝ ﾛｳ)’の１日バスツアーに参加して来ました。**韶山は中華人民共和国創立の立役者‘毛澤東(ﾏｵ ｽﾞｫ ﾄﾞﾝ)主席’の生家があることで有名な場所、そして花明楼は副主席‘劉少奇(ﾘｭｳ ｼｬｵ ﾁｨ)’が幼少期から青年期までを過ごした土地として知られる所です。先ずは長沙市中心部から**バスで約２時間の韶山風景名勝区へ。この辺りは、毛澤東主席の記念館や故居など彼に関する文化財が数多く点在する観光名所となっています。**到着後すぐに案内された土産品店兼資料館では、主席の生い立ちなどの説明があり、その後、銅像のある広場へ。広場周辺に着いてみると、そこは想像を超える人・人・人の数！！　記念館や生家も物凄い人で、ゆっくりと見ることも許されません。　一通り韶山地区の見学を終えた後は、花明楼へ移動。移動中、ツアー客から「日本人なの？」と声をかけられ、「日本人に会うのは初めてなの」と、知っている日本語を口々に話しかけてきてくれます。中には一緒に写真を撮って欲しいという方までいて、まさにミッキーマウス状態（笑）しかし、そんな愉快な旅路とは裏腹に劉少奇副主席の故居に着く頃には小雨が降り始め、足早の見学を余儀なくされることに。１日のスケジュールを終え、長沙駅に着く頃にはすっかり日も暮れ、街は家路を急ぐ人達で混雑を見せていました。その人混みの中には、旅中の素敵な人達との出会いに思いを馳せる、ニヤつき顔の怪しい日本人女性の姿も・・・（笑）

## くろやなぎさんの日本語教師日記　2008/9/23

●**ついに来たぞー長沙**日本語教師と言う使命を棚に置き、またまたおいしい話に（航空代と生活費が出るとの事）飛びついてしまった。いつもそれで泣きを見いるのだが、今回は、はたしてどんなもんか、期待と不安がドロンコデスマッチ着いたその日ハン校長と副校長が夕食をご馳走してくれたが長沙の料理なかなかいけるでないの；まずは食生活は大丈夫（すごく辛いと聞いていたが俺にとってはたいした事ではない。岡崎の四川ラーメンの方が辛いくらいだ）

●**九月二日**　初めての授業　　気のせいか机に着いた手が微妙に震えている。　　そーなんですよ；日本語を教えるのは初めて！日本に来ている中国の研究生には教えたがあるけど、こんなにたくさんの生徒に面と向かって真面目な授業なんて！　神様、私の甘い考えが間違っていました。許してください。今からでもいいから日本に帰してーー　と、思っていたのも、つかの間。３０分後にはジョークと中国語を混ぜながら、いつの間にか生徒と溶け合っている（つもり）それにしても、この軽はずみな性格と言うか、いいかげんな性格なんとかならないものか！

●**ーー暖かいーーー**もうすぐ卒業と言う事で、外食を、おごってあげる事にした。食事をしようというと必ずAA 制（割り勘）つまり、生徒達に、おごってもらう事になる。　お金を出しても絶対に受け取ってくれない。これには非常に困ってしまったが。だから先ずおごる。と言う意味だ。をしめしておかないと　　当日、０８０１の教室に行ってみると、生徒達が”これ、着てみて“　私？？？突然な言葉に、意味がとらない、私たちのプレゼントです。着てみてください。全く予想もしていなかっただけに、”俺にか？俺にくれるか？“　ダラニジャケット、あたたかーい。みもあたたかいが、何よりも心が暖かーーい、生徒の心が暖かい、このジャケットを着て湘江で記念写真、そして、近くの店で食事会、食事も，そろそろ終わりに差し掛かる項。生徒達が中国語で、何か話合ってる、ん？ひょっとして料金の計算か？こら、こら、今日は、お金の心配はしなくていいぞ！すかさず料金を払って出て行くと、後から２，３人の生徒がおいかけてきて、”先生、はい、これ、ん“彼女達が、２０元差出て、まけて、もらいましだ。だとーーどういって、、負けさしたか、訳らないけど、たいしたもんだ

## 渥美栄の長沙日本語教師

●平成 20 年３月から**長沙科技日語学院で日本語教師**として勤務されたATSUMI さんの滞在日記です。ハッと気づけば人生の大半を終えている自分を見つけました。いろんなことがありましたが、幸せでした。せめてこれからは御恩返しの人生をと考えて、ボランティアの日本語教師を始めました。

2008/02/26　●いよいよ出発です。明日朝早く家を出ます。

旅行保険も入り、訪問ビザも取り、荷物も詰めました。出発にあたっては、ヤマサ日本語教師養成講座、ＯＩＡ日本語教室、英会話、ポルトガル語、それぞれのお仲間に　壮行会をやってもらいました。その上、仕事、近所、そして親しい友人から、はなむけのお金、インスタントの味噌汁、日本独特のきれいなお菓子、教材になる絵本、CD、思いがけずお守りまでいただきました。そして忘れられないのが、沢山の貴重なアドバイスです。本当に本当に感謝です。

中国行きを決めるには、主人に背中を押され、出発にあたっては、こんなにたくさんの人から背中を押してもらって出かけて行きます。　この感謝を、向こうで生徒さんたちのお役に立つことで返して、民間レベルでの日中友好の一端をなんとか担えたらと思っています。皆さん、本当に本当に有難うございました。体に気をつけて行ってまいります。習いたての中国語でも、ご挨拶を。明天我去中国長沙教日語 非常感謝大家

●授業開始は４日後、それまでは荷物の整理や買い物を。
食事は慣れるまではとお願いしてあったので、范先生が作ってくださる。
「料理は趣味」とおっしゃる先生の料理は、日本人の好みに合わせた中国料理で、めちゃおいしい。
部屋は少し寒いけど、居間、寝室、台所、トイレ兼シャワールームと一人で住むには勿体ないほどの広さ。前任の市岡先生そして劉先生のお心使いで、すぐ使えるよう整っている。難は３つ、水は沸かさないと使えないこと。ふろはシャワーだけしかないこと。トイレの穴からネズミが出るとのこと。水は、毎日大ヤカンで２杯沸すことで何とか解決。ふろは、多分じき暖かくなるのでこれもＯｋ。　トイレのネズミだけは気になるけれど、今のところ一度もお目にかかってはいない。
部屋の整理が済み、少しずつ授業の準備に取り掛かるどんな学生たちに出会えるのだろうか。授業はちゃんと出来るだろうか。期待と不安を一杯抱えて眠りに就く。

●３月３日から、いよいよ授業開始。　　担当クラスは、06－04 クラス（中級 20 人）07－02 クラス（初級４０課２０人）07－03 クラス初級(２７課１５人）の３クラス。会話と作文を中心に９０分授業を、週、計９回。　日本での日本語教室では、ほとんどプライベートレッスンに近く、１０人、２０人　のクラスは、あまり経験がない。少し不安なので、先に範先生の４０人クラスを参観させていただき、驚く。皆、実に真剣に集中している。この様子なら、何とか人数が多くても、と少し安心する。

●初めての授業は、３クラスとも、自己紹介を。　出来るだけ全員にたくさん話してもらえることを考え、二人ずつ前に出て、マイクを持ってのインタビュー形式に。　私は、脇でメモを取りながら、話し方のＣＨＥＣＫを。どのクラスも、生徒は素直で明るくまとまっている。最初は皆はずかしがっていたけれど、結構会話が弾みだし、どんどん質問も飛び出したりして、楽しい授業に。私はあまり話さなかったのに、学生たちが勝手に盛り上げてくれた。ありがとう！明日からは、少しずつレベルを確認しながら、教案づくりを。●2008/03/11 初めての中国で学校の門を出ると、狭い道の両側にびっしりと学生相手の食べ物屋（食堂といううには小さすぎて）炒飯、ワンタン、揚げ物、焼き物、うどん、肉まんじゅう、餃子、中華巻きなどそれぞれの店。もっと行くと、今度は八百屋、果物屋、肉屋（生肉ぶらさげて、あるいは　鶏、すっぽん、かえるなどは生きたまま）そして魚屋（これもたらいに生きたまま）そして豆腐屋、菓子屋、衣類に雑貨、電気製品に陶器はたまたとうがらしだけ、生姜、にんにくだけを売る店（屋台と言った方が正解かな）など雑多な店がびっしり。７～８人も行きかえば一杯の道を、沢山な人と自転車とリヤカーとバイクと自動車まで通る。足元のぬかるみ（排水の水で）とゴミと車とスリにも気をつけて歩かねばならない。まるで４～50 年前の日本の下町ににタイムスリップしたような。こんな生活状態と同じく、考え方もタイムスリップ。人は年寄りを大切にし、親や先生を敬い、礼儀も大切にする。ここで毎日学生たちを見ていると、日本は経済発展と共に、やはり何か大切なものをを忘れかけているのでは、と痛感する。

●2008/03/12 **学生達**学生は皆　実に素直で　やさしく　礼儀正しい。
特に、師に対しては恐縮するほどに。会えば必ず向こうからきちんと挨拶してくれるし、日本語が話したくて、

緊張しながらも積極的に話しかけてくれ、手伝いも申し出てくれる。湘湖のほとりを歩いたり、買物、食事、郵便局に付き合ってもらったり　と　本当にお世話になっている。先日の日曜日には、ひとクラス 10 人ほどに巻き寿司の作り方を教えてあげた後、みんなで烈士公園へ。とてもとても広くて、週末のせいか賑わっている。芸術品かと思えるほどのべっ甲飴を買ってもらったり広場で歌っているおじさんに加わって、大勢の前で、北国の春を、日本語そして中国語で歌ったり、昔のお姫様の衣装を借りて写真を撮ったり、、、。私も一番に着せられ、恥ずかしいと思いながらも実は喜んで、はい、ポーズ。１時間借りる間に皆次々交代してポーズを。そのうちの一人、自分の写真をどれもまずいと思うらしく、「私バカバカしい」と。
その日本語と彼女の顔、思い出すたび、楽しくなる。行きは歩いて 40 分以上。公園を２時間ほど歩き回ったあとはバスで帰る。バスでは一番に私を座らせてくれ、年寄りが乗ってくれば、みな当たり前に席を譲っている。ずいぶん歩いたので、足が痛くなった子、少しバスに酔った子などあり、心配したが、皆の心配をよそに私は大丈夫、われながらこんなに丈夫だったかなあ～。若い彼女たちと日本では決して出来ない経験をした１日みんな有難う！！。感謝です～。

●2008/03/20 中国の優しい人たち　　先月無事長沙に着いたとはいえ、実は少しハプニングもあり。でも、いずれも中国の人たちに助けられることで、楽しいスタートを切ることが出来た。先ず虹橋空港で、長沙行きの飛行機が１時間遅れで出発。案内がなかなか出ないので、近くの二人づれの奥様らしい人に切符を見せ聞いてみる。あれこれすったもんだの後、何とかここで待てばいいことが分かり、飛行機が出るまで雑談。彼女は少し英語が出来るので、片言の中国語、英語、日本語で、こんにちは、さようなら、ありがとうなど教えてあげる。とても喜んでくれて、彼女が出発する時には係員に、私を長沙行きの飛行機に乗せることを、しっかり頼んでいってくれる。
そんなこんなでやっと長沙に着いてほっとしたところ、今度は出迎えの範先生が見当たらない。
５～６分待ってもダメ。こんな言葉の分からないところで、どうやってホテルを探したらと一瞬あせって、
傍にいる係員に、思わず覚えていた中国語で、電話、電話を連発したら、彼はやおら自分の携帯を取り出して貸してくれ、私に代って掛けてくれた。

●2008/03/22 買い物買物は、最初は応答の要らないコンビニ、スーパーだけ。でも次第に学生たちに教えてもらって、一人で買い物できるように。「肉まんじゅう　２個ください。いくらですか」と中国語で聞いて、２元払ってＯＫだった時には、ヤッターと叫びたい思い。他に、トイレはどこですか、家であなたを待っています、どうぞよろしく、いいえ結構です要りません etc 学生達が喜んで教えてくれる。
発音がいいと褒めてみたり、少し言えればすご～いと驚いたりして、じょうずに教えてくれる。

皆本当に優しくて、買物に同行を頼めば即ＯＫ。皆で両脇をかためて守ってくれ　、必要なものはとことん探してくれ、品物はどんな安い物でもしっかりと点検し、荷物は必ず持ってくれる。本当に本当に勿体ないほど。
先輩達が「帰りたくなくなるよ」と言われたのも　頷ける気がする。学生の皆さんありがとう～～～～～。

## 竹下嘉郎の日本語教師日記

●2005.3.14
生食堂の紹介校内には学生食堂がある。最初に「不要辛」（辛のはいらな

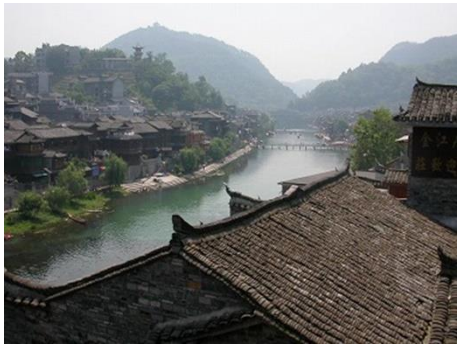
い）と言っておいためか、学食に入ったとたん服務員が私の顔を見るなり生の丸いキャベツをかざして合図をしてくれた。私に特製料理を作ってくれると言うのだ。ありがたい。

服務員の皆さんはいつも笑顔で迎えてくれる。さらに日語の学生の通訳を通じて卵は好きかとか、その外に何が好きかと聞いてきた。ご飯は粘りが無いため箸の間からポロポロ落ちる。おかずのほとんど全部が炒めものだ。野菜も炒めてあるため、全般的に脂っこい。しかも、ほとんど全部唐辛子が利いている。豚の血を炒めた物は体に良いと言うが、独特の臭いと口の感触で食べにくい。たまに出される肉はごぼう程度に硬い。この地域の人は辛い料理が自慢だ。

●　料金の支払いは、事務室で 100 元のカードを買って学食の窓口の電子機械に差し込むと料金が表示され、その分だけ引かれ、残金もわかる仕組みだ。注文する方は、厨房の平たい容器に入ったおかずをガラス越しに見定めながら指差す。学生のほとんどは自自前の容器を一個持参する。容器は直径１５ｃｍ深さ１３ｃｍ位のものが多い。これを差し出すと服務員がおかずをおたまで適当にすくって食器のご飯の上からかけて渡す。このご飯とおかずをかき混ぜてスプーンで食べる。料金は朝食のうどん（米が原料）が２元、ご飯とおかず３品程度で平均５～８元くらいだ。思いは,食あっさりした日本料理だ。そして、栄養の偏りと脂肪太りが気になる。

●2005/04/26

９時に劉紅梅・謝樹銀さんが迎えに来て、彭治平さんの家に向かった。市内の中心を北に流れる湘江の左岸にある大きな中南大学付属病院を過ぎて間もなく、これまでに見た中で最も立派な団地の前でバスを降りた。団地全体の入り口にはアーチがあり、守衛がいて車は自由に通れないようになっていた。彭さん宅は５階建ての３階だが前も裏も庭がある。マンションは３年前に１２５㎡を１９万元で購入されたとのこと。ご主人は学校職員。子供さんはアモイの大学生。お父様は元事務員。憶えたての日本語でご挨拶いただき恐縮。お母様は元小学校の先生で、料理の１２品を私の「不要辛」に副って作ってくださった。お二人とも温厚篤実そのもののお顔をしておられた。お母様は、食事の時、日本語で「わたしゃ１６・・・」を歌い出され、私にも歌えときたので日本民謡を披露した。その後二人でダンスを踊った。次に来たときはうちに泊まれとまで言ってくださった。たいへん気持ちの若い方だった●授業を済ませてから程•芦さんと五一大道沿いにあるアメリカ資本のスーパー　カルフール（家楽福）に出かけた。中国に来るとき手荷物が４０キロを超えたので夏の衣料品は中国で調達つもりだったからだ。今日から急に暑くなったためクレープシャツとステテコを探しに出た。しかし、無かったので薄手のシャツを１枚当たり１５元で買った。ズボン下は勿論のこと、それに替わるようなものも無いため日本資本の平和堂に行って３人で手分けして探したが,ここにも無い。仕方なく短パンの薄いものを１枚当たり 74 元で買った。中国の男性にはズボン下のステテコをはく習慣は無いようだ。それにしても年頃の娘２人にヘンな買物を付き合わせたもんだと後悔。あとで芦さんが高すぎますとつぶやいた。平和堂５階でラーメン３人分４０元。長沙の食べ物は安すぎる。



●中国ではカメラを持っている人でも、誕生日には写真屋に行って写し、その日はうどん料理に卵を入れて食べる習慣があるという。長いうどんにあやかって、長生きするようにとの気持ちが込められているのだろうか。しかし、最近の若者はケーキに変わってきたとのこと。経済開放をきっかけに中国社会は急速に変化しているように思う。ところで、年齢を言うとき、長沙では満年齢で言うが、上海付近では若い人でも「数え年」で言う人が多いらしい。ちなみに、出来上がった写真は、はがきサイズ１枚で、写真の中に「２００５年生日」という文字入りになっていて、代金は１０元（１３０円）ほど。

2005/04/27 観光旅行で人間性が理解できるか

**夕方から黄興中路の友誼賓館で、長沙市人民対外友好協会副会長であられる雷楚珠氏の歓迎会に出席。参加者は市役所職員の程・袁・通訳の温氏、学校から範・劉先生と小生の６人。あわび料理がメインだった。**

雷氏は、日本からの観光客誘致に期待しておられた。長沙市として愛知万博に参加することなどの話もされた。私は範・劉夫妻にいろいろご配慮いただき、楽しい日々を過ごしていること。学生が親切で優しくて義理堅いことなどの話をした。さらに日中間の観光促進や文化交流程度では、文化の理解にはなってもお互いの人間性の理解には繋がりにくい事など話した。すると私の前歴を踏まえ、学校の先生の交流などの促進ができればいいですねとの提案があった。最後に立派過ぎる長沙市の写真集とＣＤ、記念品をいただいた●連休に郭さんの実家に史さんと３人で向かった。場所は湖南省と広西壮族自治区の省境。お父さんは少数民族の壮族で発電所の管理人、お母さんは漢民族。壮族の言葉はベトナム人に通じ、漢民族には通じない。壮族の娘は漢民族の男性との結婚を願っている。近くに舜皇山森林公園があり、トラや狼が生息している、などの話に引かれたのだ。

**５月１日（日）**　北京発のＴ５次列車は７時２５分に長沙発の予定であったが、遅れて９：１０出発。切符は硬座車の天座（指定座席なし）。満員だから乗せないという駅員の制止を振り切って強引に乗り込んだが、通路も超満員。永州まで４時間。政情不安の折、列車内では日本語を話さないようにした。車窓から見える家はレンガ造りの切妻か陸屋根だ。土壌はレンガ色の完全なラテライトだ。永州から先はバスを４回乗り継いだ。最後の乗り物は小型トラックを改造した乗合自動車、砂利道のためクッションが利かない。最後は乗り物がないので２キロくらいの歩きになった。

**●１９：３０に到着**。お爺さんとご両親の温かい歓迎を受け夕食が始まった。夕飯時、お母さんの手作りという白酒を、お父さんと何回も乾杯した。料理では手造りの塩漬け豚肉燻製がたいへんおいしかった。手作りと言えばレンガ造りの家・ベッド・タンス・サイドボード・箒に至るまでそうだ。どれも言われるまで気づかないほど立派な出来ばえだ。私の寝室は２階のご両親の部屋、清潔な寝具が用意されていた。○新居は１階・２階とも３間あり、それぞれの１間は6×3.6mの約13畳の広さである。１階の中央の間は応接間兼食堂だ。２階の中央の間は居間になっていて、ソファーがありテレビ・DVD・ステレオなどが置いてある。他の４室は寝室になっている。台所やトイレは旧宅側にある。●夜中にトイレに行くと話したら、「防犯上、夜は階段の戸を施錠するので１階に降りられません。２階のベランダから飛ばして下さい」とのこと。言われるままに飛ばしたら、豚をびっくりさせてしまった。豚さんごめんなさい。今夜も白酒をご馳走になった。お互いに乾杯と言ったら、飲み干して杯の底を見せ合う。これは湖南省の習慣である。今夜は鶏が犠牲になった。ほとんどの料理の味付けは私の口に合った塩味だ。夜、水田のあちこちでライトが光るので聞いたところ、かえるを取る人だと言う。水田の真ん中の家に

してはカエルの鳴き声の少ない理由がわかった。帰りの汽車（火車）も満員だった。郭さんが三人掛け椅子に４人掛ける相談をしたところ、若者がいさぎよく私に席を譲ってくれた。北京の近くの大学に帰る大学生だった。下車の際、史さんの通訳で丁寧にお礼を言った。中国の若者の親切に触れた。旅行中、私がトイレ行くと必ずどっちかが付いてきて入口で待っていてくれた。最後には２人とも重い荷物を背負ったまま宿舎まで送って来てくれた。気配りと実行力に脱帽、そして感謝。**2005/06/13 日本人が忘れかけている美しい言葉**。。。「ありがとうございます」とか「すみません」という相手のお礼や詫びの言葉に対して、日本では「はい」と言う言葉を使う人が増えた。それをおだやかに打ち消して「どういたしまして」という一言は、今や風前の灯だ。〇中国の私の周りにいる学生は勿論の事、汽車の中で気持よく席を譲ってくれた学生、カメラのシャッターを押してくれたアベック、学生食堂の服務員、カメラの被写体になってくれた揚げパン屋のご主人、電気屋の店員等も、必ず「不用謝」「不客気」（どういたしまして）の言葉を返してくる。中国では悲惨な陸上戦が長く続いた。わが国も謝罪しきれないほど多大な迷惑をかけた。ひどい自然災害で苦しい時期もあった。それでも「どういたしまして」という奥ゆかしさを感じさせる美しい言葉は、しっかり引き継がれている。

●2005/06/13 長沙に観光客を集めようとした場合の**観光スポット**をあげてもらった。まず**湖南省博物館**が出た。私も「この博物館は兵馬俑とまではいかないが、一級の観光スポットだ」と付け加えた。他に展望が利き毛沢東主席も登られたと言う**岳麓山**、毛沢東主席の奥さん・子供・兄弟も初期の革命で戦死されたことがわかる**烈士公園**、みかんの歴史を秘めた**橘子洲頭**、古い建築物で展望の利く**天心閣、嶽麓書院**、歴史の古い湖南大学の古建築など、いずれも歴史を感じさせる所を選んだ。私は黄興路に面した春天百貨と王府井デパートの間にある小さな筋を入ったところの服地と仕立屋が一緒になった商店や専門店、黄興北路にある食材・食べ物屋・果物屋を中心とする**商店街**に、小物で高級輸入品の店・骨董屋・みやげ物店など混ざり合った中国らしさの漂う商店街があると、何度行ってもおもしろい観光スポットになり、「人を集める」力になるような気がする。東京の六本木・竹下通り・御徒町、沖縄県那覇市の市場街をイメージした様な所だ。

●2005/07/19「ブス(シ)」と口角沫を飛ばす学生間の会話を聞いていると、お互いに「ブス」(Bu shi)と言う言葉をぶっつけ合っている。日本人が醜女を連想して聞いていると、笑ってしまいそうだ。漢字を当てると「不是」と書き、「いいえ、違います」という意味だ。相手の話をはっきり否定し、自分の考えを主張するパターンで使われる傾向が強い。休み時間は勿論のこと、授業中に「ブス」のぶつけあいが始まることも多々ある。その時は決着がつくまでやらせる。気の許せる仲間同士の議論だから。日本人は、相手の言葉を「違がいます」と否定して話すことは少ない。否定する時は相手を傷つけないよう婉曲に言うことが多い。このような言い回しに慣れていない中国の学生たちは、私と話す時、理解に苦しむことがあるようで「私には先生の言っておられることがわかりません」とくる。これらの違いには、どのような歴史的背景があるのだろうか

。**2005/07/27 すき焼と中華料理**

●７月１１日（月）午前中、ホテルから歩いて１０分程の**宝峰湖**に向かう。遊覧券一人６２元。湖の長さは 2.5ｋｍ、平均水深７２ｍ。湖面から、いきなり平均８０ｍの奇岩がそびえ立つ。まさに集山水宇一体の風景だ。音も無

く、ゆったり走る船で１時間ほど遊覧。心の休まるひと時だ。長家界市内に帰り、劉さんの所に忘れた洗面具を取りに立ち寄ったところ、今夜も泊まらないかと誘われたのでお願いして、昼ごはん食べに街へ誘い出した。食べながら今夜は私がすき焼を作ると言ったところ、ほんとうですかと驚く。市場で食材を買い、昼寝の後、夕食つくりを始めた。すき焼と中華料理だ。宋さんが同僚の譚さんを連れて来たので、嫁入り前の４人の中国娘と１人の日本人がビールを飲みながら、日本語・中国語の飛び交うにぎやかな夕食となった。
2005/07/27

**●弱小民族の劣悪環境が今や観光資源**

７月１３日（水）早朝、路地の撮影。その後、写真で見た苗族の村に行こうとバス停に向かっていたところ、軽自動車（ワンボックスのトラック）の夫婦に、苗族の古村（22ｋｍ）、土家族の古村（18km）に行かないか、待ち時間も含めて一日６０元というのを５０元に負けさせて出発した。道も悪いがクッションも悪い車のため、腸ねん転を起こしそうな上下左右の激しい揺れだ。この先に村があるとは思えない狭い道をたどって、最初の苗族の村に着いた。最近作った石門で止められ、６人の少女が歓迎の歌と振舞い酒で出迎えた。約８０人の村落だ。入村料一人５０元。村は外敵（漢民族？）の進入を避けるため、撤退を繰り返し、川を渡った石山に住み着いた。村は、それでも戦いに備えて、見張り台、Ｔ字路・屈曲路など戦略的だ。未婚の女性は、２階を寝室とするなど、住まいも石で作った要塞だ。

●村の風習として病弱の男子は、１５歳以上の大きな女性と結婚させた。頭の良い方が決定権を持つ主人だという。農家の土間で歌と太鼓踊りを見せてくれた。これまでは１戸当たり年収３００元、今年は観光収入で５００元になる予定。小学１年～４年までは苗族の言葉で勉強。５～６年生は中国語で勉強する。帰り道、あちこちの山間部から出てきた人が、水溜りを避けながら街を目指してもくもくと歩いている。揺れのひどい車だが、乗っているのが申し訳ない気分だ。午後からの土家族の村（羅都）も入村料は一人５０元。適当に見てくれと放り出された。すると子供たちが現れ、案内させてくれとうるさく付きまとった。道は石、家は土壁。得るものは皆無だった。

## 藤田圭子の長沙日本語教師日記　2005/11/20 開福寺

●午後、学生何名かが近くのお寺に行くので一緒に行こうと誘ってくれました。開福寺という名前で、本尊は観音様です。バスに乗って行きました。ちょっぴり道に迷いながらたどり着いて、入り口で巨大お線香を私も買いました。焼却炉みたいなところに一袋全部放り込むのまではやったのですが、五体投地の作法に自信が持てず、お祈りはパス。学生によると、地方によって、家庭によって少しずつ作法が違うから、今お祈りしている人たちもみんな同じじゃないはずだと言うことでした。お祈りをしつつ、学生の恋の悩みなどを聞きつつ境内を移動、今度は算命です。一人が相談している間、ほかの人たちは「人の悩みを聞いてはいけない」と声の届かない少し離れたところで静かに待ちます。みんなまだ子供のような感じがしていたのに、宗教への態度がとてもまじめで、悩み事もあって、他人への配慮も私よりよっぽど大人。先生もしっかりしなくちゃ。

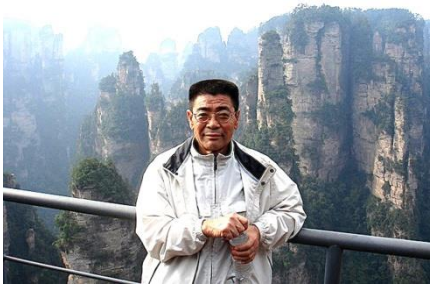
●帰る前、学生の一人が「気分はよくなりましたか」と聞いてくれました。どうもいつも体調が悪く、つらそうな顔をしていたので、今回のお参りに誘ってくれたようです。心配かけてごめんなさい。帰りはバスに乗らず、歩いて帰りました。景色のよい川沿いを歩いていると、健康器具がたくさん並ん

でいました。みんなすごい勢いで全部やった。やっぱりまだ子供ね。校門近くで臭豆腐を買ってもらって学校に戻りました。４個目で辛くて食べられなくなったけど、おいしいですね。●９月１６日（金）

今日は授業の後、今村先生と一緒に先生の生徒さんのお宅へお邪魔しました。バスに乗って川の西側へ。初めて湘江を渡りました。ご両親と一緒に昼食を食べたあとお昼寝。その後住宅街を案内してもらいました。住民が寄付をして、衣類や食料品を生活に困っている人に提供している「愛心超市」や幼稚園を見学させてもらいました。幼稚園では英語や論語を教えていたり、壁に５歳の園児の隷書の作品が貼ってあったり、すごいですね、中国の幼児教育は。

**ヨーコのモテモテ長沙日本語教師** ９月１１日(土)深夜　ここ数日、寝る時間がほとんどなかったので今日の夜はゆっくりと思っていたところ、同僚の寺崎先生(国籍中国)から電話が。長沙には中国五大山といわれる有名な山のひとつ、南岳衡山があり、日の出を見てお参りをしませんか？とお誘いが。。。深夜に出発するためオールナイトで結構辛いけど、こんな機会はめったにないので、行くしかない。車２台で友達を合わせて９人。高速に乗って約２時間で到着。車内はもちろん中国語で流れるCDも中国語だけど、気を遣ってくれたのか一枚は宇多田ヒカルのCDが流れてきたので、なんだか日本人の友達と遊んでいる気がしてきた。山に着くと霧が深く、５メートル先が見えない。残念なことに日の出の時間が過ぎても霧がはれなかった。しかし、中国式のお参りもでき、おみくじでは『万事うまくいく』(大吉？)だったようなので満足。その後はそのまま近くの観光地、磨鏡台、麻姑仙鏡、穿岩詩林を巡り帰り着いたのは午後３時。その夜は、かなり熟睡でした。

**立石みわ長沙日記**１０/１は「国慶節」。１９４９年のこの日に中華人民共和国が設立した記念日で、日本でいう建国記念日です。１日から１週間、学校も会社も休みになり、実家への帰省客や旅行客で各地が賑わいます。祝日初日、富士橋日本語学校の福島先生と長沙の街を散策して来ました。以前から行ってみたかった‘太平街’。昔の町並みが再現された長沙市の歴史文化街で観光客に人気のスポットです。また夜は、お洒落な飲み屋街としても有名で若者にも人気のスポット。中国刺繍の施された靴や雑貨など女心をクスグル民芸品店も数多くあり、眠っていた物欲が沸々と。。。お付き合い下さった福島先生もきっと呆れただろうな（笑）



## 大竹マサル日本語教師奮戦記●2006/09/05

長沙に来て１週間が過ぎました。大石先生ご無沙汰しています。現況を報告します。長沙はとても暑いです。雨も降らず連日３５度ぐらいでしょうか。夜は学生も市民も道路にあふれています。正に喧騒の社会です。特別な娯楽も無いようでワイワイとしゃべったり、飲み食いしたりして暑さをしのいでいるようです。学生たちはとても熱心でよくできます。知識や文法はよく知っていますが会話はやはり別なようでまだまだです。

●授業は今のところ順調です。やはり教室に入ると楽しいですね。宿舎は最初びっくりしましたが今はもう慣れました。快適です。何でもそろっているし、セキュリティもいいし、校内ですから安全です。食事の世話や掃除もしてもらえるので今のところ満足しています。最初の不安は無くなりました。大石先生や銀さん夫妻にはご心配いただきましたが、もう大丈夫です。パソコンもやっとつなげてもらえました（世話をしてくれる学生が苦労しながらやっとつないでくれました）。ただ、無線ランですので反応が遅く、写真がうまく送れるかはやってみないとわかりません。授業は持ち時間９０分を５回。「会話」と「みんなの日本語４２課」からを担当します。月曜日から木曜日の１時間目までで

終わりますので、小旅行が可能です。いろいろ配慮していただいています。とにかく大事にしていただいていますでご安心ください。

●大学の周りは昔ながらの町で、正に異文化を見る思いです。匂いも独特で慣れるのに時間がかかるかもしれません。小さくて不潔？に見える食堂で平気で食事ができるようになるには少々時間が必要ですね。半年では無理でしょう。宿舎で作ってもらえる食事はとてもおいしいです。気を使ってくれます。美人聡明な学生と一緒に食事する光栄に預かっています。とにかく最初の不安はほとんど解消しましたのでありがとうございました。マンションに移る必要も無いと思いますので銀さんご夫妻には大石先生からよろしくお伝えいただければうれしいです。現金管理も銀行口座を作りました。安心です。この町はスリも多いようで夜は一人では出歩かないようにしています。怖いといえば怖い町です。とにかく自己防衛しながら長沙を満喫したいと思っています。●もう少し慣れたら先生に紹介していただいた旅行社を訪れてみたいと思います。そして、誰かを連れて旅行したいと思っています。慣れれば一人でも旅行してみたいですね。李副院長が、こちらからはメールしているけれど野村さんから全然連絡が無いと心配していました。でも、もうすぐですね。お待ちしています。生徒はみんな素直でおとなしいですから大丈夫と思います。大石先生には本当にお世話になりました。ありがとうございました。時間があれば、私の長沙滞在中にお越しいただければうれしいですね。

**８月２５日　長沙到着**

●４泊の上海旅行を終えていよいよ湖南省省都長沙入りだ。イメージもつかめず不安のうちに降り立った。これまでのメールのやり取りや大石先生から紹介されていた範先生の写真などでおよそ見当はついていたが、いざとなると不安だった。しかしそれは徒労だった。すぐ範先生から「大竹先生！」と大声で呼ばれあっけない初対面だった。範先生は実に流暢な日本語を話され、日本人と区別がつかないほどで感心する。自家用車で迎えていただいたが、車窓から見える樹木や水田の風景は日本と変わらず、長沙での第一歩は静かなスタートだ。小１時間、車はいよいよ長沙の市内に入る。猛烈な暑さと霞んだ町並みが私を迎える。近代的な町並みと昔ながらの古い町並みが交錯し、上海とは一味違った雰囲気を感じた。

●大変な荷物で整理が大変だった。夕方校長先生ご夫妻から夕食をご馳走になる。長沙料理は辛い。中国三大料理のひとつだそうだが、今回上海で失敗しているので、用心に用心をする。実はまだ本調子ではないのだ。さらに長沙名物「臭豆腐」がいきなり登場。「おいしいですよ」といわれても、箸は進まない。しかしいただかないのも失礼だし、葛藤のうちについに決断。一口！。匂いはその名のとおり独特だ。しかし食べるのに安心感のあるものだと直感する（後に好物になるのだが）。結構おいしいもだった。上海から「少々お腹を壊している」旨伝えてあったので、到着後すぐ大変よく効くアンプルを用意していただいていた。そのご配慮にいたく恐縮した（日本から持っていった正露丸も抜群な薬で海外旅行の必携品だ）。程なく宿舎に帰るとにわかに孤独が襲い戸惑う。宿舎の施設を点検し、荷物の整理を続ける。６ヶ月も続けられるのか、なんとも不安な精神状態だ。到着の連絡を妻にする。風呂は無いので、シャワーを浴びる。慣れない操作で右往左往だ。「住めば都」と腹を決めて（後にそのとおりになるのだが）、第一夜の床に就く。

●食後、ほど無く空港に迎えに来てくれたピ君と友人の余君が遊びに来た。しばらく談笑して、以後毎日散歩することになる湘江の川べりに散歩に出かけた。蒸し暑い夜だ。エアコンが無ければ寝られないと思った。湘江は揚子江の支流なのに川幅１２００mはあろうという大河だ。行きかう船は引っ切り無し。暗闇に船が行きかう。川べりは涼を求める市民であふれかえっている。壮観だ。彼らに送ってもらい第二日目が終わる。李行さんが食事中に平気な顔をして「ヘビはおいしいよ」「すっぽんはおいしいよ」蛙はおいしいよ」というので「以後の食事は警戒を強める」ことにする。「ヘビ・蛙は不要！」と中国語でしっかりいっておいた。彼女は「わかりました」といったがあの笑顔は十分に「あやしい」。野菜・果物・麺類・ジュース・ビール・水を買ったがその安さにビックリ。水は大学の（日本語学校は長沙大学の構内にある）近くで買ったが、宿舎まで持ってきてくれるのにはこれまた驚いた。

●行者も所かまわず横断する。狭い道で車が併走すると、それはもうカーレースのごとく。決して道を譲らない。聞こえもしない相手に大声で怒鳴りつけている。窓から痰は吐くしすごい光景だ。彼女に「どうして」と聞くと、さも当たり前のことと笑っていた。「う～ん」とうなるしかない私だ。「五一広場」という長沙で一番にぎやかい中心街だ。長沙で唯一の日本資本の百貨店に連れて行かれた。平和堂百貨店」という。日本の食糧も豊富で、他の店より少々高いが日本のものなら何でもある感じだ。梅干からラッキョウ、ノリ、わさび、しょうゆ、味噌など何でもそろっていた。、日本からいろいろたくさん持ってきたがすべて無用だった。昼食は長沙では有名な餃子屋に案内され、おいしくいただいた。しょうゆ、りんご酢、ヨーグルトなどを買い、学校に戻る。

●先生から「みんなの日本語４２課から」と「日本語会話中級」を担当して欲しいといわれる。週６コマから５コマに減らしましたと言われ「４２課からはしんどいな」と思ったが、わがままはいえない状況で快諾した。しかし案の定後に苦しむこととなった。ヤマサ日本語学校の教師養成講座の同期生には大いに助けてもらうこととなり、感謝に堪えません。夕食はお腹のこともあり、やはり辛いものは避け、有名な小龍包の店に行った。おいしかったが、中にジューシーなスープが入っていなかったのは少し残念だった。食後湘江のほとりをしばらく散歩する。中国では「散歩」はのんびりと歩くことらしく、私が結構早足で歩くのを見て、彼女曰く。「速歩」はおかしいという。「そんな速さで歩くと何かあったように思われ恥ずかしい」と。「う～ん・・・」という私。彼女と別れ、タクシーで宿舎へ帰り、翌日から始まる授業の準備をする。始めてみるとこれが難問の山。焦る。結局午前２時半までかかったが未消化だ。そのまま授業突入か。暗澹たる気持ちで床に就く。

８月２８日

●月曜日正面に立つと一斉に学生が起立した。何事かと思うと「先生おはようございます！」。・・・「う・・・ん」いきなりカルチャーショックに見舞われる。これは中国の習慣かと思い、こちらも「おはようございます」と元気に答えた。見渡すと学生の顔色はよく、目が輝いている。いきなりいい気分になる。入室時の不安が吹っ飛び、私の体内に温かいものが駆け巡る。出欠の確認をしながら名前の読み方を聞いていく。これがなかなか難しく、学生たちに笑いが起こる。また乗ってきた。授業の範囲も今日聞いたばかりでやりようも無い。会話クラスだから、私の自己紹介や質問に終始する。学生達の聞き取りや会話能力の高さにビックリだ。男子学生は一人、あとは女性だ。ここ湖南省はまだ日本企業がほとんど無く、どうしてこんなにたくさんの学生が集まるのか、疑問が募った。授業はまったくできなかったが、学生達の明るさと意欲に気分を良くして第一日目は終わった。終わりの挨拶も当然「先生有難うございました！」だ。一部の学生にどこから来たかと聞いて見たが、湖南省が多いのは当然として、西安、広州、シンセン、河南省、江西省、広西自治区など実に広範囲から来ていることも判明。しかも日系企業で働いた経験者も多いことがわかった。卒業後の進路もほとんど日系企業に就職を希望し、またほとんどが寮生活だ。「毛沢東の生地、湖南省でか。」と不思議な感覚に見舞われる。

●９月４日（月）スパー買い物ヤマサ日本語学校の同志伊藤さんから参考書を送ってもらうことにした。たくさん持ってきたつもりだが、いずれも使いづらいものばかりだった。伊藤同志に感謝感謝だ。午前中の授業に、私より少し送れて長沙に来た野村朝子さんが参観に来た。授業を見てもらうことは未熟な私にもいいことで快諾した。見られることについてはしっかりヤマサ日本語学校で体験しているから抵抗もない。「会話」授業のテープを流して見たが学生はほとんど聞き取れないようだ。思案の挙句会話のフレーズを私が読んで聞かせることにした。フレーズをさらに細かく切って読む。復唱させる。レベル的には少しばらつきがあるように感じた。午後と、日用品の買出しに李行さんとスーパーに出かける。面白いことにスーパーでは、かばん等の持ち込みは禁止で入り口のロッカーに入れる。出口ではレシートに係員がペンでチェックを入れる。厳重だ。「なぜこんなことを」と聞くと「万引きが多いから」と・・・「う～ん異文化」。

●昼、野村朝子さんも着任して、二人そろったので、市内の高級レストランで歓迎会を開いていただいた。校長先生ご夫妻、ホウ先生、周先生、李先生、学生の李行さん、それに野村先生と私の８人だ。昼というのにレストランは大変な客入りだ。駐車場も車がずらりと並んでいる。ここ長沙では、昼休みが２時間もあり、時間がたっぷりあるということだ。初めて見るよな高級料理がずらり。サーモンの刺身までわさび付で登場し恐縮する。しかしおいしい料理をたっぷり食べて飲んで、午後また仕事とは。「う～んこれまたまた異文化なり」。

●９月１６日（土）

**岳麓山ハイキング**今日は岳麓山へ学生達とハイキングに出かけた。正式には「岳麓山風景名勝区」という市民憩いの公園だ。学生９人と**野村先生**、私の１１人だ。私の担当するクラスの学生が一人もいなかったのは少々さびしくも思ったが、後で知ったことに呼びかけが徹底しなかったようだ。学生達の底抜けに明るい声に押されてバスに乗る。実は長沙に来て初めてのバス乗りだ。興味深い。バス賃１元（１５円）。かなり使い込んだバスで、しかも運転はかなり荒っぽい。歩行者ももタクシーも、自家用車もみんな自分中心だから交通ルールもあって無しが如し。ブレーキはしょっちゅう踏まれるから、乗客はいつも踏ん張っていなければならない。座席はプラスチックで硬い。腰がすべり出すからいつも取っ手をしっかり握って自己防衛だ。乗客は当たり前のことのように平然としている。程なく橘子州大橋（第一橋）を渡る。大河、湘江を始めて渡る。感動だ。ここ岳麓山は湘江をはさんで市街地の対岸に広がる景勝地なのだ。山麓には大学が集中し、学生であふれかえっている。町並みも新しく、プラタナスの街路樹がどこまでも続くお洒落な町だった。湖南師範大学、湖南大学、中南大学と続く。いずれも赤い布に誇らしげにスローガンや歓迎の横断幕を掲げ、新学期を迎えた雰囲気を演出している。足早に歩く学生の姿は、現在の中国の意気込みそのものだ。肩を丸め、だらだらと歩くことをよしとする日本の大学生とは大違いだ。日中の違いは何なのかフッと思いをめぐらす。●バスを降り、登山道入り口に向かって歩き出した。湖南大学のフエンス沿いにゆるい坂道を上る。と、ものすごい光景が目に飛び込んできた。何と新入学生の軍事訓練だ。はるか学舎が霞むほど広大なグランドを埋め尽くすほどの学生が訓練を繰り広げていた。もちろん私には経験は無い。男子はもちろん、女子学生も全員だ。全員が濃緑色の軍服に身を包み集団行動訓練だ。期間は分からないが相当長く続くらしい。「私もしましたよ。厳しかったですよ。」と同行した女子学生が笑いながら、しかしどこか誇らしげに言う。もちろん、急迫した戦争があるわけではないが、正直戸惑いを感じたことは事実だ。しかし全身に力をみなぎらせて歩行する光景に中国の底知れぬパワーを見た思いがした。程なく登山道の入り口にかかる。そこにはまたまたすごいものが目に入ってきた。毛沢東の巨像だ。湖南省は中国革命の拠点として、数々の革命家を輩出したことで知られる。

●カルチャーショックを感じつついよいよ岳麓山に入る。入園料を払い、楽しいハイキングが続く。かわるがわる学生が話しかけてくる。日本語の学習に熱心だ。あせばむほどの暑さだが緑の登山道はすがすがしい。途中の休憩地で三度目の衝撃が襲う。何と日中戦争で中国奥深く侵攻した日本軍に勇敢に戦い戦死した軍人や民衆の戦功を讃える大きな石碑が建っていた。かなりのハイカーが石碑を読んだり、語り合ったりしている。一日本人として緊張感と胸の高鳴りを覚える。１９３１年９月１８日、柳条湖事件をきっかけに満州事変（中日戦争）が勃発し日中全面戦争となる。以後１５年にわたって悲惨な戦争が続いたが、その爪あとはここ長沙にも実は色濃く残されている。別の烈士公園には、日本軍に抵抗して戦死した戦士（烈士）が顔写真入で讃えられている。学生達は私の胸の痛みを察したか、そのことに何も触れ無かった。

●**１０月２日（月）凰風張家界（右の写真）から列車**、チャーター車（ハイエース）と乗り継ぎ、ここ凰風（ホンホアン）に着いたのは夜の９時半だった。鉄道駅・吉首から凰風間までは１時間半ぐらいかかる。中国の夜道は暗い。行きかう車も少ない。真っ暗な並木道をひたすら走った。トヨタのハイエースは長沙でもよく見かける人気車だ。私も日本で愛用しているので懐かしい。それにしても今日はハードな１日だった。野村先生が風邪気味でへばり気味なのが気にかかる。夜の凰風は言葉に表せないほどノスタルチックな町だった。猫族（ミャオ）の町、二度と訪れることの無い異国情緒たっぷりの町だ。川べりには木造の瀟洒な旅館が果てしなく続く。入り組んだ路地をガイドに案内されてひとまず旅館に入る。

●　**夏の凰風**は若者の町だった。青年男女であふれかえっている。反対側の川べりには無数の土産物屋や食堂が立ち並び、否が応でも私の心を高ぶらせる。私の部屋は木造の３階だった。ベランダに出てみると赤や黄色のネオンや赤いちょうちんがきらきらと川面に浮かび、夜風が気持ちよさそうに川筋の柳を揺らしていた。ほどなく**野村（写真右）**・李行さんがやってき**３人でしばし夜の凰風を眺めた。**湖南省のしかもこんな奥深くにこんなにすばらしい町があるのかと、言葉も出ないほど美しい町だった。明日が楽しみだ。夕食には遅すぎる時間だが私達は食事に出ることにした。もちろん車は通れない狭い路地がくねくねと続く。こんな時間だが路地は人でいっぱいだった。ガイドの勧める食堂に入る。新鮮な魚が食べたいと言うと、李行さんはナマズを注文したようだ。大皿に尻尾がはみ出しそうな巨大ナマズだった。子供の頃、魚つかみには憧れの魚だったが今日まで食べたことは無い。●彼女は「美味しいよ」と笑う。野菜料理にナマズ料理だ。用心しながら一口つまんでみる・・・・。美味しいのだこれが。ぷりぷりした肉感と皮のぬるりとした食感がいかにも栄養たっぷりを思わせる。ビールで乾杯！。ハードな一日に会話の花が咲く。

そして、ほどなく二胡の流しのお兄ちゃんが入ってきた。哀愁漂う二胡の音色に酔いしれる。思わず１０元を差し出す。するとお兄ちゃんは私の隣に座って演奏しだした。サービスに３曲演奏するという。他の客も会話を止める。店の店員達も聞き入る。至福のひと時だった。　余韻に浸って帰ろうと飯代を払おうとした。すると李行さんが突然大声を張り

上げた。何事か。料金は１１５元（１７００円ほど）だった。３人で名物料理、凰風の生きた大ナマズ料理、野菜２皿、ビールにご飯だ。一人６００円弱。日本人の感覚ならまだ安いと思うだろう。しかも夏の凰風は観光客の押し寄せる絶好のかきいれどきだ。**写真は範例先生を鹿児島に迎えて４名で記念写真です。**➡李行さんの顔に似合わない粘りの交渉が続く。店の主人も出てきて交渉だ。中国語の会話だから分からない。李行さんは１００元渡すと一歩も引かないのだ。若い女店員が主人に報告する。あきらめたようだ。１００元でケリ！。・・・。あとで聞いたが、「最初に値段を言わなかったから、向こうの間違いだ。ナマズが１００元とは聞いていない」というのだ。高すぎると。「長沙にもナマズ料理がある。比較して高すぎる。値段も聞いていない。だから私はナマズを８０元にした。」と。う～んあっぱれ！李行さん。「君はすばらしい奥さんになる」と褒めた。実はこれも後で聞いた話だが、李行さんにはもうひとつ密かな怒りがあったという。それはガイドのことだ。どうも凰風のガイドは月給１０００元の他に案内する店で客が買い物をすると、ちゃっかりバックマージンを要求しているというのだ。だからその分安くさせたと。・・・またまたそのしっかりぶりに感服だ。「小李！、君は何とすばらしい娘か。聡明聡明！」と叫んでしまった。**範例先生と赤塚晴彦副会長と・・**

## ユミッペの長沙日本語教師

私は今年、日本語教師として長沙市に派遣されることになっています。来月下旬に出発予定で、現在日本語教師の勉強中です。そろそろ準備を始めなければいけないのですが、困ったことに、何から準備すればいいのかわかりません(_;こんな何も知らない私が、大石先生や竹下先生ほか様々な方々からご助言をいただき、どのように準備を進め、無事に出発できるか掲載していきたいと思います。写真は去年、京都に行ったときのものです。職人さんに目の前で大好きな和菓子を作ってもらいました?2006/02/08

**ビザが届きました～!(^^)!**無事にビザが届きました。自分で申請したおかげでだいぶ安い手数料で取得することができました。福岡までの交通費はかかりましたが…^_^;でも中国に行く前に仲間たちに会っておきたかったので没問題です！そういえば、悩んでいた上海で一泊するかどうかの件ですが、大石先生のお友達に上海を案内していただけることになったのです＼(^o^)／うれし～＼(^o^)／ということで、18 日に鹿児島空港を出発して、上海に到着後一泊して、翌 19 日に晴れて長沙入りということになりました。今回の渡中に際して、本当に多くの方々のご助力をいただきました。大石先生はもちろん、竹下先生、赤塚先生、赤塚学園日本語教育科の先生方、グローバル深栖さん、東方航空の喬支店長、バイト先ＹＡＭＡＧＵＲＡのオーナー夫妻、他応援してくださっている全ての方に心から感謝しております。そして、誰よりも心配しながらも、快く送り出してくれる家族に感謝しています。少しでも心配をかけないように、無事を知らせる意味でもこのページをできるだけ更新していこうと思います(^・^)18 日は上海が雪のため、上海行きの飛行機の到着が遅れ、ちょっと慌ててしまいました。こういうことは中国ではよくあること！そうわかっていても、**上海で待っている大石先生のお友達、リリーさんのことを思うとやっぱり慌ててしまいました。14：50　鹿児島空港発**

**16：30　上海浦東空港到着**
17：10　リリーさんと会い、市内行きのバスに乗り込む
18：15　リリーさん宅到着　荷物を置いて、お茶をいただいて一服
19：00　テレビ塔を前に夕食　南京東路、新天地を散
21：30　帰宅上海は本当に高｢ビルやマンションが多いです。日本では、高層マンションといったら、現代的

でおしゃれなビルを思い浮かべますが、中国にはものすごく高いマンションなのに、お世辞にも綺麗とは言えないものが多いです。リリーさんのマンションも外見はきれいではありませんが、部屋の中は広くて、おしゃれな洋風造りでした。リリーさんはとても親切な上に、日本語も上手で、何一つ困ることはありませんでした。そして、リリーさんの家にはお姉さんとその息子さんが来ていて、とても楽しく、快適な時間を過ごすことができました。19 日は飛行機の時間が心配で、私は早く目が覚めましたが、リリーさんが起きる気配がなかったので、二度寝。16：20　長沙に無事到着　範先生と会い、学校へ向かう 17：30　学校に到着
18：50　先生方に豪華な歓迎会をしていただく 22：00　範先生宅に到着

●今日は２年生のクラスで、教科書の中に「着物」と「雪祭り」という単語が出てきたので、着物の種類や日本の祭りについて、写真や私の下手な絵を交えながら説明しました。全て日本語だったので理解できたかな～と少し不安だったのですが、劉先生によると、生徒たちはとてもおもしろかったと言っていたそうです。しかも、その話がそんなに面白かったのか、「日本事情」の授業も私に担当して欲しいと今日生徒たちから要望があったそうです。日本語で説明するのに、理解できるのか心配ですが、生徒たちは「聞く」練習にもなるからいい、と言っているそうです。私もできるだけ難しい言葉は中国語で説明できるように準備して臨みたいと思います。生徒たちが日本のことにもっと興味を持ってくれたことはとても良いことですから、私も頑張りたいと思います。

●夜はあの湖南名物、臭豆腐を食べに行きました。中国に臭豆腐という物があるのは知っていましたが、湖南名物だとは知りませんでした。私たちが行ったのは、**老舗の「火宮殿」というお店**で、怪しげな路地を抜けた先にある古風で豪華な中国の屋敷のたたずまいです。店に入るとすぐに、何やら黒い怪しげな物体が目に入ると同時に、食事をする場所では嗅いだこともないにおいがしてきました。それがまさに臭豆腐です！どのテーブルにも臭豆腐が並んでいるので、すぐにそれだとわかりました。お味の方は・・・これまたおいしい！においとは反して外はサクっとして、中は味のしみこんだお豆腐で、とてもおいしかったです。ただし、食べる時に一緒ににおいを嗅いではいけません!!私はこのにおいをアレに例えました。アレとは・・・動物園の糞のにおいです！・・・なぜ臭豆腐といわれるか、わかっていただけますね。衝撃的な体験ですね。動物園のにおいがする、おいしい食べ物・・・だから中国は面白いですね☆

●毎日、本当に中国は面白いな～と思います。日本にいるときから人間観察は好きでしたが、いま学校の行き帰りに車から眺める中国の生活風景は本当に飽きません。朝からみんな本当に元気で、公園の鉄棒に逆さにぶら下がったまま身動きしない人や、遊具でひたすら鍛えている人もいます。おなじみの太極拳をするお年寄りのグループもたまに見ます。道路上でも、中国でしか見られないカーゲームが繰り広げられます。衝突しないのが不思議なくらい危ない場面に出くわしたり、すでに事故が起こった後の現場に出くわすことも少なくありません。私は自分で車を運転するのは大好きですが、中国でだけは絶対に運転したくありません！！

2006/05/02 **隆回３日目!!**

●朝食は街の小さな店で、蒸し餃子を食べました。これが、おいしくて一つずつ味わって食べていたので、ちょっと二人を待たせてしまいました。前日の「金剛」のラストを観終わったあと、陳さんの家へ遊びに行くことになりました。なんと陳さんの家も、お医者さん。しかも、これまた隆回一の病院の院長。

川沿いの景色のいい場所に自宅のビルがありました。部屋に入ってまず目に入ったのは、きれいな家族の写真。お母さんはウエディングドレスを着て、陳さんもいつもの眼鏡をはずして、きれいにお化粧をしてドレスを着ていました。お父さんまで化粧をして、芸能人の写真のよう。中国では、このようにキレイに化粧や髪の毛もセットしてもらって、きれい衣装を借りて、芸能人のように写真を撮ってもらう「芸術写真」というものがとても人気があります。その陳さん一家の写真を見たり、自宅のテレビでカラオケしたりして過ごしました。

夕方、禹雄くんのお父さんが迎えに来て、皆で隆回一の４星ホテルへ向かいました。そのホテルの、豪華な一室に招待されて、なんとそこに隆回県の県知事がいらっしゃいました。（ちなみに中国では、日本とは逆で、市の下が県です）大きなソファーに座って、その贅沢な雰囲気に浸りながら待っていると、やはり豪華な料理がテーブルに所狭しと並べられました。北京ダックまで味わうことができて、本当に大満足でした。

●私が最近はまってる中国の歌「曹操」が新曲のため、まだ入っていなかったので、最近覚えたてのＦ．Ｉ．Ｒ．というグループの２曲を歌いました。中国のカラオケで中国の歌を歌うのは初めてだったので、とても緊張しました。他の人たちが、楽しそうにたくさんの歌を歌っているのを見て、私ももっと中国の歌をたくさん覚えようと決心しました。そして、時間が経つのは早いもので、その日も帰ったのは 12 時ごろ。

●ゴールデンウィークが終わったばかりですが、さっそく次の旅行の予定が決まって、今からとても楽しみです。今度は「鳳凰」です！生徒達が誘ってくれて、以前から行きたいと思っていた場所だったので、二つ返事でＯＫしました。生徒達だけでなく、劉先生たちも一緒に行くことになったので、安心だし、本当に楽しみです。詳細が決まったらまたお知らせします！

●ところで、中国の女性は写真を撮るとき必ずポーズをとって、自分をかわいく見せるのが上手です。日本人からすると、ナルシストとも思えますが、自分がかわいく見えるポーズをちゃんと研究しているようです。私も、周先生に教えてもらって、一人でポーズをとって撮ってみましたが、とても恥ずかしくてここには載せられません（笑）。ミャオ族の伝統家屋やお土産屋の通りをぬけて、昼食を食べに行きました。長沙でなくとも、やはり湖南省。料理は私には辛いものばかりでした。でも、みんなが気を使って少しでも辛くないものを注文してくれたので、なんとか飢えずにすみました（笑）。

●午後はまた川に沿って歩いていき、船に乗って遊覧することに。２隻の船にわかれて乗ると、生徒達は大はしゃぎ！お互いに水をかけ合って、傘でガードするというとんでもない状況に。それにも飽きたら、船から足を投げ出して涼んだり、船頭さんの歌を聞きながら水辺の風景にゆっくり浸りました。小船での鳳凰クルーズの後は、女性の大好きなショッピング！観光地だけあって、たくさんのお土産屋があり、しかもビックリするほど安いので、もう女性陣の手はとまりません。私も日本へのお土産に小物や唐装をたくさん買ったので、生徒達がビックリしていました。

●お土産屋街をくまなく歩いているうちに、バスの時間がせまっていたので、急いでバス乗り場へ。真っ暗になった山をまた縦に横に揺られながら吉首へ戻りました。「吉首の張家界」と呼ばれていると聞き、期待が膨らみ

ました。またまた荒れた山道を進むこと１時間弱。途中でバスが止まり、何事だろうと思っていたら、どうやらバスに乗ったまま入場料を払わなければならない様子。でも、王さんが吉首大学の学生証を持っていたので、６０元のところを、なんと１０元で入ることができました。

●前日の鳳凰より小さなみやげ屋街をぬけると、そこには高い山々がそびえたっていて、人を圧倒する雄大で美しい自然がありました。でも、どこかで見たことのある、懐かしいような感じもしました。それもそのはず。徳ハンは**私が好きな中国映画『山の郵便配達』の舞台になった場所なのだそうです**。（しかも鳳凰は『芙蓉鎮』の舞台だそうです。この地域は私にとっては夢のような場所です。映画で見て、感動させられ、一度この目で見てみたいと思っていた景色がそこにはありました。そして、その大自然の中にの、歴史を感じさせる小道をずっと辿って行き、まず山奥の滝の連なる場所へ向かいました。思っていた以上の急斜面があり、みんな苦戦しましたが、努力の甲斐あって、絵に描いたように美しい自然を体感することができました。やっぱり自然の真っ只中にいることはとても気持ちがいいですね。その山奥から少し戻って、今度は大きな崖から大きな滝が流れる場所へ行きました。そこでは、なんと、滝の裏を歩くことができてようになっており、大滝の細かい水しぶきを浴びながら、滝を裏側から眺めるのは、本当に気持ちが良くて、まるで山水画の中に自分も入り込んだような気分でした。

●帰国まで１ヶ月をきったので、また生徒達とどこかへ遊びに行きたいな～と思っていたら、木曜の放課後に０６０１の生徒達が急に「明日バーベキューに行きましょう」と言ってきました。急だな～と思いながらも、前から行きたかったので快くＯＫ!!さっそく材料や道具の手配を話し合い、金曜の午前の授業終了後、生徒達は、肉を切る係や野菜を洗う係に分かれて準備をしました。実はこのクラスにはプロのコックさんがいます。肉の下準備は彼がさすがの腕前で完璧にしてくれました。

●生徒もみんな**烈士公園でのバーベキューは初めてだったようで**、広い公園内からやっとバーベキュー場を見つけ出しました。そこにはたくさんのバーベキュー台と椅子が並んでいて、まずどこに陣取るかでいつものけんかとも思える話し合いが始まりました。なにせこのクラスは３０人以上のいい大人が集まっているので、何をするにもみんな自分の意見というものがしっかりしています。それでもなんとか皆のお眼鏡にかなった場所を見つけ出し、二つの台に分かれて座りました。●まずは炭に火を点けるのに一苦労。でもそこは男の子達が活躍してくれて、授業中いつも眠そうにしている子もやっぱり男の子なんだな～と見直しました。一人づつ串を持って、自分の好きなものを刺して焼いていくというやり方。材料は、豚肉、牛肉、ソーセージ、茄子、ピーマン、きゅうり、ニラ、豆腐、レタス、えんどう豆、マントウ、そして忘れちゃいけない唐辛子、などなどたくさん準備しました。茄子やピーマンを大胆にもそのまま刺して焼くと、とてもおいしくて、特にコックさんが仕込みをしてくれた肉は格別においしかったです。いい大人が３０人も集まってもう大騒ぎ！！勉強で溜まっていたストレスを発散するかのように、みんな大はしゃぎで焼いて、食べて、写真を撮って、っともう勢いはとまりません。焼けた肉や野菜を生徒達がどんどん私の器に入れてくれて、食べようと思ったら、**「先生！一緒に写真を撮りましょう！」と、食べるのも写真を撮るのも大忙し・・・。**

●「先生！今夜一緒に開幕式を見ましょう！」と誘われ、ワールドカップは私もとても楽しみにしていたので、初めて生徒の部屋にお泊りすることになりました。覚悟はしていましたが、シャワーはなく、い

つも生徒達がしているように、バケツに沸かしたお湯と水を入れて、タオルを使って体を流す、というやり方に少し手間取りました。でもバーベキューで汗びっしょりだったので、それでもとてもさっぱりしました。トイレも水は流れないので、一度使って溜めておいた水を再利用して、それで流すのです。招待所に泊まった経験などから、もうそういうやり方にそんなに抵抗はなくなりました。ケイジの科技日語学院教師日記

●大石先生、先生の家、とても古いです。でも一番のいいところは、学校に近い。すぐ隣です。街の中です。初めて見た我が家は４５年前、初めて東京に行った時新しい学生生活を始めた時と、どう比較していいか？いい言葉を見つけ出せないところです。部屋は天井は高いし狭苦しさはないのですが、部屋に辿り着くまでの階段付近や窓の建て付けが悪い。鍵も日本では住宅ではあまり見かけませんもう殆んど窓の錠は錆付いて化石化している状態です。まあ綺麗好きな人が見たら口を覆うかもしれません。僕は平気です。

●今日始めて、実は洗濯をしました。長沙の気温はなんと２６度だったそうです。結構溜まっていた洗濯物を洗濯機を使って洗いました。わが家でしたことが無いのでダイヤル操作が分かりませんでした。でも、何とか脱水まで上手くいきました。干そうと思って脱水機をあけましたが入れるかごがありません。ナイロン買い物袋に入れて干し場に行きました。・・・なんと、干すロープが２メートルの高いところにあるじゃないですか。「いったいどうするの？」答えは、ハンガーにかけて鍵棒で持ち上げるのでした。でも、シャツはいいとして１０足もある靴下は「どうすればいいんだろう？」ちなみに洗濯の排水はトイレのタイル場に流します。従って、いつも洗濯の度にタイル場は洗浄されるというわけです。下の二人の男性（中年）はぼくの日中友好協会の活動の中で忘れ難い本当に思い出の一杯残る大切な友人です。塩田理事と加治佐先生です。

●この家で一番困るのが台所の洗い場です。狭すぎて顔を洗うのに苦労します。中国の洗面所は・・・と言うわけではなく、これは、あくまで僕の今の生活環境のはなしです。今、長沙市も目覚しい発展の途中です。近辺にも日本に劣らない高層マンション群が一杯建築中です。リカバリーこそが目的の僕ですから、バックトゥーザパーストこそ願ってもないことで範先生には感謝しているところです。

●午後７時頃、角のパン屋に明日の朝のパンを買いに行ったら王俊クンに会った。「先生、何処へ行くのですか？晩御飯は食べましたか？」僕は昼が遅かったので夜は抜こうと思っていたが彼とは一度話しをしてみたかったので、「何処か美味しいところへ連れて行ってくれる？」と言うと、「いいですよ。」と言う返事だった。彼の連れて行ってくれた食堂はテーブルが５つほどのお世辞にも綺麗とはいえないその辺の庶民の食べ物屋だった。ビールを１本注文し、落花生をつまみにいろいろ語った。彼は湖南の出身でこの４月に本当は横浜の大学に留学するつもりだったらしい。以下中国の大切な朋友たち。

記念誌に掲載しないけど黄興と滔天のあの頃に興味のある方は読んで見てください。大石

## 鹿児島県日中友好協会設立２０年鹿児島市日中友好協会設立４０年

### 【黄興&滔天の二人旅】―1909（明治 42 年）南洲墓地参詣（創作編）

**プロローグ**

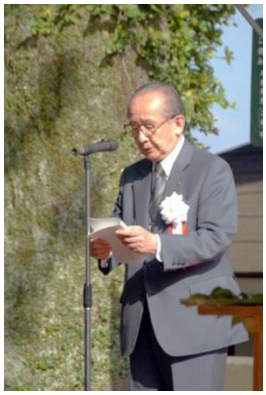
半年後に開催予定の鹿児島市日中友好協会の記念式典を待たず海江田さん（鹿児島県・市日中友好協会名誉会長）は令和７年(2025 年) 5月5日（月）午前１０時に肺炎のため市内の病院で亡くなられました。97 歳でした。

数年前から、海江田さんは「４０周年記念誌用に自伝とか、本みたいなものではなく協会の歩んだ道というかほんとうの軌跡を書いてみたいとことあるごとに話していました。

実際にご自宅におられる時は下書きを書き始めていたようでした。

協会にある資料を纏めながら協会企画部でも執筆記録のお手伝いを今年から始めたところでした。・・・

友好都市である長沙市と鹿児島市にゆかりの深い黄興については特に思い入れが深かったようでした。



**海江田さん**が会長として本格的に鹿児島市の日中友好協会の活動を始めたのは 2002 年の夏と記憶しています。

その年は長沙市と鹿児島市の友好盟約２０年記念であり、「日中国交 30 年記念でもありますね」と横にいた磯さんに語っていました。

海江田さんがこのあとの２０数年間にわたって私たちに繰り返し語っていたことは・・・

・・・・昭和 57 年（**1982 年**）鹿児島市と長沙市の友好都市の盟約が、両市の市長一行の相互訪問により締結の運びに至った。

それから十年後の **1992 年**に 10 年振りに 2 度目の長沙訪問から帰ってロータリークラブで長沙の話をしたところ島津修久氏（島津家 32 代当主）から「**長沙で黄興の旧蹟を見て来られましたか？」と問われた。**私が「いいえ」と答えると**「友好都市なのにあまり黄興にはあまり関心がないですね」と不満げにつぶやかれた。」**私は肝心なもの（黄興が長沙の出身であったことに気づかなかったこと）、を見落としてきた不明を恥じ、湖南師範大学が出版した黄興研究誌を取り寄せた。この中に東京学芸大学の中村義名誉教授の論文「黄興と日本」が掲載されており、黄興が大変な西郷南洲の崇拝者であったと記述されていた。この後 **2002 年 12 月 10 日**に開催された（ギリギリ間に合った）日中国交 30 年記念イベント（中村義先生による）『中国辛亥革命の志士黄興（長沙市出身）と西郷南洲』　主催　鹿児島市日中友好協会である。

中国と日本の両方側からの見方、捉え方、つまり、中国は当時の明治維新をどういう風に見ていたか？西郷を始め、当時の維新の志士たちをどう見ていたのか ー方日本人は湖南をどう見ていたのだろう？

いろんなことが文献からわかって来た。

〇**梁啓超**は変法前夜、現状の改革を志向しその鑑を隣国日本の維新改革に求めた時、その原動力に『侠の精神の存在を認めた。かくして、明治維新―西郷像―中国近代化への関連が『侠の精神』を媒介に成立し、変革改新目指す青年、知識人に共通のものになった。それが日本への留学生の増加や関心の深まりにもなつた。

〇湖南は尚武を好み、薩摩の風がある。日本建国は薩摩に依存した。支那も湖南に頼らんとする。中国近代百年の政治変革の歴史を見る時湖南省の占める位置は大きい。

〇民報（中国同盟会機関誌）創刊１周年記念大会が１９０６年１２月２日東京で行われた。

主導者側として黄興が挨拶した。その一節に「日本の革命で西南の役の西郷隆盛が率いた義軍は鹿児島私学校の学生である。日本の革命事業も学生が担っている」とある。

文章を見て西南戦争に好意的であり、ここでの集会は「民報」発刊１周年を迎えて、革命の気運を盛り上げ、参加した留学生へのアジテーションであったろう。

**○１９０９年（明治４２年）１月１１日、宮崎滔天の案内で、黄興は鹿児島を訪れ、西郷の墓参りをした。**

　以上のようなことが一般的に日本の近代史における黄興を取り巻く評価ではないだろうか？実はこの後、黄興が南洲墓地を参詣し、そして詠んだ詩文の解釈でひと悶着が起きるなど・・・考えもしなかったことである。

２００２年１２月１０日の中村義先生の講演の際、記憶に残ったことがあった。それは講演の最中だった。

**二人は墓参りをした後・・・**

「たぶん、黄興と宮崎のふたりは、鹿児島市内の、どこかに泊まった筈ですが・・・・、そこのところまでは、書かれていません。と」、中村先生が仰いました。ところ、すかさず聴衆のどなたかが手を挙げて「二人は鹿児島には泊まらずにそのまま歩いて熊本方面に向かいました」と・・・

（その声が今でもなぜか耳に残っています）。その後、黄興の鹿児島へ来た時の状況になぜかとても興味を持ち始めました。　ふたりはどんな格好をして鹿児島まできたのだろう？　その頃の鹿児島の町や田舎道は・　乗り物は何だったのか・たぶん歩行だろうか？

本当に、南洲墓地で詩を即興で作ったのだろうか？　何故？残っていないのか・

このあと２０１１年に大きな催事？？がありました。そして黄興の南洲墓地参詣が蘇る時が又来ました。

**黄興が日本に来た頃（２回）の日本事情と黄興事情についてちょっと寄り道してみると・・・・・・**

１９０２年（明治３５年）**２８歳**のとき３１人の日本への留学生の中でただひとり湖南人として初めて選ばれて日本に来た。柔道の嘉納治五郎が創設した「弘（宏と書いている文書もある）文書院」で学んでいる。多分、今の日本語学校？？１年半ほどここで学んでいる。留学中に湖南出身留学生による土曜会を組織して湖南を中心とする反清の革新的な青年の指導者となった。

１９０３年６月に黄興は一旦長沙に戻り、長沙の明徳学堂で学生たちに歴史や体そして革命を宣伝した。ここで１１月に（**劉揆一・陳天華・宋教仁**らと）華興会を結成して会長になった。そして翌年（１９０４年）の１０月に長沙で挙兵を図ったが未然に漏れて日本に亡命した。

この頃の日本事情はというと、日露戦争への備えを急いでいた。

１９０２年の歴史に残る大事件と言えば陸軍の軍事訓練の青森の八甲田山雪中行軍訓練遭難事件だろう１９９名の兵士が亡くなり生き残りは１人だったとか、映画を観たことがある。

黄興と滔天の出会いについては二説ある。一つは**１９０４年１１月下旬**，黄興が神田の広市場楽屋に浪花節出演中の滔天を訪ねたという説と、**１９０５年４月**、黄興が長継と共に神田の立花亭に滔天を訪ねたという説、宋教仁の日記によると前者の方が事実に近いと思われる。

滔天自身の記憶では、「毎晩寄席で浪花節を語っていた頃、「ヒョット黄興が訪ねて来た。そうしていろいろ話をすると他の書生とは異う。聞くと経歴のある男であったから直ぐに心易くなった。滔天は黄興を日本に知らしめる上でも大きな役割を担った。

（**宮崎滔天と黄興の出会い**ー陳鵬仁　東亜論壇季刊第４５５期　民国９６年３月）

**１９０５年**（日本海海戦～ポーツマス条約）の夏、『**中国同盟会**』を、孫文と黄興は手を結んだ（この出会いは宮崎滔天によると言う説が有力である）。黄興は庶務を担当し、ナンバー２の位置を占めた。
（２９８頁）孫（**孫文**のこと）は世界漫遊をしました。４年ばかりアチラコチラを廻っているうちに、丁度日露戦争の日本海海戦で日本が露西亜の軍艦を撃破したと言う報知を倫敦に要る時に受け取った。それで嬉しくて急行で日本に帰って来た。帰ってみると志那の留学生が一萬人も来て居った。黄興は書生の仲間に伍して、知らぬ顔で革命伝導をして居ったが、
**１９０７年**　黄興の長男**黄一欧**は東京の宮崎家にあずけられて、滔天から「黄坊」と呼ばれて滔天の長男龍之介や次男震作と庭先で剣道に励んだりしていた。
この頃留学生の数は増え続け１９０６年には１万とも２万とも言われた。日本の富国強兵政策に触発されて革命運動への傾気機器きは著しく後の革命予備軍となり革命成功の礎となった。

はなしは飛びますが、安住恭子さんが書いた【『草枕』の那美と辛亥革命】という本に書かれている興味深いその当時の黄興・滔天のお話し（当時の状況をしるうえで）があるので転載してみます。
…明治３８年８月２０日一卓が上京したちょうどその年、孫文ら中国革命家と中国人留学生らによる「中国同盟会」が東京で設立された。
　卓はこの民報社（中国同盟会の機関誌『民報』の編集所）に住み込んだ。卓は三十七歳になっていた。
尚、卓とはこの本の主人公で前田卓（つな）（明治元年一昭和十三年）宮崎滔天の妻・槌の姉である。
・・・・・卓は、２，３人の下女を指揮し、彼ら（留学生）の世話を焼いた。革命家たちの後衛である。

その姿は編集部の中心にいた**宋教仁の日記**にたびたび登場する。日記は１９０４年（明治３７年）１０月３０日に始まり、１９０７（明治４０年）年４月８日までの２年半分が残っている。（途中略）宗は激務と人間関係で体調を崩し、神経衰弱になっていく。そんな宗に対しても親身に世話をする卓の姿がある。（途中略）最終的に宗は卓や黄興の勧めで新宿番集町の滔天と槌夫妻の家に落ち着いた。
こうした卓の姿はいかにも面倒見の良い親切なおばさんだが，民報社での彼女の役割は一種の同志的存在であったと考えられる。
**明治４１年(1908 年)10 月 19 日**、日本政府は『民報』の発行停止を決める。（清国政府の請求が元）この頃、「毒茶・放火事件」が相次いで起こった。警視庁は黄興、宋教仁など民報関係者含め２０名近くを取り調べている。
結論はお金に窮した挙句の内部犯行であり狂言だったという結論である。

こうして長々と安住恭子『草枕の那美と辛亥革命』から引用させてもらったのは、黄興と滔天を取り巻くこの当時の世相を感じ取ってみたいと思ってのことです。
この翌年の**明治４２年１月**に「黄興と滔天の西郷墓地参詣」はありました。

・・・・・・・ここからは、「黄興の道行き」の案内人である宮崎滔天自身の書いた『宮崎滔天氏之談/宮崎滔天氏談』２９８頁一「酒匂純子（西日本新聞社記者）」から戴いた資料による・・・・・転載しながら旅を続けてみたい。
（断り！です。原文を意訳して書きます、自己解釈の注釈も入れながら）・・・・・・以下

「袁世凱から一度使いが来た。（原文は使ひと旧仮名遣いだがすべて現代仮名にします）
袁世凱の使いが京都まで来て、黄興に（袁世凱からの大事な用があるからと）電報がきた。
中国国内においてこの時袁世凱は窮地に置かされていた。それは明治４２年（１９０９年）の１月のことだ。

袁世凱は、日本にいる革命党（トップの黄興）と手を握るより外に仕方がないと思い、その使い（便）を寄越したのだけど、東京まで行かずに、京都から黄興に電報で、京都に来るように打った。
そこで黄興は正月の元旦に立った。（この後原文に近い）・・・黄興はそれ迄支那人の高利貸に責められて、自分の家に行けないで、私（滔天）の内に五十何日か隠れておった。**そこへ電報が来たから、是は良い気晴らしだと云って、元気を出して京都に行った。**

**（余談）**・・・・・多分、『宮崎滔天全集』四巻のなかのどこかに収められているそうだが・・・・・
　黄興は（この頃）中国革命に使う紙幣を作ろうとしたことがあった。
そのため横浜の高利貸から一万円を借りて、ある日本人に造幣を依頼したが、紙幣は出来上がらず、金は返してもらえず、高利貸からの返済要求を逃れるため、とうとう滔天と相携えて九州に「旅行」したことがある。・・・・・・・
これと黄興の鹿児島参りが結びつくかは？？？
（これも余談）・・・１９０９年の東京の世相を紹介しよう。小坂文乃さんという梅屋庄吉の曾孫の方が辛亥革命１００周年記念の年に書かれた本の中に見つけた文章の転載だけど・・・・１９０９年（明治４２年）に国技館がオープンした。
１３０００人収容の日本初のドーム型屋根を持つ建物だった。その広い国技館で梅屋庄吉は映画を上映することを承諾する。
その広い国技館を満員にするために思いついたのが「大西郷一代記」である。(106 頁から 116 頁ほど)当時の東京の映画事情が続く、当時の最大の娯楽であったようだ。

当然、黄興ら中国からの革命家や留学生にも人気だったことだろう。もしかしたら黄興もこの映画を観て、隆盛が僧月照と錦江湾で入水自殺を図るシーンに触発されて鹿児島行きのきっかけに（遠因）になったのかも・・・と身近に黄興を感じてしまう。

話しはまだ続く。・・・・国技館は四方に観客席があるつくりになっている。全員が見やすくするためには、どうしたらよいか。庄吉は，館内の中央に２枚のスクリーンの裏同士を貼り合わせるような形で設置し、２台の映写機で映写することを思いついた。・・・・・・観客は大喜び、興行は大成功をおさめた。

（はなしは黄興道行き滔天日記に戻る）
ところが京都に行くととんでもないことになっていた。肝心の光緒帝が死んでしまったのだ。当時の清国政府事情を語ると長くなるので書かないが袁世凱は光緒帝を頭にあたらしい清国を立て直そうと考えていたのだ。その助っ人に若い革命家（黄興たち）を味方につけたかった。

・・・・・・（**日記**文）・・・袁世凱の方から黄興がその使いと話し合っている時に、使いに向かって「万事手遅れである、過ぎに帰って来い」という電報を打って来た。私（滔天）が立ったのは正月の三日であった。

京都に行ってみると万事手遅れで駄目だという話である。「然し此処まで来たのだから西郷（隆盛）様の墓参りに行こう」と云う。「それは一所に行きませうが銭はあるか、銭はない、どこか借りる處はないですかと云う。
それでは宿に拂いをする金はあるか？「有る」それでは「神戸に行って三上豊竹に借りようではないか？」
と黄興が？云うので、神戸に行って相談したら、三百園貸して呉れた。

（注：明治の１円は今の１万園くらいなので３００円は３００万円ぐらい）ところが大正元年頃だと１円は現在だと１１００円から１８００円と幅がありますが、３００円だと３００倍ですから３３万円から５４万円、こち

らの方が当たっているような気がします）

（又、**日記**に戻ります）・・・・三上は船会社をやっているから、其の船会社の二階に二人で隠れて居った。探偵付きでありますから、裏門から出て鹿児島行きの船に乗り込んだ。探偵先生は九州に行くか、東京に帰るか？どっちかに違いないと思って、宿に来て待ってゐたのですが、船に乗って行ったものですから意外であった。

（**大石注**）この頃の革命予備軍（黄興たち）の動向には官憲（清国の要請もあってか？）が付いていたのでしょうね。まあボディーガード的な感じにみえますが・・・・
（日記）**その為に鹿児島では、探偵の煩いもなく、西郷さんの墓詣りをして、城山を見物した。**

（大石注）この間の文章は実に簡単である。過ぎると言いたい。黄興の思い入れからすると鹿児島に着いて城山に行き南洲神社の階段を上がり愛して止まない南洲翁の墓前に参り、振り返って眼前に広がる桜島を目にした時の黄興の様子・・そして，詠んだ漢詩のくだりが書かれていないのが残念である。

日記には「墓参りをして、城山を見物した」とある。見張りの探偵もいない自由の身なら、西南戦争の跡もまだ生々しく残っている筈、もしかしたら実際は、もっと当時の足跡を辿ったのではないだろうか？

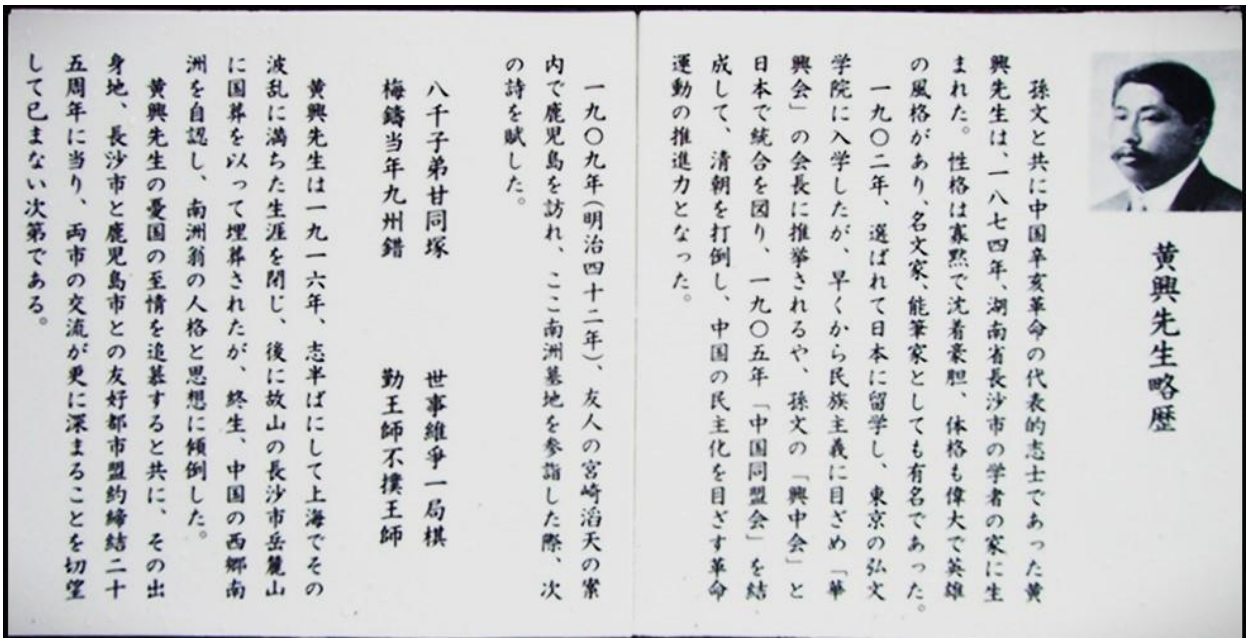
そして、鹿児島になぜ一伯しなかったのだろうか？黄興研究の第一人者である中村義先生も、あの時の講演までは、黄興は鹿児島に一泊したと思っておられた（講演でそう語られ、「その宿の名前までは書かれていないので残念ながら分かりませんが・・・・と語られた時に、観衆の一人の方が「そのまま鹿児島を去りました、と発言した。
もっと知りたい、あっけないほど短い二人の鹿児島市の足取りである。
黄興と滔天の顔をご存知の方も多いのではないでしょうか？
どんな格好をして歩いていたのだろうか？この時二人の年齢は黄興は３５歳（１ｍ６０とセは低いけれど顔や体は西郷さんみたい。
一方の滔天は３才年上の 38 歳、格好は長い無精あごひげに結構大柄な体格である。
城山で近辺の遺跡を巡って鹿児島を発ったのは少なくとも昼過ぎていたと思う。
そこから徒歩で西南戦争で西郷たちの上って行った道を辿ると、加治木から国分を山手にそして霧島連山を超えて、えびの高原方向へ向かったのだろう。
（長すぎる余談でした。滔天の日記『正確には宮崎滔天氏之談 304 頁』
**・・・・それから人吉に逃げる山道がある。今は鉄道がありますが、其の頃には鐵道はない。**（注：今の肥薩鉄道山線現在は河川の氾濫で決壊して休線中再開未定）
**カクトウ（加久藤）越と云う山があって、その山の麓迄ガタ馬車に揺られて行った。**
**山の下の田舎の宿屋に一晩泊まった。**
（注：なぜか？とてもくわしい説明が続く）この辺りに詳しい作家（新名一仁）さんに訊いてみたら、「今のえびの市、当時の真幸村じゃないですかね？」と答えが来た。

黄興は酒は飲まぬが、「非常に愉快ですと云って、鶏を割いて食った。
翌日山へ上って人吉に出て，熊本に行って一晩泊まって、アレから十一里行くと私の田舎の郷里ですから、**其処に行って、私の家に行くと、巡査が張り番をしていたので、初めて発見されて警察の手に渡された。**（注：ちょっと意味が分からない）
**私の家に一晩泊まって長崎迄行って、長崎で暫く遊んで、**（注：借りたお金がたっぷりある）**それから、福岡に**

**出て進藤（喜平太）さんのご馳走で盛んに酒を飲むで**（注：黄興は飲めないはず）**それから東京に帰って来たことがあります。それは丁度四十二年の正月です。**

この後、滔天氏之談は摂政王事件（４２年）（王兆銘）―**陳碧君の話**―の後、黄興はこの年４２年(1910)から４３年（１９１１）、広東（香港近辺）で起義するが伝令違いから僅か３０名の同志で襲撃した。生きて帰るもの僅か３人であった。その時に黄興は指を二本取られた。
その後、中国広東で二つの革命騒ぎを起こす。
後が有名な徐宗漢が登場する４月２７日の『黄花崗挙兵』で映画「１９１１」ジャッキーチェンの映画はこの事件を辛亥革命として撮っている。
黄興３７歳だった。
そして、本当の辛亥革命は１０月１０日の「武昌蜂起」である。
「３０４頁から３０５頁はその時の滔天の感想文で事件を語っている。
そして、時代は下がって**２００７年**（平成１９年）９月に鹿児島市と長沙市の友好都市盟約２５周年を記念して西郷南洲墓地に『黄興先生南洲墓地参詣之碑』が建った。
そして辛亥革命（１９１１年）から１００年を記念していろいろな検証が主に西日本新聞で特集（編集）された。
２０１１年（平成２３年）９月７日の新聞に【孫文紀行９】「中国の西郷」王道求め　墓前の詩　鹿児島市というタイトルの１面特集記事が掲載された。
以下、西日本新聞社記者：酒匂純子さんの記事から・・
・・・せみ時雨が降り注ぐ。　８月の暑い日、西郷が眠る南洲墓地を訪ねた。

階段の途中で振り返ると、桜島が眼前にそびえる。墓地入り口右手の公園には、黄興が参詣したことを記念する碑があった。黄興が墓前で詠んだ詩が刻まれていた。



黄興先生略歴

孫文と共に中国辛亥革命の代表的志士であった黄興先生は、一八七四年、湖南省長沙市の学者の家に生まれた。性格は寡黙で沈着豪胆、体格も偉大で英雄の風格があり、名文家、能筆家としても有名であった。
一九〇二年、選ばれて日本に留学し、東京の弘文学院に入学したが、早くから民族主義に目ざめ「華興会」の会長に推挙されるや、孫文の「興中会」と日本で統合を図り、一九〇五年「中国同盟会」を結成して、清朝を打倒し、中国の民主化を目ざす革命運動の推進力となった。

一九〇九年(明治四十二年)、友人の宮崎滔天の案内で鹿児島を訪れ、ここ南洲墓地を参詣した際、次の詩を賦した。

八千子弟甘同塚　　世事維争一局棋
梅鑄当年九州錯　　勤王師不撲王師

黄興先生は一九一六年、志半ばにして上海でその波乱に満ちた生涯を閉じ、後に故山の長沙市岳麓山に国葬を以って埋葬されたが、終生、中国の西郷南洲を自認し、南洲翁の人格と思想に傾倒した。
黄興先生の憂国の至情を追慕すると共に、その出身地、長沙市と鹿児島市との友好都市盟約締結二十五周年に当り、両市の交流が更に深まることを切望して已まない次第である。

八千子弟甘同塚
世事唯争一局棋
悔鑄当年九州錯
勤王師不撲王師

●「何千という多くの私学校の青年たちが師と仰ぐ西郷南洲（隆盛）と同じ墓地に眠っている●明治維新後の日本の政治や社会はまだ混沌（こんとん）として収まらず、あたかも目まぐるしく変わる囲碁の局面のようであっ

たと思われる／●それにしても悔やまれてならないのは１８７７（明治１０）年、九州に西南の事変が起こりそれが失敗したことだ●もともと天皇を尊敬する勤王の志の篤い西郷南洲の薩摩士族たちは、最初から天皇に反抗してその軍隊を打ち負かそうという考えなどなかったはずだから」（意訳は鹿児島市日中友好協会）

碑が建てられたのは**２００７年９月。鹿児島市と湖南省長沙市の友好都市締結２５周年を記念した**。同協会の海江田順三郎会長（８３）は「黄興が長沙出身だということは後で分かったんです。縁があったんでしょうね」と語る。

南洲墓地近くに建てられた「黄興先生南洲墓地参詣之碑」

ところが、意外なる副産物が鹿児島市の日中友好協会が建立した『黄興先生南洲墓地参詣之碑』のを元に物議をかもしたのである。黄興が思慕する西郷に想い馳せて語った漢詩の解釈にある方が異議を申し立てたのである。
それも後ほど、『黄興の道行き』の落し物である。肝心の海江田順三郎氏は今、もういない。というよりはっきりした答えは（何度も尋ねたけど）答えられなかった。

| | |
|---|---|
| 八千子弟甘同塚 | 幾千もの弟子が師と共に塚に眠る |
| 世事唯争一局棋 | 世事はただ一局の囲碁の争いなり |
| 悔　当年九州錯 | 悔やむは往年の西南戦争の敗北にして |
| 勤王師不撲王師 | 勤皇の師はもとより皇軍の師を滅ぼす意にあらず |

『帝都東京を中国革命で歩く』（譚璐美）白水社より

さて、本題の黄興の漢詩の協会の意訳に対する反論についてこれから語りたいと思う。
原告？？は鹿児島大学の名誉教授で漢文とりわけ漢詩の第一人者との松尾善弘さんである。
２０１８年の２月１０日（土）午後２時から４時まで鹿児島市のサンエール小研修室に於いて、『南洲墓地にある黄興の漢詩について・・』講義を行います！の南日本新聞「広場」広告に（強く）惹かれてて私は聴きに行った。
スマホで内容も録音したし最後に少し質問もさせてもらった。
漢詩の講義は愉しい新しい解釈に感心もした。さすが、漢詩の解釈に自信があるのがよく分かった。
氏は余程解釈に自信があるのか？鹿児島市日中友好協会の訳が気に入らないのか？講演の際使ったレジメの**最後に次の文言を付け加え**た５９頁の本を発行し、私にも２冊贈っていただいた。
・・・・・・・・・・・・・・
◎なぜ市訳のようなでたらめ訳がまかり通るのであろうか。理由は二つある。
一つは訳者の心底に西郷崇拝の念があり、正解の心を覆っているからである。西郷信仰の弊害の最たるものと言えようが、西郷をかくも厳しく批判した黄興が帰国後「俺は中国の西郷だ」などと嘯くことなどまずありえない話である。
二つ目は、訳者が現代中国語に基づかず、従来の訓読法に頼った通弊がみてとれることである。
漢詩の真髄が語音（平仄）にあることを強調する所以である。
さて本に書いた松尾論に戻つて３句と４句をひも解いてみる。
〇3 句。悔＝残念だ（動）　主語は黄興。以下は目的語。　錯＝重大な間違いをしでかす。主語は西郷

　二字の間に、当年=明治十年当時、九州=九州の地が挟み込まれた形
つまり、**３句は「誠に残念だ、当時、九州で大きな間違いをしでかしたことは」西郷を厳しく批判した内容。**
〇七言句は２・２・３字で小休止しリズムをとる。すなわち

〇四句は、「勤王師不、撲王師」と切って読むべきで（市訳）のように「勤王師、不撲王師」と切って読んだ訳にすべきではない。　勤王師＝天皇に忠誠を尽くす軍隊（=西郷軍）が王師＝天皇の軍隊（＝新政府軍）を本気で攻撃しなかったなどと兵士をばかにするような訳をしてはならないのである。

かくして３句と４句を平仄上も語法上も矛盾なく整合性をもって日本語訳した通訳は
・・誠に残念なことだ。　九州のこの地で大きな間違いが引き起こされたのは。
**・・もともと勤王の軍隊（西郷軍）は天皇の軍隊（新政府軍）を討つべきではなかったのだ。**

私は日本語ではなく黄興が南洲墓地で読んだであろう西郷隆盛を偲んで詠んだ詩を中国語に訳した宮崎滔天日記を添えて身近にいる頭のいい多数の中国人に読んでもらった。協会訳と、松尾先生の訳を・・・・・・
みなさん！うーん！と呻ってすぐには答えなかった。協会側のぼくが訊ねているので忖度もあるかも知れない。ただ、はっきり皆さんが言うには西郷を尊敬して止まない黄興が遠い鹿児島市まで墓参りに来て西郷さんをけなすような漢詩を詠むことは絶対にありません！と異口同音に答えた。

わたしも思うに文言の表現法にあるのでは、ある程度はぼかして詠む人に言葉は任したらと思う。想いを言葉にするのは確かにむずかしいけれど。
ただ文言（漢詩の正しい平仄法）に則り過ぎて黄興の人となりを充分理解していない松尾先生の西郷を断罪するような表現は困ったものだと、その点だけ余計な表現だったと思う。

市訳をしたのが中村義先生だったろうと思うが海江田さんは上手に笑いでぼかされていた。「大石さんがぼくの講演に来て何か質問されたようだった」と貴方のこと言ってたよ。・・・と。
講演のあと、松尾先生に黄興のことを教えてあげたいと思い「黄興と西郷」論文を（郵送で）お貸ししたらほどなくお返事をいただいた。
・・・・取り急ぎご返却申し上げます
中村論文のご労作をほんの一瞥しただけで反論する新参などありませんが、以下、３点について疑念を覚えました・・・・・・と、そして、最後に、「願わくば黄興の厳しい西郷批判（漢詩の解釈・意訳に自信あり）と中村論文（西郷傾倒）との整合性がいつの日にか得られんことを。　２０１８・２・１９　松尾善弘拝

同じころ、遠く西日本新聞社のＵ記者さんからも問い合わせが来ました。
〇「早速のご返答ありがとうございます。
実は、漢詩の解釈につきまして、鹿児島大学の・・・・・名誉教授が平仄で研究し直した結果、西郷に同情したという内容ではなく、西南戦争が引き起こされたのは残念だ。もともと西郷軍は新政府軍を撃つべきではなかった逆に批判的に詠んだものだとの解釈を発表されます。
　つきましては、どなたが意訳をされたのかということと、
・・・先生の新解釈に対しての考えなどをお聞き出来たらと思いまして連絡をとらせていただきました。
海江田会長とお話しできるのであればありがたいです。よろしくお願いいたします。　　Ｕ記者

この後、２回ほどのやり取りがありました。そして・・・・・・

〇このたびは大変お世話になり、ありがとうございました。
海江田会長ともお話しさせていただきました。
海江田会長の見解をお聞きし、M 先生の意訳を読んだところ、黄興が西郷を批判したという、M 先生の解釈は少し違うかなと思いました。
黄興は西南戦争に対して残念だったと、間違ったことで、西郷を失ったのは悲劇だったという意味を込めているのではないかと思いました（注：ぼく大石もそう思います）
M 先生の意訳も、西郷を直接批判していると受け取るのは行き過ぎではないかと考え、上の者とも相談した結果、新たな説として新聞で紹介するのはやめることにしました。
歴史解釈の難しさを感じております。
また、お世話になることもあるかと思います。
今後ともよろしくお願いいたします。　　西日本新聞鹿児島総局

追：
〇亡命時代に黄興が頭山満・犬養・古島らを招いて碁会を催したときの話がある。木堂氏が頭山と黄興二人に「乃木は我々も真似できないことはない、しかし西郷は真似たくても真似られるものではない。ふたりとも『誠』の人であることは同じだが、西郷の畑からは乃木は出るが、乃木の畑から西郷は出ぬ。詮り乃木は小乗で西郷は大乗だと言うと黄興は飛び上がって「その通りです」と喜んだ。

美国。

10月3日（八月二十）《民吁日报》在上海创刊。11月19日，十月初七）被封。

10月　同盟会南方支部在香港成立，并在广州建立分会。

11月27日（十月十五）　各省咨议局联合大会在上海举行，决定组织代表团晋京请愿，要求速开国会，建立责任内阁。

**1月1日（戊申年十二月初十）　应程家柽电邀，由东京到京都。**

宫崎寅藏说："当时袁世凯的地位告危，不得不同革命党携手合作。这位特使没有到东京，电报是在京都打的。黄兴是元旦那天到京都去的。那时，黄兴正被支那的高利贷者逼债，不能回自己家里，在我家躲了五十多天。电报打来，他说，'这是出去散散心的好机会'，便于元旦那天，鼓起勇气到京都去了。"①

**1月3日（十二月十二）　电邀宫崎寅藏至京都，共商革命进行方略。**

"接黄兴邀请电，由东京到京都，寓于郊区下鸭村程家柽宅。黄兴、宋教仁在逗留中（程据说系受袁世凯所派遣，与革命派来往）。"②

"正当黄兴和特使谈话之际，袁世凯给特使又打来电报说，'一切已晚，速归。'结果，黄兴算是白到京都一趟。他不想马上回来，便给我打来电报，叫我也到京都去一趟。于是，我

①《宫崎滔天全集》第四卷，第303页。
②《宫崎滔天年谱稿》，载《宫崎滔天全集》第五卷，第693页。



于一月三日也来到京都。黄兴对我说：'一切已晚，大失所望。'然而既然来到了这里，就去给西乡扫扫墓吧！"①

**1月上旬　由神户经海路往鹿儿岛，宫崎寅藏同行。②**

**1月11日（十二月二十）　抵鹿儿岛，展西乡隆盛墓。在墓前作七绝一首。诗云：**

**"八千子弟甘同冢，世事唯争一局棋。**
**悔铸当年九州错，勤王师不扑王师。"③**

"我们给西乡扫墓后，游览了城山。从那里有山路可到人吉去（现在有铁路可通，当时还没有）。中间有一座叫加久藤越的山，我们乘马车摇摇晃晃地来到山麓，在山下的乡村旅舍住了一夜。黄兴不会喝酒，但也非常高兴地吃了一只鸡。④

**1月23日（正月初二）　偕宫崎寅藏经熊本返回东京⑤。旋与宋教仁迁居西大久保一五八桃源寓。**

宫崎寅藏说："到熊本住了一个晚上。往前走了十一里路，便是我的家乡。到了我的家，住了一个晚上。第二天到长崎，在长崎玩了几天。然后，我们来到福冈，进藤（喜平太）请我们吃饭，我痛饮了一回。离开福冈便回东京来了。"⑥

①《宫崎滔天氏之谈》，载《宫崎滔天全集》第四卷，第303页。
②《宫崎滔天全集》第五卷，第693页。
③《宫崎滔天全集》第五卷，第693页。　西乡隆盛（1827—1877），日本明治维新时期政治家，号南洲，萨摩藩士出身，倒幕运动的参加者。明治维新时期，领导倒幕联盟，推翻江户幕府，建立以天皇为中心的专制政权。1877年被萨摩藩武士推为首领，举行叛乱，兵败自杀。
④《宫崎滔天全集》第四卷，第304页。
⑤宫崎寅藏1909年2月5日致小泉策太郎函云："……二十三日归京。"载《宫崎滔天全集》第五卷，第365页。
⑥《宫崎滔天全集》第四卷，第304页。